松井田町下増田下原遺跡調査会報告書《1》

群馬県碓氷郡松井田町

下増田下原遺跡

一般県道八本松・松井田線特別道路
改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2001

松井田町下増田下原遺跡調査会

はじめに

松井田町は、中央部を貫流する碓氷川の清流と四季折々の美しさが人々の心を捉えてやまない“県立妙義公園”の山々を南に、西に“妙義荒船佐久高原国定公園”を、西北には“上信越高原国立公園”を有する、群馬県南西部に位置する県内屈指の山紫水明の地であります。

今、町では『和のある、住みよい、豊かな町づくり』・『香り高い文化と教育の町』・『生涯学習の町』を目指し、すばらしい自然と文化遺産に恵まれた周辺観光地と連携し、首都圏へアプローチする都市近郊農業や工業団地造成による工場誘致・既存商店街の施設整備など活力に満ちた魅力あふれる街づくりを進めています。

古来交通の要衝として栄えた松井田には、全国に知られる通行難所碓氷峠があり、明治21年には馬車鉄道が走り、その道に並行するようにアプト式鉄道が軽井沢まで開通したのが明治26年であります。自動車社会となった現在では、道路の整備が一段と進み、平成５年には上信越自動車道が開通し、首都圏も１時間の至近にあります。かつて、万葉集に「ひなくもり碓日の坂を越えしだに妹が恋しく忘らえぬかも」などの古歌に残る東国の入り口碓氷峠の麓に広がる「峠の町」の松井田町は、古代東山道の通過地であります。近世において江戸と京都を結ぶ主要幹線道である中山道は、戦後国道18号線と名を変えましたが、依然長野―群馬―首都圏をつなぐ経済活動の大動脈として地域の豊な暮らしと文化を育んでいます。

一般県道八本松・松井田線は、松井田町の中心市街地を発し、安中市の北部を通り、群馬郡榛名町西部の上室田を通り八本松に結ぶ道路であります。この県道の松井田町下増田下原地区特別道路改良事業の工事実施に当たり、先行して埋蔵文化財発掘調査を実施したものであります。

発掘調査では、奈良・平安時代の住居址14軒、土坑５基、掘立柱建物跡１軒などの遺構と土師器坏、甕、高台付埦、墨書坏、皿、蓋、短頸壺、長頸壷、灰釉陶器、鉄製紡錘車などの遺物が検出されました。その調査報告書であります。

調査では、多くの方々のご協力と関係機関の御指導を賜り心から感謝を申し上げます。

平成13年３月

松井田町下増田下原遺跡調査会
会長　稲塚　勇

例　　言

1．本書は一般県道 八本松・松井田線特別道路改良事業に先がけた、埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2．調査主体　松井田町下増田下原遺跡調査会(会長　稲塚　勇)
3．松井田町下増田下原遺跡調査会組織表

区　分	平成９年度	職　　名
会　　長	稲塚　勇	松井田町教育委員会　教育長
副会長	土田　明	群馬県教育委員会事務局文化スポーツ部　文化財保護課長
〃	内田　守	松井田町教育委員会事務局　社会教育課長
理　　事	塩原　功	群馬県安中土木事務所　所長
〃	巾　隆之	群馬県教育委員会事務局文化スポーツ部　文化財保護課長補佐兼埋蔵文化財第一係長
〃	小板橋昌之	松井田町教育委員会事務局　社会教育課社会教育係長
監　　事	星野知之	群馬県安中土木事務所　次長
〃	藤巻幸男	群馬県教育委員会事務局文化スポーツ部　文化財保護課主幹兼専門員
事務局長	萩原豊彦	松井田町教育委員会事務局　社会教育課文化財保護係長
事務局員	田口　修	松井田町教育委員会事務局　社会教育課文化財保護係　主任
〃	関口陽子	松井田町教育委員会事務局　社会教育課文化財保護係　主任
区　分	平成12年度	職　　名
会　　長	稲塚　勇	松井田町教育委員会　教育長
副会長	石井英雄	群馬県教育委員会事務局文化スポーツ部　文化財保護課長
〃	内田　守	松井田町教育委員会事務局　社会教育課長
理　　事	阿久沢伸一	群馬県安中土木事務所　所長
〃	巾　隆之	群馬県教育委員会事務局文化スポーツ部　文化財保護課長補佐兼埋蔵文化財第一係長
〃	小板橋昌之	松井田町教育委員会事務局　社会教育課社会教育係長
監　　事	桜井治夫	群馬県安中土木事務所　次長
〃	関　晴彦	群馬県教育委員会事務局文化スポーツ部　文化財保護課主幹兼専門員
事務局長	萩原豊彦	松井田町教育委員会事務局　社会教育課文化財係長
事務局員	壁　伸明	松井田町教育委員会事務局　社会教育課指導主事

4．発掘調査は松井田町教育委員会内に事務局をおく松井田町下増田下原遺跡調査会の委託を受け、スナガ環境測設株式会社(前橋市青柳町211-１　代表取締役　須永眞弘)が実施した。
5．調査担当者　金子正人(スナガ環境測設株式会社)
　調査員　荻野博巳　権田友寿　板垣宏　神津芳夫　岡田あゆ美　山口和宏
6．遺跡名　下増田下原遺跡
7．所在地　群馬県碓氷郡松井田町大字下増田字下原2674-１番地外
8．調査期間　発掘調査　平成10年１月19日～平成10年３月25日
　　整理期間　平成12年11月１日～平成13年３月25日
9．調査面積　2720㎡
10．調査経費は開発主体である群馬県安中土木事務所がその全てを負担した。
11．出土遺物及び図面等の資料は松井田町教育委員会が一括して保管している。
12．発掘調査の主な作業分担
　発掘調査は松井田町教育委員会の指導のもとにスナガ環境測設株式会社が当たり、調査の指導を須永眞弘・金子正人、調査測量を板垣宏・権田友寿・神津芳夫・岡田あゆ美、発掘調査の安全管理・外渉事務・遺構写真撮影を神津芳夫、重機運転管理を都丸保男、作業事務を須永豊・柴崎信江が担当した。
13．本書は、松井田町教育委員会の指導のもとにスナガ環境測設株式会社が作成に当たり、執筆・構成・編集を須永眞弘・金子正人・荻野博巳、測量図書の整理・遺構図・遺物実測図のトレース・版下作成を権田友寿、遺物の洗浄・注記・接合を神津芳夫・柴崎信江、遺物実測図を佐々木智恵子、文書清書を金子恵子・須永薫子、内業事務を柴崎信江・須永豊が担当した。

凡　　例

1．遺跡の位置の基準

基準点　国土地理院の三角点及び水準点　座標系　第IX系

Aa－O点座標値　X 36,752.000m　Y－90,636.000m

2．遺跡の位置図

国土地理院発行1/25,000の「松井田」「南軽井沢」「軽井沢」「三ノ倉」を使用した。

3．実測図の縮尺

平面図　1/500　　住居址・土坑　1/60(カマド1/30)　　遺物実測図　1/3を原則とし上記以外の縮尺を使用したときは、その都度表示した。

4．遺構の略号

縄文時代の住居址－J　奈良・平安時代の住居址－H　土坑－D　柱穴－P　掘立柱建物跡－B

5．土層断面の土色名及び土器類の色調名は「新版標準土色帳」（農林省農林水産技術会議事務局監修財団法人日本色彩研究所色標監修）による。

6．調査に際して群馬県安中土木事務所を始め、地元の方々の協力を戴きました。
又調査整理について指導助言を賜った群馬県教育委員会、群馬県埋蔵文化財調査事業団、高崎市教育委員会神戸聖語氏他各方面の方々に深甚なる感謝を申し上げます。

目　　次

1．調査に至る経緯と経過……1
2．遺跡の位置と環境……2
3．発掘調査の方法……5
4．基本土層……5
5．遺構と遺物……6
(1)　縄文時代の住居址……6
(2)　奈良・平安時代の住居址……8
(3)　その他の遺構と遺物……11
(a)　土坑　(b)　掘立柱建物跡　(c)　柱穴群　(d)　風倒木痕
6．ま と め……12
7．遺物観察表……13
遺構実測図……17～29
遺物実測図……30～39
写真図版（発掘調査状況）……1～9
（遺物写真）……10～18

挿　図　目　次

第1図　周辺遺跡位置図……2
第2図　下増田下原遺跡平面図……3～4
第3図　基本土層断面図……5
第4図　縄文住居址平面・断面図……6
第5図　縄文住居址遺物実測・拓影図……7
第6図　住居址主軸方向　カマド設置方向図……12
第7図　1～3号住居址平面・断面図 カマド平面・断面図……17
第8図　4号住居址平面・断面図　掘り方平面図　カマド平面・断面図　貯蔵穴断面図……18
第9図　5－1、－2号住居址平面・断面図　カマド平面・断面図……19
第10図　6号住居址平面・断面図　カマド平面・断面図……20

第11図　7号・9号住居址平面・断面図　カマド平面・断面図 ……21
第12図　8号住居址平面・断面図　カマド平面・断面図……22
第13図　10号住居址平面・断面図　カマド平面・断面図……23
第14図　11号・13号住居址平面・断面図　カマド平面・断面図 ……24
第15図　12号住居址平面・断面図　カマド平面・断面図……25
第16図　14号住居址平面・断面図　1・2号土坑平面・断面図……26
第17図　4・5号土坑平面・断面図　1・2・4・5号土坑エレベーション重ね図……27
第18図　掘立柱建物跡・柱穴群平面図 ……28
第19図　掘立柱建物跡・柱穴群断面図 ……29
第20図　1～5号住居址遺物実測図……30
第21図　5・6号住居址遺物実測図 ……31
第22図　6～8号住居址遺物実測図……32
第23～25図　8号住居址遺物実測図……33～35
第26図　8～10号住居址遺物実測図……36
第27図　11号～13号住居址遺物実測図……37
第28図　13号・14号住居址　1・2号土坑遺物実測図……38
第29図　2号・4号・5号土坑グリッド及び一括遺物実測図……39

図　版　目　次

図版1　下増田下原遺跡全景　空中写真、調査前現況 東側より、調査前現況 南側より
作業風景、縄文住居址と2号土坑
図版2　縄文住居址掘り方、縄文住居址№1出土状況、縄文住居址№3出土状況
2号住居址、3号住居址、4号住居址、4号住居址カマド、4号住居址№11出土状況
図版3　4号住居址掘り方、5号住居址、5号住居址カマド、5号住居址遺物出土状況
5号住居址№13出土状況、5号住居址№17出土状況、6号住居址
6号住居址遺物出土状況
図版4　6号住居址掘り方、6号住居址カマドセクション、6号住居址№34・35・37出土状況
6号住居址支脚出土状況、6号住居址カマド、6号住居址№27・29出土状況
6号住居址№26出土状況、7号住居址№42・43・46出土状況
図版5　8号住居址遺物出土状況、8号住居址、8～10号住居址掘り方(西側より)
8号住居址№93・106・107出土状況、8号住居址№76・96等出土状況
8号住居址№83他出土状況、8号住居址№51・55・78・82・91出土状況
8号住居址№94カマド煙道部に埋設された甕出土状況
図版6　8号住居址カマド全景、8号住居址カマド全景焚き口部より
8号住居址カマド掘り方(砂岩の設置状況)、8・9・10号住居址、9号住居址カマド
9号住居址№108・111出土状況、9号住居址カマド焚き口部より、11号住居址
図版7　11号住居址掘り方南側より、11号住居址掘り方東側より
12号住居址カマド遺物出土状況、13号住居址遺物出土状況、13号住居カマドセクション
13号住居址カマド遺物出土状況、13号住居址カマド、13号住居址№133・137出土状況
図版8　13号住居址№132出土状況、13号住居址№135出土状況、13号住居址№131出土状況
14号住居址、14号住居址掘り方、14号住居址遺物出土状況、10号柱穴、1号土坑
図版9　1号土坑セクション、2号土坑№146出土状況、2号土坑、4号土坑
5号土坑土層断面、A区全景、掘立柱建物跡と柱穴群、調査完了状況

1．調査に至る経緯と経過

群馬県教育委員会は、平成９年度一般県道八本松・松井田線特別道路改良工事に伴う試掘調査を、碓氷郡松井田町大字下増田字下原2674-２番地外及び同町大字小日向字西原2456-１番地外において、平成９年３月11日に実施した。トレンチによる調査の結果次の通り遺構・遺物が検出された。

第１トレンチ　平安時代の住居址・溝・土坑、暗褐色土層から土師器・須恵器出土
第２トレンチ　暗褐色土層から土師器・須恵器出土
第３トレンチ　暗褐色土層から土師器・須恵器出土
第４トレンチ　平安時代の住居址、暗褐色土層から土師器・須恵器出土
第５トレンチ　平安時代の住居址、暗褐色土層から土師器・須恵器出土

以上の結果から調査対象区域内には複数の遺構が存在することが判明したので、群馬県安中土木事務所と協議し発掘調査を実施することになった。調査は平成10年１月19日から平成10年３月25日まで実施した。調査は重機による表土掘削→プラン確認作業→遺構調査に並行して基準点座標・水準取付測量→遺構遺物出土状況写真及び高所写真測量→遺構・遺物出土現況詳細測量図作成の順で行った。

平成12年11月１日より調査整理業務に入る。まず遺物の水洗・注記→接合・復元・観察表の作成・実測図の作成等の順で行い、並行して遺構図面の整理と各種台帳作成整理、写真の整理、トレースの順で報告書の作成作業に入った。

調査の経過（日誌抄）

平成10年１月20日　契約書に調印、調査資材及び残土置き場用地の借地地権者宅訪問（甘楽町秋畑）用地貸借契約書に仮調印
24日～25日　仮設事務所（プレハブ）設置
26日　実施計画書・担当承諾書・経歴書の提出
30日　調査資材搬入（机・椅子等）
31日　仮設事務所設置用地の正規の調印（借用料支払い）
２月２日　調査資材搬入（カラマツ材太鼓落し・コンパネ等）
12日　調査資材の搬入（バックホウ・キャリアダンプ等）
13日　表土掘削（バックホウ・キャリアダンプ等）抜根、公共座標踏査選点
18日　基準点測量・道路幅杭測量・グリッド杭設置
21日　確認面の精査開始（ジョレン精査）
23日　住居址の発掘作業開始
３月２日　遺構・遺物の測量開始
４日　一般県道八本松・松井田線西側の表土剝し終了、引き続き県道東側表土剝し開始
16日　柱穴群発掘
22日　空中写真撮影
23日　残土運搬開始
25日　発掘調査・残土運搬・資材搬出完了
平成12年11月１日　整理作業開始
13年３月25日　報告書の発行

参考文献

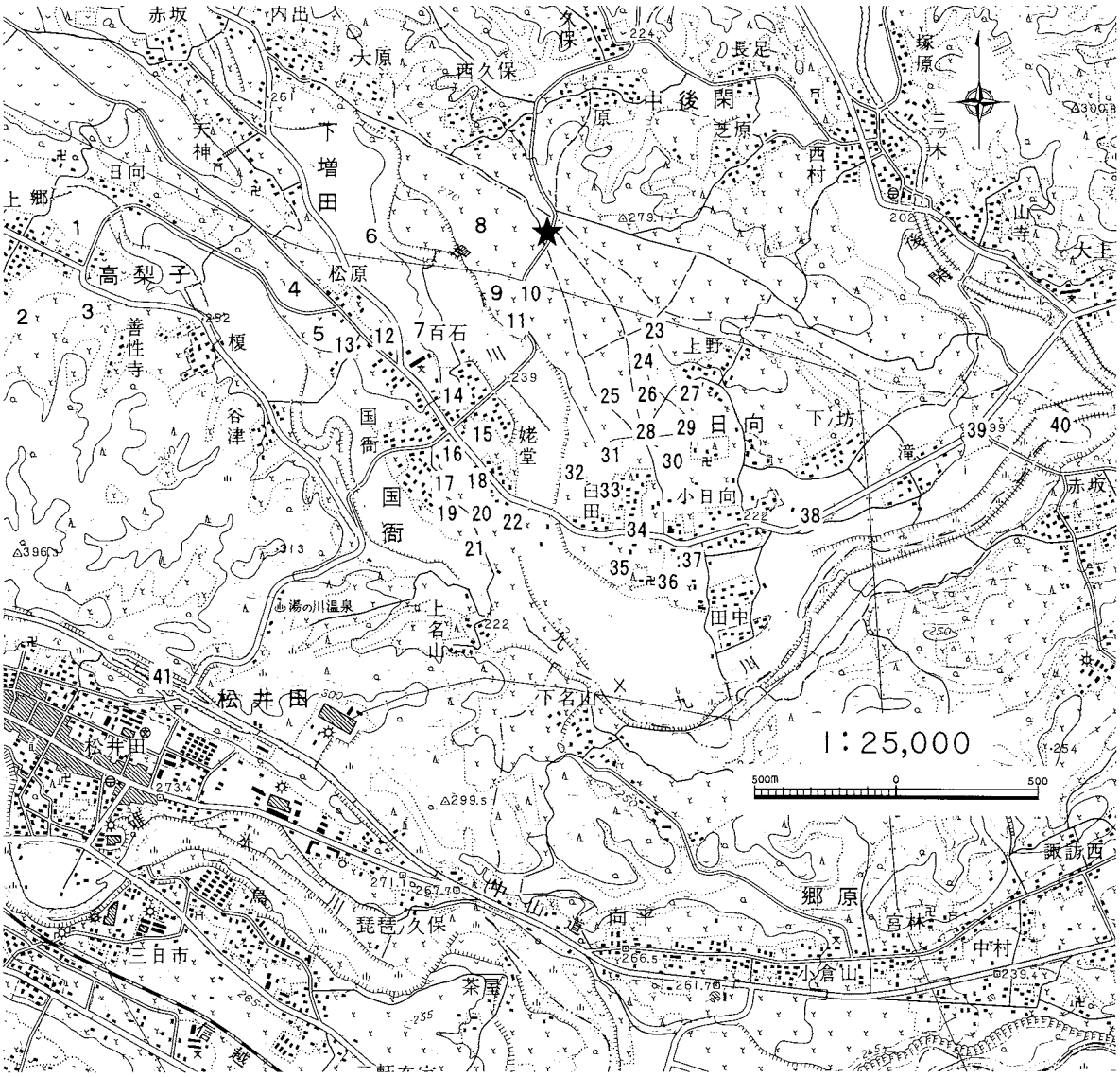
「松井田町誌」　松井田町誌編纂委員会　1985年
最新情報展　出土した古代の土器　展示レポート　平成９年３月　群馬県埋蔵文化財調査センター　財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団
最新情報展　古墳時代の土器　展示レポート２　平成10年３月　群馬県埋蔵文化財調査センター　財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
研究紀要 －６－　平安時代の煮沸土器について　―土釜とは何か―　三浦京子　黒沢はるみ
縄文土器の知識　Ⅰ・Ⅱ　東京美術　昭和59年８月　61年６月
勝保沢中ノ山遺跡Ⅰ　1988年　群馬県教育委員会　財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団
日本陶磁全集６「白瓷」　1976年　中央公論社　檜崎彰一

2．遺跡の位置と環境

下増田下原遺跡は群馬県碓氷郡松井田町大字下増田字下原に存在する。調査地は松井田町役場から北へ約4.2kmの九十九地区に位置する。九十九地区は下増田・高梨子・国衙・小日向の４大字よりなる。遺跡は増田川の河岸段丘の台地上にあり、北側は安中市と隣接している。台地の南側は増田川が南東流し、北側には後閑川が同じように南東流している。遺跡の南東約1.2kmの台地の東端で合流し九十九川となって東流する。

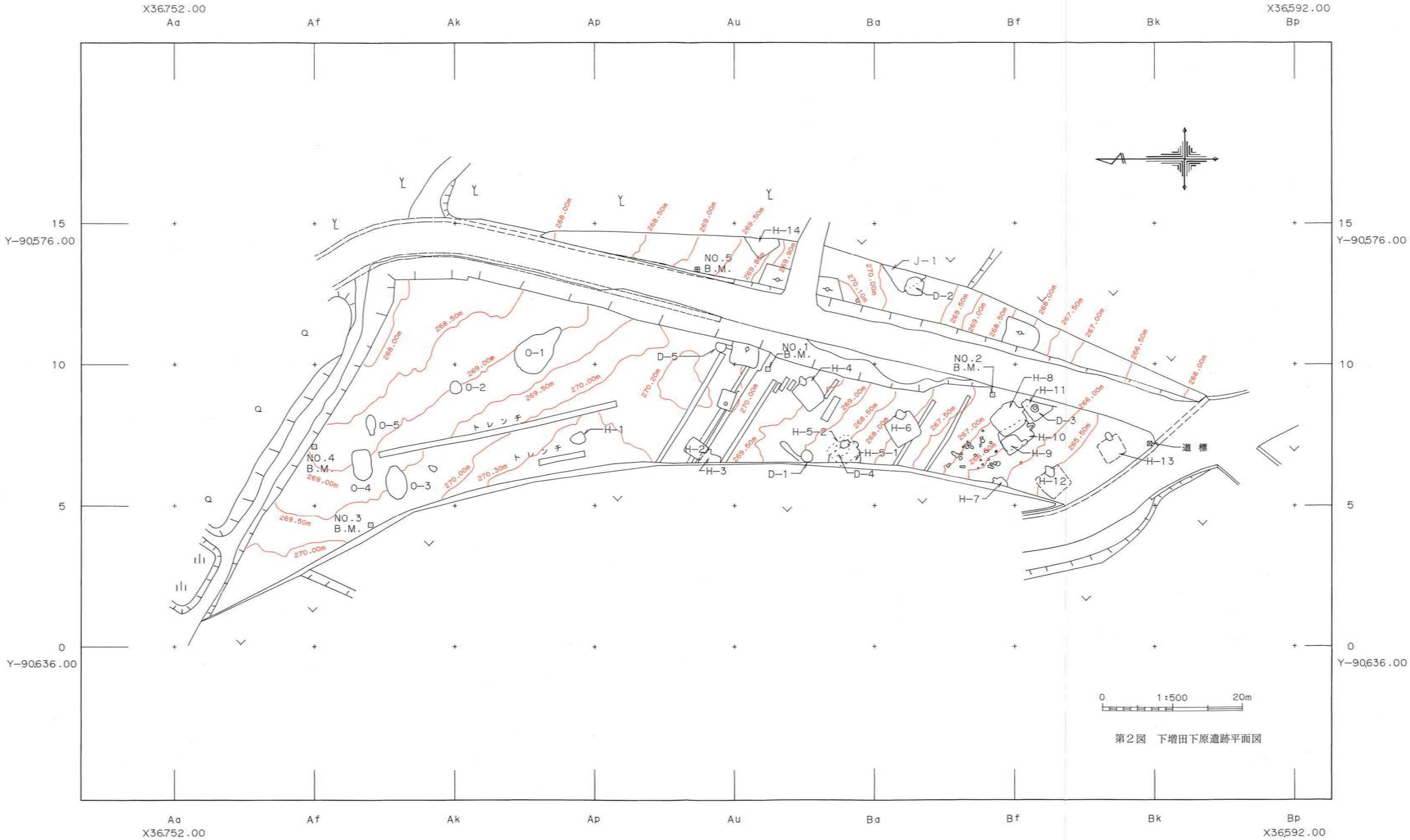
平成９年３月の試掘調査の結果、道路工事対象地の試掘トレンチから平安時代の住居址・溝・土坑が検出された。また各トレンチからは土師器・須恵器の破片が出土している。

今回調査を行った下増田下原遺跡は、増田川左岸台地の頂上部から南側傾斜面にかけて広がる縄文時代前期の住居址と、奈良・平安時代の住居址を伴う遺跡である。当遺跡地の標高は265～271mである。当遺跡の所在する九十九地区の遺跡について概観すると次の１～41の遺跡及び包蔵地が見られる。１縄文・弥生・奈良・平安時代の遺物包蔵地、２高梨子三次郎遺跡、３高梨子中貝戸遺跡、４将軍塚古墳、５国衙森浦・朝日遺跡、６下増田上田中遺跡、７下増田下田中遺跡、８下増田十二平遺跡、９古墳、10古墳、11古墳、12古墳、13国衙遺跡、14古墳、15古墳、16古墳時代の遺物包蔵地、17古墳、18古墳、19弥生・古墳時代の遺物包蔵地、20古墳、21古墳、22古墳、23縄文時代の遺物包蔵地、24古墳、25古墳、26古墳、27弥生時代の遺物包蔵地、28古墳、29古墳、30古墳、31古墳、32古墳、33古墳、34古墳、35古墳、36古墳、37古墳、38琴平山古墳、39小日向遠地谷戸遺跡、40天皇塚古墳、41愛宕山遺跡。



第１図　周辺遺跡位置図

下増田下原遺跡　S=1:500



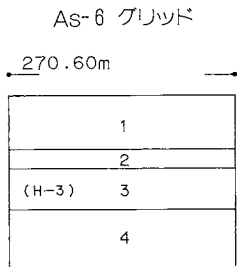
第２図　下増田下原遺跡平面図

3．発掘調査の方法

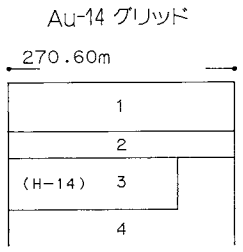
調査区北西隅に基準点Aa—O（公共座標X軸 36,752.00m、Y軸－90,636.00m）を設け、これを基準とする大グリッド（100m×100m）を設置し、X36,652.00m、Y－90,636.00mを大グリッドの境界とするA・Bの大グリッドを設定した。その中を4mメッシュで区画し、東方向にアラビア数字、南方向にアルファベットで表すことにした。水準点は芝原四等三角点（279.10m）より測定し遺跡内に設定しBMとした。BM1．270.00m、BM2．267.50m、BM3．270.00m、BM4．269.00m、BM5．269.50mを設定した。

4．基本土層

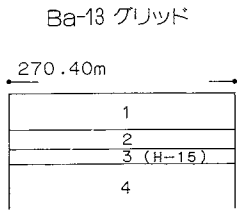
調査区のAm—4グリッドとAx—14グリッドを結ぶ線が丘陵の中心部であり、その北側で1.00～1.60m、南側で0.90～1.60mの傾斜地になっている。県道西側調査区のAt—7グリッド付近では確認面までが0.30m、Bg—5グリッド付近で1.30m、県道東側のAv—14グリッド付近で0.60～0.70mが計測された。



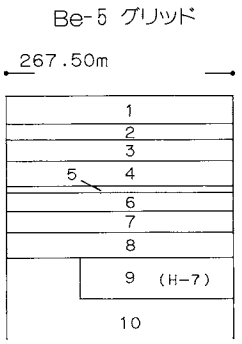
1　A軽石を含む黒褐色土層（耕作土）
2　ロームブロック、焼土、軽石を含む黒褐色土層
3　ロームと焼土を含む混土層（3Hの覆土）黄褐色土層
4　暗褐色ローム層（ロームの第1層）



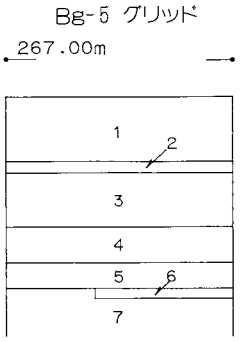
1　A軽石を含む黒褐色土層
2　1層よりやや締まりありB軽石を含む黒色土層
3　黒褐色土、ローム、焼土の混土黄褐色土層（14Hの覆土）
4　暗黄褐色ローム層（ロームの第1層）



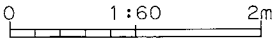
1　A軽石を含む黒褐色土層（耕作土）
2　僅かな焼土粒と軽石とローム粒の混入する黒褐色土層
3　軽石と焼土粒YP粒を含む黒褐色土層
4　暗黄褐色ローム層



1　黒褐色土層（耕作土）
2　A軽石を20%程含む黒褐色土層（耕作土）
3　B軽石を僅か含む黒褐色土層
4　B軽石層（淡黄灰白軽石層）
5　焼土粒とローム粒を僅か含む黒褐色土層
6　焼土、ローム粒が5層より多い黒褐色土層
7　ローム粒が6層より更に大粒になり焼土粒を含む黒褐色土層
8　焼土粒を僅か含む黄褐色土層
9　焼土粒を多く含む黄褐色土層（7Hの覆土）
10　暗黄褐色ローム層



1　A軽石を含む黒褐色土層
2　B軽石層（淡黄灰褐色）
3　C軽石とローム粒と僅かな焼土粒を含む黒褐色土層
4　3層より僅か軽石を多く含み締まった黒褐色土層
5　ロームブロックと軽石を含む黒褐色土層（4層より更に締まっている）
6　暗黄褐色土層（5層より更に締まった土層）
7　暗黄褐色ローム層



第3図　基本土層断面図(1/60)

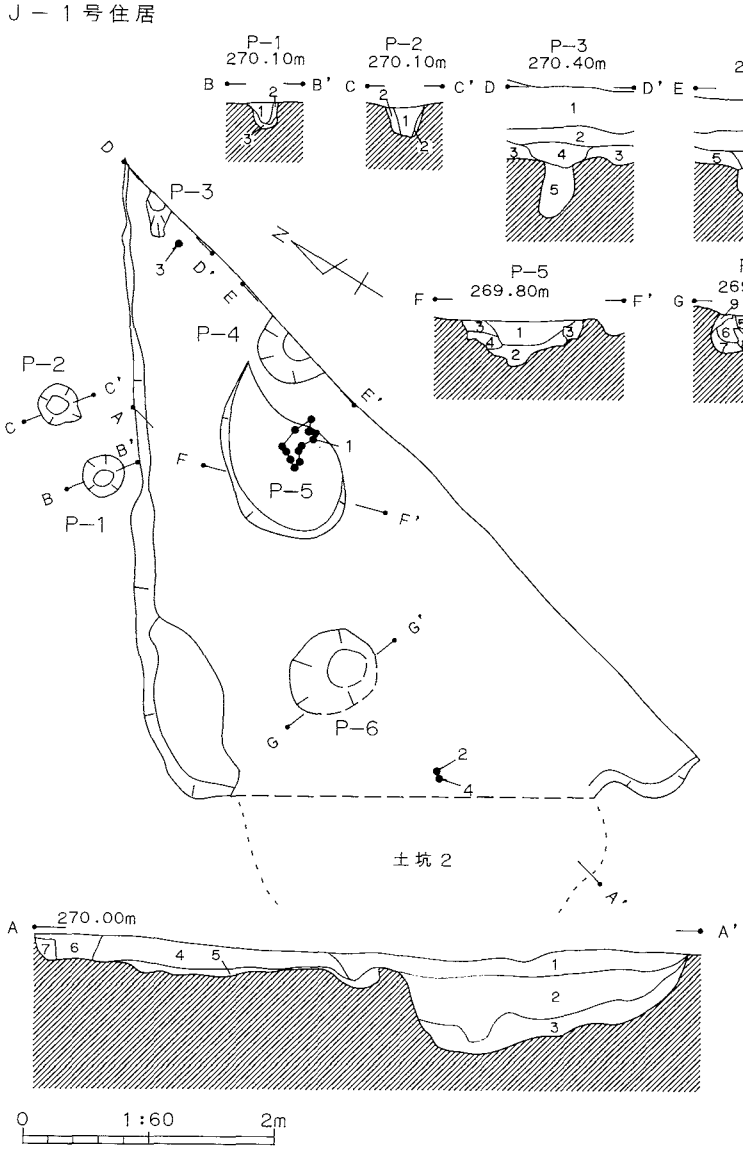
5．遺構と遺物

遺構は縄文時代の住居址１軒と奈良・平安時代の住居址14軒、土坑５基、掘立柱建物跡１棟、柱穴群34基、時期不明の風倒木痕５基が確認された。

縄文時代の住居址からは深鉢形土器と敲石が検出され、その他の遺構から一括遺物として石鏃と石斧の破片が検出された。奈良・平安時代住居址からは土師器坏・甕、須恵器坏・高台付埦・墨書（前）坏・壺・皿・蓋・短頸壷・長頸壺・灰釉陶器・鉄製紡錘車等が検出された。

(1) 縄文時代住居址（第４、５図）

Ba・Bb―12・13グリッドに位置する。標高269.71m、床面積10.82m²、主軸方向N―54°―E、西壁5.12m壁高19cm、南壁4.26m壁高10cm。隅丸方形を呈するものと思われるが、住居址の東側半分は道路建設予定地区外にかかる為未調査となった。本住居址では主柱穴と思われる２ヶ所(P―４、P―６)が確認された。床面は遺物の出土層位からほぼ推定できたが、あまり堅く踏み固められた床面は見られなかった。炉も調査範囲では確認できなかった。掲載遺物１～５番



Pit１土層注記（B-B′）
1 僅かな焼土粒、炭化物、ローム粒を含む黒褐色土層
2 暗黄褐色ローム（ロームの第１層）と黒褐色土の混土層
3 ２層よりもさらに暗黄褐色土を多く含む混土層

Pit２土層注記（C-C′）
1 暗黄褐色ロームに黒褐色が混入した黄褐色土層
2 １層よりもロームブロックを多く含む黄褐色土層（１層よりもやや明るい）

Pit４土層注記（E-E′）
1 Ａ軽石を含む黒褐色土層
2 軽石、ローム粒と僅かな焼土粒を含む黒褐色土層
3 ＹＰ軽石、焼土粒を含む黒褐色土層
4 ＹＰブロックを含む褐色混土層
5 軽石、ロームブロック、焼土ブロックを含む暗褐色土層

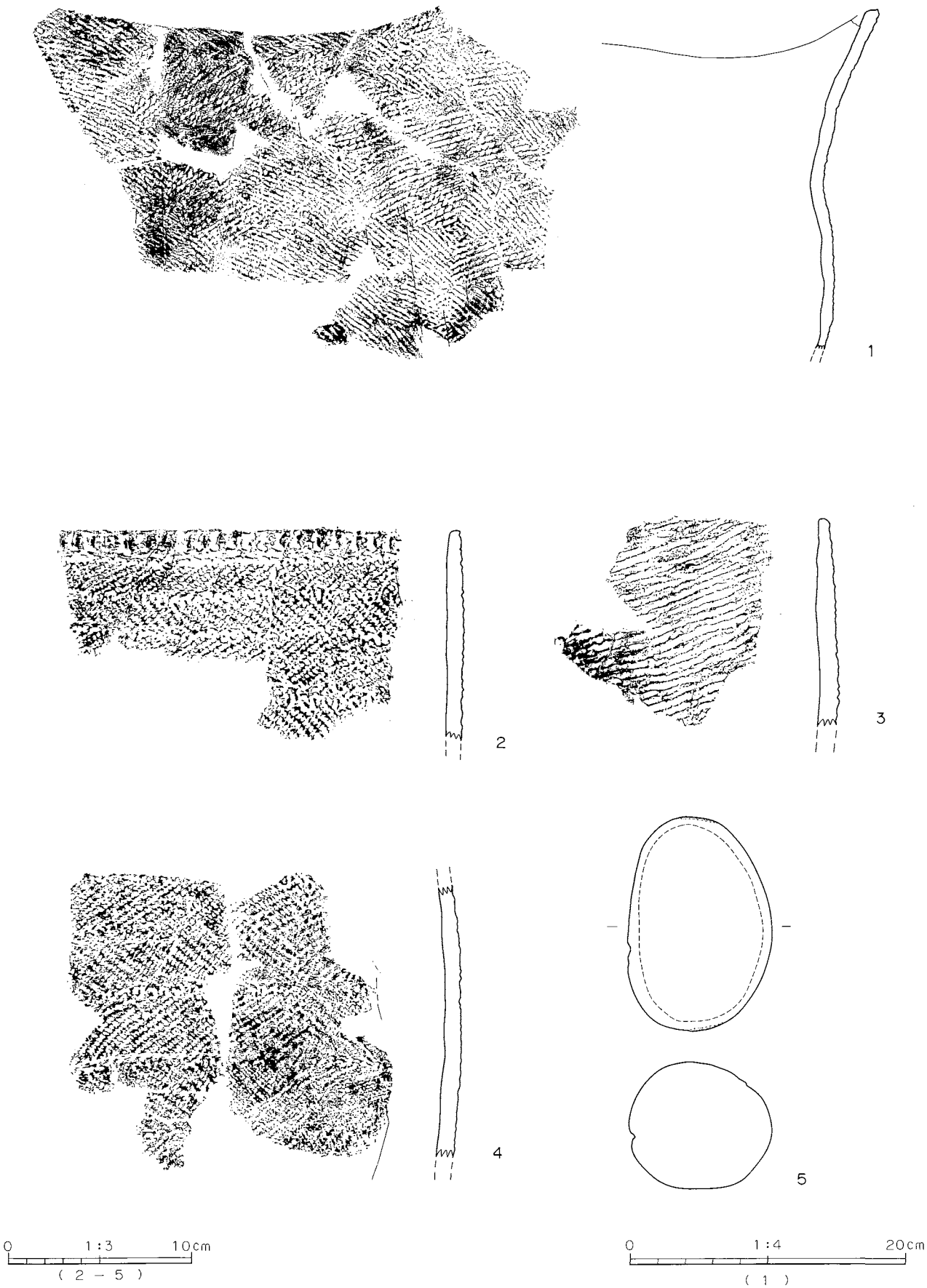
Pit５土層注記（F-F′）
1 軽石、ローム、焼土粒、炭化物を含む黒褐色土層
2 岩版状ロームの下にある軟らかなロームと黒褐色土の混土層 １層より明るい黒褐色土層
3 岩版状ロームと僅かな焼土を含む褐色土層
4 多量のロームと僅かな焼土を含む褐色土層

Pit３土層注記（D-D′）
1 耕作土　Ａ軽石を含む黒褐色土層
2 ローム粒を含む黒褐色土層　やや粘性を持ちＡ軽石を含まない
3 ２層よりも多くのローム粒を含む黒褐色土層　縄文住居跡覆土
4 ３層よりもさらに多くのローム粒を含む黒褐色土層
5 ローム粒を40～50％含む黄褐色土層

Pit６土層注記（G-G′）
1 ローム粒、炭化物を含む暗褐色土層
2 ローム粒の混入の多い暗褐色土層
3 ＹＰ下のローム層で、軟らかな淡黄褐色土層
4 ＹＰを含む黒褐色土層
5 ロームと黒褐色土の混土層
6 ５層よりもやや明るい混土層
7 ６層よりも明るい混土層
8 ７層よりも明るい混土層　ＹＰを含む
9 黒色土層

J-1住居土層注記（A-A′）
1 ローム（１～３mm）と軽石粒を含む黒褐色土層
2 ローム粒と炭化物を含む褐色土層
3 ローム粒を含む褐色土層　２層よりも明るい
4 粗いローム粒を含む黒褐色土層
5 ローム粒の少ない褐色土層
6 軽石とローム粒を含む黒褐色土層　４層よりも暗い
7 ロームブロックの１次堆積層（黄褐色ローム）

第４図　縄文住居址、平面・断面図（1/60）



第5図　縄文住居址　遺物実測図

(2) 奈良・平安時代の住居址

1号住居址(第7図)

Ao—7グリッドに位置する。長辺2.10m短辺1.80mの範囲で9点の遺物が検出された。これらの遺物の標高は270.345～270.38mと一定している。遺物が分布していてやや堅く、暗褐色を呈している範囲を一応遺構プランとし、その面積は7.61m²を計測した。カマド・柱穴等の遺構は確認出来なかった。調査区内にはこの様な遺物の分布を示す所がないので、ここに住居址のあった可能性が考えられるが、耕作が確認面まで達しており、これ以上の記録を取ることは出来なかった。遺物は羽釜の破片と須恵器片と土師器片が検出された。掲載遺物6、7番。

2号住居址(第6、9図)

As—6・7グリッドに位置する。標高269.95～270.03m、床面積6.50m²、長辺2.82m短辺2.46mの長方形を呈する。壁高は4～4.5cmである。遺物はカマド内から出土した小破片だけであった。耕作により床面も攪乱されており、部分的に確認できるだけであった。カマドと思われる焼土と焼けた硬い砂岩が住居内中央部南寄りで確認された。これは2号住居より後のものであると思われる。

カマドは全長95cm幅62cm以上あったものと思われる。主軸方向N—48°—Eを測る。カマドの構築材として、もろく硬い砂岩5個を使用し、その内の大きな砂岩は焚口部に鳥居状に使用されたものと思われる。掲載遺物なし。

3号住居址(第6、9図)

As—6・7、At—6・7グリッドに位置する。標高269.67m、形状は2号住居と耕作痕によりほとんど不明、カマドの形をした火床部分の焼土跡(全長72cm幅43cm)から住居として記録した。南北は2.83m、東西は1.20mが計測できる。住居のプランは調査区外の北西方向に続くものと思われる。
掲載遺物8番。

4号住居址(第7、9図)

調査区中央部の傾斜地頂上部付近Aw—8・9、Ax—8・9グリッドに位置する。標高269.425m、床面積13.72m²主軸方向N—52°—Eを測る。長辺4.07m短辺3.21mの隅丸長方形を呈する。壁高は東壁で15cm南壁で3cmを測る。

床面は黒褐色土とロームで固められている。カマドは東壁の中央やや南寄りに位置し、全長96cm幅100cm焚口部45cm主軸方向N—53°—Eを測る。住居の主軸と同一方向を示している。住居内には黄色粘土を使用した両袖が伸び、カマドの構築補強材として、砂岩が9個使用されていた。

貯蔵穴はカマドの右側に位置し、長径70cm短径52cm深さ40cmの楕円形を呈す。須恵器坏、埦を検出した。縦長の住居址で床下土坑の中に2ヶ所焼土を伴う土坑が見られた。周溝はカマド左側から住居を一周し貯蔵穴まで巡っている。遺物は耕作による溝2本が住居址を切っていたが、それ以外の所で完形品の須恵器坏等が出土している。掲載遺物9～12番。

5—1号住居址(第8、9、10図)

Ax—6・7、Ay—6・7グリッドに位置する。標高268.10m、床面積9.02m²、主軸方向N—52°—Eを測る。形状は調査区内で確認できた範囲で長辺4.32m短辺3.03m、東側貯蔵穴の付近で壁高は7cmを測る。カマド前にロームと黒褐色土の混土による堅く踏み固められた床面が見られる。カマドの全長97cm幅96cm焚口部幅23cm主軸方向N—42°—Eを測る。このカマドは土坑4の上に構築されている。

貯蔵穴はカマド右側に位置し多量の土器が出土している。長径115cm短径68cm深さ18cmで楕円形を呈する。掲載遺物13～24番。

5—2号住居址(第8図)

Ax—6・7、Ay—6・7グリッドに位置する。標高268.22m、形状は長辺3.96m短辺は3.20～3.30mが推定される。掲載遺物なし。

6号住居址(第10、13、14図)

Ba—7・8、Bb—7・8グリッドに位置する。標高266.96m、床面積16.06m²、主軸方向N—60°—Eを測る。形状は長辺4.18m短辺3.90mの隅丸方形を呈する。壁高はカマド側で(北東)54cm、その反対側(南西)で2cmを測る。床面は黒褐色土とロームを混入した土で、よく踏み固められている。住居址中央部の床面下に焼土が見られた。多量の粘土がカマドの上を覆い、その下から焼土と甕の破片が多数出土した。少し大きめの支脚と思われる河原石が燃焼部中央で焼土の上に傾斜して出土した。カマドの主軸方向N—68°—E、全長147cm幅155cm焚口部幅66cmを測る。西側は耕作痕により攪乱を受けている。遺物は土師器甕、須恵器坏・埦等が出土している。掲載遺物25～40番。

7号住居址(第11、14図)

Be—5グリッドに位置する。標高265.87m、床面積0.76m²、主軸方向N—48°—E、形状は一辺115cmと小規模な遺構である。住居址の半分以上が調査区外にかかるため全容はわからない。壁高はカマド付近で30cm南側で10cmを測る。床面は調査面積が狭くてはっきりしない。カマドは北東壁右寄りに位置するものと思われる。全長72cm幅45cm焚口部幅20cm主軸方向N—22°—Eを測る。黄色粘土と砂岩を使用している。煙道部に平らな砂岩が斜めに2枚使用されている。小規模で調査範囲が狭い住居であるが検出されたのがカマド付近のため完形遺物が豊富である。土師器甕、須恵器坏等が出土している。
掲載遺物41～46番。

8号住居址(第12、14～18図)

Be—7・8、Bf—7・8グリッドに位置する。標高266.16m、床面積は14.91m²、主軸方向N—142°—Eを測る。長辺4.28m短辺3.68mやや縦長な隅丸方形を呈する。壁高は北壁で68cm南東隅で28cmを測る。柱穴は不規則な位置であるが4ヶ所確認された。床面は平坦で堅く踏み固められている。東壁側は掘り方も浅く僅かな貼床がされているだけであったが、西壁側は10号住居との重複もあって深く掘り下げられている。カマドは南壁ほぼ中央部に位置し、全長116cm幅90cm焚口部幅45cm主軸方向N—148°—Eを測る。掘り方後褐色粘土で砂岩を固定し、粘土でカマドを構築している。焚口部と煙道の差は65cmを測る。

貯蔵穴はカマドの右側に位置する。ほぼ完形の須恵器壺2点、甕1点が貯蔵穴の右脇で検出された。その他に坏、埦等が出土している。長径82cm短径76cm深さ98cmの楕円形を呈す。

8号住居は10号住居と11号住居が埋まってからの住居である。カマドの掘り方の下に11号住居の覆土があり、10号住居のカマド左側の壁が切れており、8号住居の周溝が10号住居の床面を切って作られているので、10号住居と11号住居より8号住居が新しい住居である。

全体的に遺物の出土量が多い。完形品も多い事から何らかの理由で使用できる土器をそのまま放棄したものと思われる。須恵器壺・坏・埦、土師器甕・甑・坏、鉄製紡錘車が検出された。
掲載遺物47～107番。

9号住居址(第11、18図)

Be—6・7、Bf—6・7グリッドに位置する。標高266.14m、床面積5.83m²、主軸方向N—148°—E、形状は長辺2.48m短辺2.22mでカマド側が窄まる傾向が見られるがほぼ隅丸方形に近い。壁高はカマド付近で16cm北側で20cmを測る。

床面はあまり堅く締まっていない。北側と西側に周溝が巡りプランの確認に役立った。10号住居の周溝より浅く重複関係を裏付ける手がかりとなった。カマドは南壁西寄りに位置し、全長78cm幅66cm主軸方向N—146°—Eを測る。西壁とカマド右袖部が直線的に続いているので貯蔵穴も見られないが、左袖部から土釜が検出されている。掲載遺物108～111番。

10号住居址(第18、19図)

Be—6・7、Bf—7グリッドに位置する。標高266.17m床面積は13.24m²、主軸方向N—152°—Eを測る。形状は長辺4.78m短辺3.10mやや縦長な隅丸長方形を呈す。壁高は北壁で51cmカマド付近で21cm、掘り方で確認した壁周講により、本住居址の形状を推定することが出来た。床面には多量の焼土と細かな炭化物が見られたが、焼失住居とは考えにくい。カマドは南壁中央部やや東寄りに位置し、カマドの全長110cm幅102cm焚口部幅34cm主軸方向N—137°—Eを測る。平坦で潰れた状態に近いが、良く焼け込んだ焼土とカマド構築に使用した砂岩8個が確認された。掲載遺物112～116番。

11号住居址(第20、23図)

Bf—7・8、Bg—8グリッドに位置する。標高266.275m床面積7.54m²主軸方向N—145°—Eを測る。形状は長辺3.42m短辺3.32m隅丸方形を呈する。壁高は北で46cm南18cmを測る。現在の道路の改良工事の時にカマド部分を破壊してしまったものと思われる。床面は西側半分で黒褐色土とロームを混入し、よく踏み固められているが、東側半分は床面の様子がほとんど見られない。南側調査区端でカマド構築用の砂岩2個が検出された。

8号住居のカマドは本住居の覆土の上に構築されていた。遺物は須恵器坏が検出された。
掲載遺物117～119番。

12号住居址(第21、23図)

Bf—5・6、Bg—5・6、Bh—5グリッドに位置する。標高265.33m、床面積13.64m²、主軸方向N—40°—Eを測る。形状は長辺3.80m短辺3.60mが推定される。壁高はカマドの両脇で5～10cmを測る。床面はカマド前で黒褐色土に少しのロームが混入した貼床が見られたが全体としては不明。

カマドは北壁の中央部に位置するものと思われる。全長123cm幅146cm焚口部幅20cm主軸方向N—62°—Eを測る。カマド前から甕の口縁部が出土している。潰れているが残りは比較的良い方と思われる。カマド右袖側に焼けて煤の付いた3個の砂岩が検出された。

床面がはっきりしないように柱穴も不明である。両側の周溝の中に幅10cm間隔で直径5cmほどの壁柱穴16本が見られた。遺物はカマド前で口縁から胴部にかけての土師器甕が1点、その他に土師器坏1点、須恵器坏・埦・蓋等の破片を出土している。掲載遺物120～127番。

13号住居址(第20、24図)

Bh—6・7、Bi—6・7グリッドに位置する。標高265.48～265.46m、床面積10.74m²、主軸方向N—60°—E、形状は耕作が床面直上まで達していてプラン全体を知ることは出来なかったが、遺物の分布範囲から長辺3.40m短辺3.10m位が推定される。カマド前に踏み固められた床面が確認された。カマドは東壁の中央部やや南寄りに位置するものと思われる。全長116cm幅86cm支脚の幅20cm主軸方向N—75°—Eを測る。砂岩3個を五徳状に配した支脚が見られた。その他にカマド構築時の補強材としての砂岩4個が確認された。遺物は須恵器坏2点、埦1点、大型の長頸壺の頸部と土師器甕の破片等が出土している。掲載遺物128～139番。

14号住居址(第22、24図)

Au—13・14、Av—13・14グリッドに位置する。標高269.60m、床面積7.42m²、主軸方向N—55°—E北壁が3.60m壁高9cm、西壁3.7m壁高15cmを測る。住居址の約半分は調査区外にかかる。踏み固められた床面があるが凹凸が目立つ。掘り方は全体として浅く、南側では地山の堅いローム面まで37cmで到達するがその他ではこのローム面までも掘っていない。周溝が北西壁で確認された。遺物は土師器甕の口縁から頸部にかけての破片と須恵器坏が出土している。掲載遺物140～142番。

(3) その他の遺構と遺物

(a) 土坑（第25、26、29図）

1号土坑

Aw—6グリッドに位置する。東西172cm南北165cm深さ161.5cmであった。断面形は中央部を掘り窪めてロート状を呈する。掲載遺物143、144番。

2号土坑

Bb—12・13グリッドに位置する。長軸260cm短軸250cmほぼ円形で深さ204cm、須恵器の大甕口縁と縄文土器が出土している。断面ロート状で中央部が更に深くなる工法が使用されている。縄文住居と重複する。掲載遺物145、146番。

3号土坑

Bf—8グリッドに位置する。長軸110cm短軸109cm深さ114.5cmであった。11号住居の覆土の上から掘られており、11号住居より新しいものである。掲載遺物なし。

4号土坑

Ax—7・8、Ay—7・8グリッドに位置する。長軸232cm短軸122cm深さ145.5cmであった。断面ロート状で中央部で更に深くなる工法が使用されている。5号住居と重複し住居より古い。掲載遺物147、148番。

5号土坑

At—10グリッドに位置する。東西126cm南北177cm深さ95cmであった。断面ロート状で中央部が更に深く掘り窪められている。掲載遺物149番。

(b) 掘立柱建物跡（第27、28図）

Bc—6・7～Be—6・7グリッドで柱穴群が38本確認された。その内P18・20・22・36・37を結ぶ掘立柱建物跡が確認された。遺物はP37より須恵器が坏1点他3点、土師器甕の破片14点を検出した。遺物出土状況からすると住居址と同時期の奈良・平安時代の掘立柱建物跡と思われる。

(c) 柱穴群（第27、28図）

P1・2　土師器2点、須恵器2点内1点は蓋の返り部分。

P9　土師器内面黒色の甕1片。

P13・16　須恵器5点、その内蓋2点、土師器甕17点。

P10　土師器3点、須恵器高台付埦1点、坏2点。

P17　土師器5点内1点は埦の破片。

P33　須恵器3点、土師器11点。

P1・2とP9とP13・16は掘り込みが深く直線的に並ぶ。またP10とP17とP33も直線的に並ぶ。出土遺物は須恵器と土師器が検出されているのでやはり住居と同時期の柱穴痕と思われる。

掘立柱建物跡以外の柱穴から検出された遺物は何れも破片であり、実測の対象にする大きさ及び特徴を持つ遺物は検出されなかった。

(d) 風倒木痕

風倒木痕1号　Am—9・10、An—9・10・11グリッドに位置する。

風倒木痕2号　Aj・k—9グリッドに位置する。

風倒木痕3号　Ah—5・6、Ai—5・6グリッドに位置する。

風倒木痕4号　Ag・h—6グリッドに位置する。

風倒木痕5号　Ag・h—7・8グリッドに位置する。

各風倒木痕はロームの第2層の砂岩のような黄褐色土(ローム)で止まっており深く根をはれず倒れ易かったものと思われる。遺物等は見られず時代は不明。

6．まとめ

1．地山のロームの第2層に黄褐色の砂岩のように硬化しかけたローム層がある。本遺跡の場合奈良・平安時代の住居では、これをカマドの構築の際の骨組み材として使用し、粘土を貼り付けてカマドを構築している。

2．周溝や壁柱穴は確認されたが、主柱穴は住居の内側はもとより、外側にも規則的に並ぶものは確認できなかった。

3．住居床面検出時の標高は、1号住居270.345m・縄文住居269.71m・14号住居269.60m・4号住居269.425m・6号住居266.96m・8号住居266.16m・13号住居265.46m・12号住居265.33mの地点にあり、1号住居と12号住居の標高差は5.015mある。勾配約74/1000となり、かなりの斜面に住居が分布している。

4．本遺跡の場合、北傾斜地には14号住居のみで、その他の住居は頂上部から南側斜面に偏って存在する。

5．傾斜地での住居の建築は山側をしっかり掘り、谷側は現地表面で止める工法が見られる。

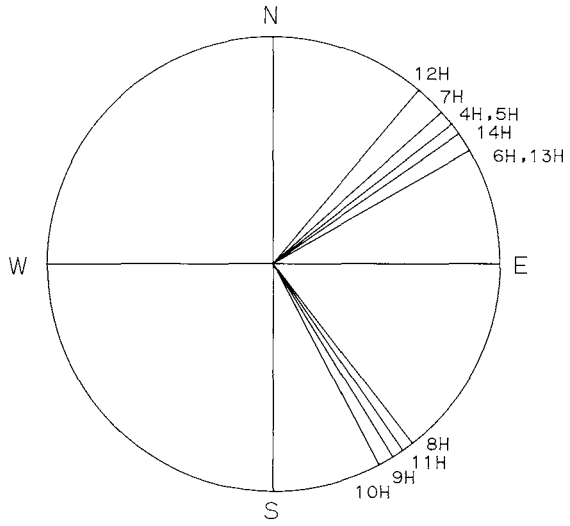
6．住居址の掘り込みの浅い割に遺物の残存状態が良好であった。

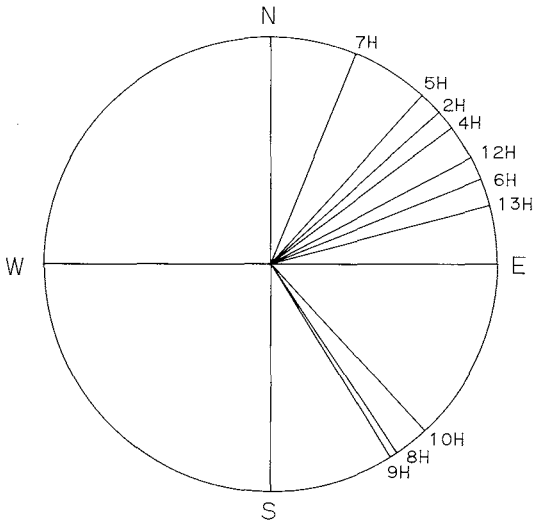
7．この住人達が住居を廃棄するに当たって緊急事態か疫病の発生により生活用具を残したまま、この地域を立ち去らなければならなかったことが想像される。

8．本遺跡では、遺物の内須恵器が占める割合が多い。

9．本調査区内の住居址で貯蔵穴を設置している住居は5軒、その5軒ともカマドの右側に貯蔵穴を設置している。

10．カマドの設置位置は住居址の北東方向と南東方向に2分類される。





第6図　　住居址主軸方向　　カマド設置方向

11．今回の調査区については住居址の主軸方向とカマドの中心軸方向がほぼ一致しており11号住居址も住居址主軸方向に類似した方向でカマドが設置されていたことが想像される。

12．土坑はまずロート状に掘り、中央を更に掘り込む形態の土坑である。最深部手前で川原石があり、その下に須恵器の破片を埋め込んでいる。その須恵器の下層には灰と淡黄色のロームが混入して軟らかな土層であった。

13．各遺構から縄文時代前期の土器片及び石鏃等が出土しているので、この他にも付近に縄文時代の住居が存在する可能性が考えられる。

遺物観察表

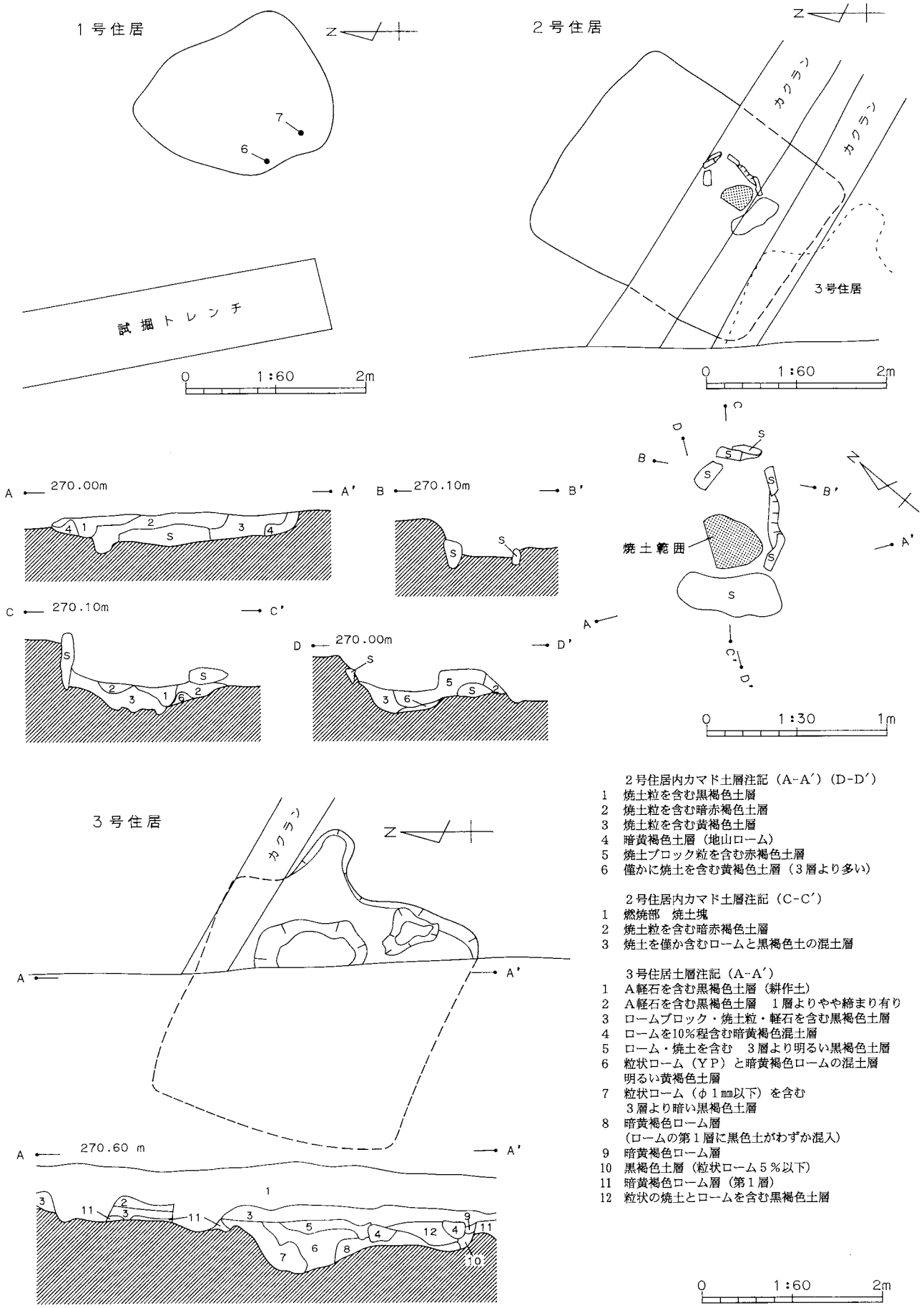
注：法量は①口径②底径③胴部最大径④頸部径⑤器高⑥長さ⑦幅⑧厚み⑨穿孔⑩重量〈①～⑨cm、⑩g〉（　）は推定値及び残存高を示す

No.	出土位置	器種	法量	胎土	焼成	色調	特徴	遺存
1	1J—5～8・10・11・13・15～20	深鉢形 縄文	①長辺27.0(楕円) ⑤(24.5)	繊維を多量に含む 微砂粗砂	良	外 黒褐 5YR3/1 内 橙 5YR6/6	口縁は波状を呈し、外面は口～胴部に波状縄文を呈す 口唇部に半截竹管による弧形文 内面撫で 接合27・28・30～35	1/8
2	1J—2	深鉢 (口～胴) 縄文	①46.8⑥11.4 ⑧0.9	多量繊維 細砂	良好	灰赤 10R5/2	平口縁 口唇部は段々にした櫛状工具の先端を器面に押し当てた半截竹管状施文0.5cm程 その下に結節羽状縄文 内面横撫で 繊維痕明瞭 前期関山II	破片
3	1J—26	小型鉢 縄文	①(13.3)⑥11.2 ⑧0.6～1.1	繊維 細砂	良好	明赤褐 25YR5/6	平口縁 胴部は直線的に底部へ向かって窄まる 斜行縄文 煤付着 内面横撫で 多量の繊維を含む	破片
4	1J—2	深鉢 胴部片 縄文	③(52.8)	軽石砂粒 多量繊維	良	灰赤10R5/2～赤褐10R4/3	胴中位に膨らみあり 羽状縄文(9単位の結節縄文)が拓本右側で菱形文を作る 内面繊維痕が目立つ2番と同一個体 炭化物付着 内面にぶい橙5YR6/4	破片
5	1J	敲石	⑥16.6⑦7.9⑩790				僅かな窪み 両端敲打痕が見える	完形
6	1H—18	坏 須恵	②6.5 ⑤(1.5)	砂粒	良 酸化	暗オリーブ灰 5GY3/1	右回転ロクロ整形 底部糸切り後1～3㎜粘土を足し再度右回転糸切り(底部に接合痕あり)	底部
7	1H—19	羽釜 土師質		粗 細砂	やや軟	にぶい褐	輪積み成形 ロクロ使用 酸化 7.5YR6/3	破片
8	3H—括	高台付埦 須恵	①(11.0)⑤(4.0)	砂粒 僅か粗砂	良好	青灰 10G5/1	回転ロクロ成形 貼付高台 外面口縁部に墨塗布	口縁部 1/8弱
9	4H—1・2・16・19	坏 須恵	①(12.0)②7.4	粗 細砂	良好	灰白 7.5Y8/2	右回転ロクロ成形 回転糸切り外面1/3黄橙色塗布	3/4
10	4H—8・2カ	坏 須恵	①12.0②7.0⑤3.3	粗 微砂	良好	灰白 7.5Y8/1	右回転ロクロ成形 底部糸切り	ほぼ完
11	4H—9	坏 須恵	①12.6②7.0⑤4.0	粗 微砂	良好 還元	灰白 10Y7/1	右回転ロクロ成形 底部糸切り 外面黒色処理 内面薄い黒色処理	ほぼ完
12	4H—17	坏 須恵	①12.6②7.8⑤3.6	砂粒と微・粗砂	良	灰白 7.5Y8/2	右回転ロクロ成形 底部糸切り 外面黒色処理内面薄い黒色処理	ほぼ完
13	5H—39	坏 須恵	①14.0②5.0⑤4.1	砂粒と僅か粗砂	やや軟	灰 7.5Y6/1	右回転ロクロ成形 回転糸切り 内外面の口縁付近に薄い黒色塗布	ほぼ完
14	5H—16	坏 須恵	①(13.5)②(7.0)	粗・砂粒	良好	灰 7.5Y6/1	右回転ロクロ成形 粗い回転糸切り ⑤3.5	1/2強
15	5H—括	坏 須恵	①(13.0)②(6.7)	粗砂	良	灰オリーブ5Y6/2	右回転ロクロ成形 回転糸切り	1/3
16	5H—13	坏 須恵	①13.0②6.4⑤3.7	微・粗砂	良好	灰白 10Y8/1	左回転ロクロ成形回転糸切り「大」字線刻あり	ほぼ完
17	5H—24	坏 須恵	①(13.7)②7.3 ⑤4.0	微砂 粗砂	良好	灰白 5Y7/1	右回転ロクロ成形 回転糸切り 内外面に黒色付着物あり 焼成時に松灰付着、その後水にさらされたあと自然剝離 秋間焼き 杵打ち	2/3
18	5H—19	坏 須恵	①(15.0)②(7.1) ⑤3.8	砂粒 粗砂	やや軟	灰 10Y6/1	右回転ロクロ成形 切り離し後静止糸切り 底部肉厚二度切り離し 底～体部黒色 内外面煤付着	1/2弱
19	5H—15	坏 須恵	①(14.0)②(7.2)	砂～粗砂	良	暗青灰	右回転ロクロ成形 回転糸切り 10BG4/1	1/5強
20	5H—28	皿 須恵	①(12.8)②(6.4) ⑤2.8	砂粒 粗砂	良好	暗青灰 5PB4/1	右回転ロクロ成形 回転糸切り 付け高台 口縁部の一部に歪みあり	1/2弱
21	5H—12	甕 土師	②8.2 ⑤(5.0)	砂粒粗砂 石英輝石 雲母	良	にぶい橙 5YR6/4	底部は厚く、胴下半部1cm間に刷毛状工具により9本の刷毛目施文 外面篦削り後刷毛目 底部左回転糸切り痕 内面ロクロ成形	底部
22	5H—3	壺 須恵	②(10.0)⑤(3.1)	微・細砂	やや軟	灰	回転ロクロ成形 底部篦切り 内外面丁寧な撫で 内面灰白 N81	底部 1/2
23	5H—25・33	高台付埦 須恵	①(22.8)②15.9 ⑤9.2	砂粒粗砂 石英長石	良好	暗青灰 5PB4/1	右回転ロクロ成形 静止糸切り痕 高台部の接合明瞭 底部にひび割れ 中央部に撫で痕が磨耗している	口縁部 3/4欠
24	5H—22	支脚石	⑥18.1⑦7.9⑧4.4 ⑩930			暗赤褐 2.5YR3/3	竈前から出土 岩石は暗オリーブ灰 2.5GY4/1 火受け(スクリーントーン)	完形
25	6H—31	蓋 須恵	摘み部径(3.7) ⑤(1.7)	砂粒 僅か粗砂	良好	オリーブ灰 5GY6/1	ロクロ成形後摘みから2.6cm粘土追加 その部分の篦撫でが雑	蓋摘部
26	6H—22	蓋 須恵	①14.8⑤1.8	砂粒 粗砂	良好	青灰 5B5/1	摘部に焼成時の窯体の剝落物の付着 内外面右回転ロクロ成形	ほぼ完
27	6H—29	坏 須恵	①13.4②9.6⑤3.8	砂粒 僅か粗砂	やや軟	オリーブ黒 10Y3/2	右回転ロクロ成形後修正の為指押え 回転糸切り後軽い撫で 外面成形後黒色処理 内面淡黄7.5Y8/3	完形
28	6H—5	坏 須恵	①(14.5)②(9.2) ⑤4.4	砂粒 僅か粗砂	良好	暗オリーブ灰 2.5GY4/1	右回転ロクロ成形 糸切り痕 外面自然釉 内面(灰7.5Y6/1)と底部に他の須恵器の焼き付き痕	1/2
29	6H—28	坏 須恵	①14.8②9.3⑤4.4	砂粒 僅か粗砂	やや軟	緑灰 5G6/1	右回転ロクロ成形 底部糸切り痕 全体に肉厚で重量感あり 内面淡黄色(5Y8/3)	3/4
30	6H—14	坏 須恵	②9.0⑤(3.0)	粗・砂粒	良	灰白 2.5Y2/1	右回転ロクロ成形後底部篦切り篦調整	底部
31	6H—18	長頸壷 須恵	⑤(5.6) 肩部(19.8)	微砂	良好	青灰 10BG5/1	ロクロ成形後高台貼付後外面肩部刷毛状工具による平行沈線 肩部に7本の櫛目痕 内面頸部剝がれ	肩 1/2強
32	6H—38・10カ カ—括	甕 土師	①(21.4)③(20.6) ④(17.3)⑤(9.5)	砂粒	良好	明赤褐 2.5YR5/8	口縁部内外面とも横撫で指頭圧痕 外面肩部横方向篦削りそれ以外は縦方向篦削り 内面篦撫で	1/3
33	6H—6・9・15・7カ 10カ・34カ	甕 土師	①(22.6)③(21.0) ⑤(14.3)	多量の砂粒	良好	にぶい赤褐 2.5YR5/4	口縁部は直線的に開き、胴部は丸味を持つ 口縁部内外面横撫で 外面胴上半部横方向篦削り 胴中位は斜め方向篦削り 煤付着 内面篦撫で	1/4弱
34	6H—14カ・29カ	甕 土師	①(19.6)③(23.0) ⑤(25.5)	多量の砂粒	やや軟	赤 7.5R4/8	輪積み成形 口縁部は「コ」字状を呈し、内外面横撫で 外面胴上半部横方向の篦削りと胴下半部は斜及び縦方向篦削り 内面篦撫で	1/3弱
35	6H—13カ・21カ 24カ・25カ 46カ	甕 土師	②5.2③20.4 ⑤(25.3)	多量の細砂	良	橙 2.5YR6/6	肩から胴上半部横方向篦削り後撫で 外面斜め方向篦削り 胴中位から底部は斜及び縦方向篦削り煤付着 内面篦撫で	4/5 頸～底部
36	6H—33カ	甕 土師	①22.0③20.8 ④18.1⑤30.2	多量の砂粒	やや軟	赤 10R5/8	最大径を口縁部に持つ 口縁部は内外面横撫で 頸部縦方向篦削り後横撫で。胴部斜方向、底部横方向内面胴上半部横方向、一部縦方向篦削り	ほぼ完
37	6H カ マ ド1・3・2326～28・32・38 40・42・43・47	甕 土師	①(22.5)②(3.4) ③(33.2)⑤(27.3)	微砂 僅か粗砂	良好	赤褐 10R5/4	口縁は短く外反しながら立つ 胴部は球形を呈す外面は斜方向篦削り煤付着 内面は鈍い橙色で篦撫で 底部欠損	3/4
38	6Hカ	支脚石	⑥21.6⑦12.1 ⑧5.7⑩2,510			明褐灰5YR7/1	安山岩 火を受け赤色に変化する 裏面煤付着	完形
39	6H—括	敲石	⑥11.7⑦5.0⑧4.0 ⑩370		にぶい赤褐色	5YR4/4	全体的に火受け 本来は灰白色 両端に敲打痕	完形
40	6H—1	敲石	⑥(7.6)⑦5.5 ⑧3.7⑩220			灰オリーブ5Y6/2	安山岩 先端部敲打痕あり	1/2強

No.	出土位置	器種	法量	胎土	焼成	色調	特徴	遺存
41	7H—37	坏 須恵	①14.3②7.2⑤3.0	砂粒 粗砂	良好	灰白 5B5/1	右回転ロクロ成形 底部糸切り後外周撫で調整 2度糸切り 内面口縁部に炭化物僅か付着 外面灰色	完形
42	7H—17	高台付埦 須恵	①15.7②7.9⑤5.6	多量砂粒 僅か粗砂	やや軟	灰白 7.5Y8/2	右回転ロクロ成形後静止糸切り後高台部貼付調整内面灰白色の釉薬塗布	ほぼ完
43	7H—13・14	甕 土師	①(13.0)④(11.4) ⑤9.6	微砂 僅か粗砂	良好	にぶい赤褐 2.5YR4/4	輪積成形後口縁横撫で 体部外面篦削り 内面撫で	1/4弱
44	7H—4・6・8・9カ	甕 土師	①19.0③20.4 ⑤(22.9)	やや大粒 の砂粒	良好	淡黄橙 10YR8/4	輪積成形後口縁部横撫で 体部外面篦削り 内面撫で	1/2弱
45	7H—5カ	甕 土師	①(18.1)⑤(7.3)	砂粒	良好	明褐7.5YR5/6	輪積成形後 口辺部横撫で 体部篦削り 内面篦撫で 後撫で 胴部内面に僅か炭化物付着 内面赤褐5YR4/6	口～胴上半部
46	7H—15・29	甕 土師	①(21.2)⑤(8.0)	細砂	やや軟	淡橙 5YR8/3	輪積み成形後外面篦削り内面撫で 外面の一部は淡橙一部は灰白 外面煤付着 内面7.5YR8/2	口縁部 1/3
47	8H—5カ	坏 須恵	②(6.7)⑤(2.0)	細砂	良好	灰白 7.5YR8/1	右回転ロクロ成形 回転糸切り 外面底部糸切り後の指痕有り 内面焼き締まりによるひび割れ有り	
48	8H—79	坏 須恵	②8.1⑤(1.5)	微砂 細砂粗砂	やや軟	灰白 5Y8/1	右回転ロクロ成形 回転糸切り 底部に台を作り出し横撫で 内外面とも砂質	底部
49	8H—括	坏 須恵	①(13.4)②(6.8) ⑤3.3	微砂 粗砂	やや軟	灰 N5/1	右回転ロクロ成形 回転糸切り後一部撫で調整 外面に薄墨塗布 内面灰白2.5Y8/1	1/3
50	8H—22・29	坏 須恵	①13.4②7.2⑤3.7	細砂 粗砂	良好	青灰 5B6/1	右回転ロクロ成形 回転糸切り体部内面ひび割れ焼き締まりによる歪み有り	ほぼ完
51	8H—113 115	坏 須恵	①(13.5)②(7.0) ⑤2.9	砂粒 粗砂	良好	青灰 5B5/1	右回転ロクロ成形後回転糸切り 内外面ロクロ撫で痕 高台の様な作り出しが見られる	1/2弱
52	8H—17	坏 須恵	①13.5②7.0⑤3.8	微砂	良	灰 N5/1	右回転ロクロ成形後回転糸切り 底部周辺撫で調整 内外面滑らか 薄墨塗布 底部に工具痕	完形
53	8H—括	坏 須恵	①(13.6)②6.5 ⑤4.3	微砂	良好	灰白 N7/	右回転ロクロ成形 回転糸切り内面炭化物付着	1/3
54	8H—15	坏 須恵	①(13.6)②7.2 ⑤3.8	砂粒	良好	緑灰 5G6/1	右回転ロクロ成形 回転糸切り 体部内面ひび割れ底部に工具痕6ヶ所 体部外面に段有り	3/4
55	8H—119	坏 須恵	①(13.8)②7.8 ⑤3.8	砂粒 粗砂	良	緑灰7.5GY6/1	回転ロクロ成形糸切り 内外面雑な撫で 体部に段有り	3/4
56	8H—括	坏 須恵	①(14.0)②(6.6) ⑤3.9	微砂 僅か粗砂	良好	灰白 7.5Y8/1	右回転ロクロ成形 回転糸切り 外面の一部灰白(5YR8/2)	底部 1/3
57	8H—16	坏 須恵	①(14.0)②(6.8) ⑤3.1	細砂 僅か粗砂	良好	暗青灰 5BG4/1	内外面右回転ロクロ成形 回転糸切り	1/4
58	8H—括	坏 須恵	①(14.0)②6.8 ⑤4.1	砂粒 粗砂	良	灰白 N8/	右回転ロクロ成形 回転糸切り	1/2弱
59	8H—括	坏 土師質	①(14.0)②7.5 ⑤4.0	細砂	軟	暗オリーブ灰 2.5GY4/1	右回転ロクロ成形 回転糸切り 口縁から体部に墨塗布 内面と底部に鈍い橙(7.5YR7/3)	1/5
60	8H—31	坏 須恵	①(14.0)②(8.1) ⑤3.4	細砂 粗砂	良好	オリーブ灰 2.5GY6/1	右回転ロクロ成形 回転糸切り 墨塗布 内面紫灰(5P5/1)	1/4
61	8H—30・33・37	坏 須恵	①(14.0)②(8.5) ⑤4.2	微砂 砂粒	やや軟	灰白 10Y8/1	右回転ロクロ成形 回転糸切り 底部糸切り後周辺調整 口縁黒色塗布 内面灰白(7.5Y8/2)	1/4
62	8H—23・74	坏 須恵	①(14.2)②7.4 ⑤3.8	砂粒 粗砂	軟	灰白 2.5Y8/2	右回転ロクロ成形 回転糸切り 外面の一部に墨塗布 内面灰白(N7/)	1/3
63	8H—20・85	坏 須恵	①14.2②7.5⑤3.6	微砂粗砂	やや軟	灰 N4/	右回転ロクロ成形 回転糸切り 土師質 薄墨塗布	1/2弱
64	8H—48・91・127	坏 須恵	①(14.4)②9.0 ⑤3.8	微砂 僅か粗砂	軟	灰白 N7/1	右回転ロクロ成形 回転糸切り 外面3/4薄墨塗布僅か上げ底	3/4
65	8H—1カ	坏 須恵	①(14.8)②(7.5) ⑤3.6	微砂 僅か粗砂	軟	暗緑灰 5B4/1	右回転ロクロ成形 回転糸切り 外面薄墨塗布 内面灰白(7.5Y8/1)	1/4弱
66	8H—98	坏 須恵	①(15.4)②(7.2) ⑤3.1	砂粒 僅か粗砂	良好	青灰 5BG5/1	右回転ロクロ成形 回転糸切り 焼き締まりによる歪み有り底部の台を作り出す	1/54強
67	8H—括	高台付埦須恵	②7.0⑤(1.7)	細砂	良好	灰白 N4/	右回転ロクロ成形 回転糸切り 内面灰釉	底部
68	8H—括	高台付埦須恵	②(7.0)⑤(2.3)	細砂粗砂	良好	緑灰 10GY6/1	右回転ロクロ成形 回転糸切り	底2/3
69	8H—括	高台付埦須恵	②(7.3)⑤(2.8)	砂粒粗砂	良好	灰白 N8/	右回転ロクロ成形 回転糸切り後貼付高台	底1/2
70	8H—括	高台付埦須恵	②(7.0)⑤(2.9)	細砂粗砂	良好	暗青灰 10BG4/1	右回転ロクロ成形 回転糸切り後貼付高台	1/2
71	8H—括	高台付埦 須恵	②(8.0)⑤(3.0)	砂粒	良好	緑灰7.5GY5/1	右回転ロクロ成形 回転糸切り後貼付高台 内面底部に使用中の磨耗痕有り	底部 1/2
72	8H—4カ・竈—括	高台付壷 須恵	⑤(1.8) 高台径10.1	微砂	良好	明オリーブ灰 2.5GY7/1	右回転ロクロ成形 回転糸切り後貼付高台	高台部のみ
73	8H—107	高台付埦 須恵	②(8.6)⑤(3.0)	砂粒 粗砂	良好	灰白 N8/	右回転ロクロ成形 回転糸切り後貼付高台 外面の一部に薄墨塗布 内面は淡黄色(2.5Y8/3)	底部 1/2
74	8H—41	高台付埦 須恵	①(13.0)②(6.5) ⑤4.8	砂粒 粗砂	良	灰 N5/1	回転ロクロ成形 回転糸切り後貼付高台 底部に高台部の剝がれ痕 表面凹凸有り	1/4
75	8H—括	埦 須恵	①(13.6)②(7.8) ⑤(5.6)	微砂細砂 僅か粗砂	良好	緑灰 10G5/1	回転ロクロ成形 糸切り後貼付高台 外面口～底迄撫でによる段有 内面撫で 器肉の中央は褐色7.5YR5/6	1/4弱
76	8H—68	高台付埦 須恵	①(14.0)⑤5.6 高台径6.8	細砂 僅か粗砂	良好	青灰 5B5/1	右回転ロクロ成形 回転糸切り後貼付高台底部と体部に粘土付着	1/3
77	8H—括	埦 須恵	①(14.2)⑤(4.5)	砂粒粗砂	良	灰 10Y6/1	口縁に輪積痕 ロクロ成形 外面僅か炭化物付着	
78	8H—86・116	高台付埦 須恵	①(14.8)⑤5.5 高台径(7.6)	細砂 僅か粗砂	良好	オリーブ灰 2.5GY6/1	右回転ロクロ成形 回転糸切り後貼付高台 二度糸切りを行っている	1/3
79	8H—45	高台付埦 須恵	①(15.6)②8.5 ⑤3.9	砂粒 粗砂	良好	暗青灰 5PB4/1	回転ロクロ成形 回転糸切り後貼付高台 表面に砂粒が浮き出している	1/4
80	8H—9	高台付埦 須恵	①(15.2)②(8.3) ⑤6.0	多量砂粒 粗砂	良好	灰 10Y6/1	回転ロクロ成形 糸切り後貼付高台 表面ザラ付く	2/3
81	Bf—8グ—1	高台付埦 須恵	①(16.0)②7.3 ⑤5.1	細砂 粗砂	良	明緑灰 7.5GY8/1	内外面撫で 口辺に黒色 高台貼付痕 部分的に煤付着	1/2
82	8H—114	高台付埦 土師質	①(16.2)②8.6 ⑤5.4	砂粒 粗砂	軟	灰 N6/	回転ロクロ成形 貼付高台 内外面の一部に薄墨塗布その他は浅黄橙(10YR8/4)	1/3
83	8H—70・76	甕 土師	①13.1②7.9 ③15.3⑤16.0	細砂 僅か粗砂	やや軟	黒褐 7.5YR3/2	右回転ロクロ成形後回転糸切り 外面全体に刷毛目内面撫で	ほぼ完

No.	出土位置	器種	法量	胎土	焼成	色調	特徴	遺存
84	8H—12カ 竈一括	甕 土師	①(18.2) ③(22.4) ⑤(10.3)	微砂 砂粒	良好	にぶい赤褐 5YR5/4	口縁は短く外反し「コ」字状を呈す 全体に丸味を持つ 外面 口縁部横方向撫で 肩から胴上半部横方向削り 胴中位から斜方向篦削り 指頭圧痕有り内面 口縁部横撫で 胴部横方向篦撫で	口縁～胴部1/3
85	8H—55・56	甕 土師	①(18.6) ③(19.6) ⑤(8.8)	微砂 砂粒	良好	外面 橙7.5YR 6/6 内面赤褐2.5 YR6/6	口縁部は「コ」字状を呈し厚みを持つ 口縁部に二段の輪積み痕 肩から胴部にかけて横～斜方向の篦削り 内面口縁横撫で	口縁～胴部1/2
86	8H—83	甕 土師	①(19.0)③(20.0) ⑤(7.5)	微砂砂粒 粗砂	やや軟	にぶい橙 5YR7/4	口縁部は「コ」字状を呈す 外面口縁から肩部迄横撫で 炭化物付着 内面胴部は刷毛状工具による撫で	口～肩部1/4
87	8H—150・151	甕 土師	①(22.0)③(21.0) ⑤(9.5)	砂粒	やや軟	橙 2.5YR6/8	口縁部は「コ」字状を呈す 外面口縁部横撫で 胴上半部は横～斜め方向の篦削り 内面撫で 胴部篦撫で 口縁部に炭化物付着 内面橙5YR7/8	口縁～胴上半1/3
88	8H—149	甕 土師	①(19.2)⑤(4.0)	砂粒	良好	にぶい橙 5YR7/4	口縁は短く「く」字状に屈曲 外面口縁部横撫で 肩部横方向の篦削り 内面口縁横撫で 胴部篦撫で	口縁部1/5強
89	8H—27	皿 須恵	②(6.8)⑤(1.8)	微砂細砂	良	灰白 N7/	右回転ロクロ成形後糸切り 内外面に薄墨塗布	底1/2
90	8H—32	皿 須恵	①(13.4)⑤2.7 高台径7.0	微砂 粗砂	良好	暗灰 N3/1	右回転ロクロ成形 回転糸切り 外面 墨塗布 内面 薄墨塗布	3/4
91	8H—120	皿 土師質	①(13.4)②(7.6) ⑤2.4	微砂粗砂	軟	オリーブ黒 10Y3/1	回転ロクロ成形後回転糸切り 高台部貼付	1/2
92	8H—括	皿 須恵	①(14.0)②(6.6) ⑤(2.2)	微砂	やや軟	緑黒 5G2/1	回転ロクロ成形 回転糸切り後高台貼付痕 外面刷毛状工具で平行沈線 内外面墨塗布 内面撫で調整	3/4
93	8H—2	甕 土師	①19.0②(4.8) ③20.6⑤26.6	微砂砂粒 粗砂	良	にぶい橙 7.5Y7/4	輪積成形後口縁部横撫で 外面上位横方向篦削り下位斜方向篦削り 内面上位篦撫で下位撫で	完形
94	8H—8カ	甕 土師	①(19.4) ⑤(16.3)	微砂 細砂	良好	橙 5YR6/6	輪積成形後口縁部横撫で 体部外面上位横方向篦削り 下位斜方向篦削り 内面上位篦撫で 竈煙道部に口縁を下にして設置	1/2
95	8H—括	甕 土師	①(20.0)③(21.2) ⑤(6.2)	微砂 細砂	良好	明赤褐 2.5YR5/6	口縁は「コ」字状を呈す 内外面横撫で 外面肩部横方向篦削り 頸部に指頭圧痕明瞭 内面篦撫で	口～肩1/4強
96	8H—66・72・97 148・カ—括	甕 土師	①(20.4)③(20.1) ④(17.5)⑤(16.0)	微砂 砂粒 粗砂	良好	橙 5YR6/6	肩部に輪積痕明瞭 口縁部内外面横撫で 外面肩部迄横撫で 胴下半部から縦方向篦削り 内面刷毛状工具の撫で後指撫で 煤付着	口～胴1/7
97	8H—102	甕 土師	①(20.8)③(20.8) ④(17.8) ⑤(11.7)	微砂	やや軟	橙 2.5YR7/6	口縁部は「コ」字状を呈し輪積痕 内外面横撫で 口縁部径と胴部最大径が同じ 外面胴上半部は斜方向篦削り 内面篦撫で	1/3
98	8H—6・8・9・13	甕 土師	②(3.4) ③(29.6) ④(16.2)⑤(24.3)	微砂 細砂	良好	明赤褐 2.5YR5/6赤 褐 塗彩	頸部の括れから「コ」字状口縁を呈すると思われる器肉が薄く 内外面に赤色塗彩 外面胴上半部は斜方向篦削り 胴中位から下部は縦及び斜方向篦削内面篦撫で 接合部は刷毛状工具による撫で 赤褐	1/4
99	8H—81・84	甕 土師	①(21.3)③(22.8) ④(20.0)⑤(16.0)	微砂 砂粒	良好	明赤褐 2.5YR5/6部 分 的に赤 10R4/8	口縁部は「コ」字状 内外面横撫で 胴上半部に最大径を持つ 外面胴上半部は横方向の篦削り 下半部は斜～縦方向の篦削り 内面丁寧な撫で 胴中位に剝れ接合部に刷毛状工具による撫で 炭化物付着	1/3
100	8H—141	甕 土師	①(23.0)③(22.0) ④(20.6)⑤(16.8)	砂粒 僅か粗砂	良	明赤褐 5YR5/8	口縁部は「コ」字状を呈し 内外面撫で 輪積痕 外面胴上半部は横方向の篦削り 胴中位は縦方向の篦削り 内面篦撫で 下位に接合痕	1/7
101	8H—140	甕 土師	①(24.2)③(22.6) ⑤(7.9)	多量の砂粒	良好	赤褐 2.5YR4/6	多量の砂粒を含み外面全体粗い 口縁部横撫で 胴部横方向の篦削り 内面撫で 胴部篦撫で 輪積痕	口縁1/6
102	8H—14・47・58・67・69	甕 土師	②3.0③(19.1) ⑥(19.0)	砂粒	良	にぶい赤褐 5YR5/4	器肉は薄く胴中位に最大径 外面斜～縦方向の篦削り下部刷毛状工具の撫で 煤付着 内面篦撫で	1/2弱
103	8H—括	紡錘車 鉄製品	①6.1⑥(10.2) ⑧0.2～0.4⑨0.4				軸の両端欠損 弾み車は完形 中空の軸を円盤に挿入している ベルト内より出土 ⑩71.97	4/5
104	8H—65	刀子 鉄製品	⑥5.6⑦0.9 ⑧0.25⑩14.93				竈前より出土 両端欠損 錆の付着が多く原形不明断面形から刀子と考えられる	2/3弱
105	8H—7カ	甑 土師	⑤(7.0)⑨(14.0)	砂粒 粗砂	良好	褐 7.5YR2/1	底～胴部の斜方向篦削り 外面底部から2㎝程上位から黒色 内面横～斜方向撫で 暗褐7.5YR3/4	底部1/9弱
106	8H—1	甕 須恵	①14.4②11.7 ③22.0⑤23.0	微砂 僅か粗砂	良好	胴上半部青灰 5PB6/1	口縁部短く内外面回転ロクロ成形 底部は切り離し後篦撫で(9㎜の粘土付け足し)貯蔵穴内長頸壷と土師器甕がセットで出土 胴下半部灰白7.5Y8/1	1/3
107	8H—3	長径壷 須恵	②11.0③19.7 ④7.0⑤(19.6)	微砂砂粒 僅か粗砂	良	青灰 5PB6/1灰白 5Y8/1	回転ロクロ成形篦後貼付高台 外面回転篦撫で 篦あて痕 内面頸部から胴上半に付着物有り	ほぼ完
108	9H—2カ	高台付埦 須恵	②(16.8)⑤(5.2) 高台径(9.4)	砂粒 僅か粗砂	良好	灰白 N7/	右回転ロクロ成形篦切り篦調整後高台貼付欠損 内外面丁寧な撫で調整 内面 明オリーブ灰(2.5 GY7/1)	1/2強
109	9H—12	高台付埦 須恵	①(19.4)⑤(5.2)	細砂 粗砂	良好	明青灰 5B7/1	右回転ロクロ成形 切り離し後高台貼付 内外面丁寧な撫で調整	口縁部1/5強
110	9H竈一括	埦 須恵	①(19.6)⑤(5.9)	微砂 細砂	やや軟	灰白 N8/	回転ロクロ成形 内外面撫で調整 外面撫で調整による段 内面剝がれ有り	口縁部1/5
111	9H—4カ	大形鉢 土師	①(27.4)⑤(13.0)	砂粒粗砂	良好	にぶい橙5YR7/4	輪積成形後口縁部横撫で 外面篦削り 内面撫で	1/3
112	10H—15	坏 土師	①(14.2)②9.6 ⑤3.1	砂粒 粗砂	やや軟	橙 5YR6/8	輪積後ロクロ成形 外面体～底部に帯状に赤色塗彩(10K6/8)	3/4
113	10H—24 9H—1カ	高台付埦 須恵	①13.4⑤7.0 高台径9.4	微砂 黒色小礫	良好	灰白 N7/1	右回転ロクロ成形 篦切り後高台貼付 外面の一部に薄墨塗布 内面灰白(7.5Y8/1)	1/3
114	10H—2カ	小型壷 土師	①(13.0) ③(16.0) ⑤(10.3)	多量砂粒	良	暗赤灰 2.5YR3/3	口縁部内外面横撫で 頸部は「コ」字状を呈す 外面胴上半部は横方向の篦削り 下半部斜方向篦削り内面全体篦撫で 全体に小型で薄手	1/4
115	10H—12・28	甕 土師	①(23.0)④18.4 ⑤(7.8)	多量砂粒	良好	にぶい褐 7.5YR5/4	「コ」字状口縁 輪積成形後内外面横撫で 外面頸部付近は横撫で 胴部は斜方向の篦削り 内面篦撫で	口縁部1/4
116	10H—1カ	甕 土師	②6.8⑤(6.2)	多量砂粒	良好	暗赤褐 2.5YR3/3	胴下半部は斜位の篦削り 内面篦撫で指押さえ痕底部篦撫で 灰付着 残存は底～胴部	1/10
117	11H—5	石器	⑥17.1⑦6.1⑧5.3 ⑩570				安山岩 先端部に敲打痕有り 断面三角形で握った所が指の磨耗痕と思われる	完形
118	11H—6	甑 土師質	②(14.0)	微細粗砂	良	褐 7.5YR4/6	輪積成形後外面篦削り内面胴下半部篦撫で	底 1/4
119	11H—3	坏 須恵	①11.5②7.6 ⑤3.4	細砂	良好	灰白 N7/	右回転ロクロ成形 底部篦切り篦調整 内外面丁寧な撫で調整 一部に灰釉	ほぼ完
120	12H—7・12	坏 須恵	①(13.2)②(7.2) ⑤4.0	微砂	良好	灰白 N7/	右回転ロクロ成形 切り離し後底部篦調整 胎土と焼成から搬入土器と思われる	1/3

No.	出土位置	器種	法量	胎土	焼成	色調	特徴	遺存
121	12H—1	坏 土師質	①13.6②9.0 ⑤4.1	多量の粗砂	軟	明赤褐 5YR6/6	口唇部横撫で 外面体～底部篦削り 内面細い篦による磨き	ほぼ完
122	12H—括	坏 土師質	①(14.4)②(9.0) ⑤3.8	微砂 僅か粗砂	良	灰白 10YR8/2	右回転ロクロ成形 回転篦切り調整 内部迄熱が通っていない	1/4
123	12H—10	坏 須恵	①14.4②7.5 ⑤4.5	多量の砂粒	良好	灰白 10YR7/1	右回転ロクロ成形 回転糸切り 体～底部篦調整 自然釉	ほぼ完
124	12H—2	石鏃 黒曜石	⑥(3.7)⑦1.5 ⑧3.5⑩1.02				平基無茎鏃 先端欠損 中期	4/5
125	12H—1カ	甕 土師	①(21.5)③(22.4) ④(18.3)⑤(14.4)	微砂 砂粒	良好	赤 10R5/6	口縁部に輪積痕 内外面横撫で 外面横～斜方向篦削り 頸部に強い篦あて痕と指頭圧痕 内面篦撫で頸部に刷毛状工具による3～5条の沈線が一周	4/5強
126	12H—16	甕 土師	①(18.4)③(18.4) ④(16.0)⑤(7.5)	多量の砂粒	良	明赤褐 5YR5/6	口縁部は内外面篦撫で「コ」字状を呈す 外面胴上半部横方向 肩部斜方向の篦削り 内面胴上半部横方向篦撫で	口縁部 1/4弱
127	12H—2カ	台付甕 土師	⑤(3.5) 台頸部4.6	多量の砂粒	良好	暗赤 10R3/4	外面篦削り 粘土塊有り内面篦撫で 内外面煤付着	底部 接合部
128	13H—20	高台付埦須恵	②(8.0)⑤(3.1)	細砂	良好	灰 N5/	ロクロ成形 糸切り後高台部貼付 内外面薄墨塗布	底1/2
129	13H—27カ・35カ	高台付埦 須恵	⑤(2.6) 高台径8.1	僅か粗砂	良好	灰白 10y8/1	右回転ロクロ成形 静止糸切り後高台部貼付 内外面の一部に薄墨塗布	3/4弱
130	13H—21	高台付埦 灰釉陶器	⑤(2.1) 高台径6.6	微砂	良好	灰白 10Y8/1	右回転ロクロ成形 切り離し後貼付高台 篦調整 体部内面に灰釉	底部
131	13H—2	坏 須恵	①13.3②6.0⑤4.1	砂粒 粗砂	良好	明オリーブ灰 2.5GY7/1	右回転ロクロ成形 回転糸切り 底部周辺篦調整 僅か歪み有り	完形
132	13H—1	長頸壺 須恵	①(17.6)④9.6 ⑤(13.7)	砂粒 粗砂	良	青灰 5BG6/1	回転ロクロ成形 頸部接合痕有り 接合部指押え	口～頸 1/2
133	13H—2カ	坏 須恵	①(13.4)②6.5 ⑤4.0	砂粒 粗砂	軟	灰黄褐 10YR4/2	右回転ロクロ成形 回転糸切り後粘土付着 内外面薄墨塗布	1/2弱
134	13H—31カ	坏 須恵	①13.4②6.5⑤3.9	多量の粗砂	やや軟	灰白 10Y8/1	右回転ロクロ成形 回転糸切り 軽く撫で調整 内外面口縁部に僅か炭化物付着	完形
135	13H—49	高台付埦 灰釉陶器	①(17.3)⑤5.5 高台径9.0	微砂	良好	灰白 10Y8/2	回転ロクロ成形 切り離し後貼付高台 上半部に施釉	2/3
136	13H—22カ 28カ・33カ	坏 須恵	①(13.8)②6.2 ⑤4.3	多量砂粒	やや軟	明オリーブ灰 5GY7/1	右回転ロクロ成形 回転糸切り後体～底部の境撫で 接合37カ・41カ 内面底部篦撫で 白瓷(10C後半)	1/2
137	13H—1カ	高台付埦 須恵	①(14.7)②(7.5) ⑤4.7	砂粒 粗砂	良好	緑灰 10GY5/1	回転ロクロ成形 回転糸切り後貼付高台 内外面回転撫で	1/4
138	14H—3	甕 土師	①(21.0)③(22.0) ④(18.4)⑤(10.5)	微砂	良好	にぶい橙 5YR6/3	口縁部は「コ」字状を呈し横撫で、指押え・輪積痕明瞭 外面胴上半部横方向、胴中位斜方向篦削り 内面「コ」字状口縁中位～胴部は刷毛状工具で横撫で	口～胴 1/3
139	14H—13	坏 須恵	①(13.0)⑤(3.8)	微砂	良好	紫灰 5PB5/1	回転ロクロ成形 回転糸切り後撫で調整 撫でによる段顕著 内外面薄墨塗布	口縁部 1/4
140	14H—15	坏 須恵	①(13.6)②(7.0) ⑤3.3	微砂 僅か粗砂	良	灰 7.5Y6/1	右回転ロクロ成形 回転糸切り 底部周辺軽く調整底部中央焼き締まりによるひび割れ	1/3
141	13H—カマド	左支脚石	⑥17.8⑦5.4⑧5.6 ⑩300			暗赤褐5YR3/6	粒の細かい、あまり締まりのない砂岩	完形
142	13H—カマド	右支脚石	⑥16.0⑦7.3⑧5.0 ⑩460			褐 10YR4/6	左支脚石より焼き込みが少ない 下部僅か欠損	ほぼ完
143	土坑1—括	坏 須恵	①(12.4)②(8.2) ⑤3.2	砂粒 粗砂	良好	青灰 5BG5/1	右回転ロクロ成形 底部篦切り後篦調整	1/5
144	土坑1—括	大甕 須恵	⑤(3.5) ⑧0.85～1.0	砂粒 僅か粗砂	良好	緑灰 5G6/1	丸底部内面中央に円形粘土貼付 外面平行叩き目文 内面青海波文 底部は磨きがかかる	底部
145	土坑2—4・5	小型甕 土師質	①(12.0)⑤(8.5)	砂粒	良	褐10YK4/14	回転ロクロ成形 外面全体に櫛状工具による平行沈線 内面口縁部にも及ぶ 頸～胴部撫で 内面 にぶい黄橙10YR7/14	1/3
146	土坑2—36	大甕 須恵	①(27.2)⑤(9.5)	砂粒 粗砂	良好	オリーブ灰 5GY6/1	輪積ロクロ成形 頸部接合痕 外面肩部の平行沈線が灰釉によって埋まる 内面接合部に縄目あり	口縁部 1/2
147	土坑4—括	坏 須恵	①13.0②9.2⑤3.8	細砂	やや軟	灰 N6/	右回転ロクロ成形 回転糸切り 外面墨塗布 内面口唇部に薄墨塗布 内面灰白(N8/)	1/3
148	土坑4—40	大甕 須恵	⑧0.9～1.4	多量の細砂 粗砂	良好	明オリーブ灰 2.5GY7/1	輪積 外面平行叩き目文 撫で調整 内面円形叩き目文 土坑の深堀の上に埋納された須恵器片	大甕の底部
149	土坑5—括	高台付埦 須恵	①(12.4)⑤5.8 高台径7.8	多量砂粒 僅か粗砂	良	暗青灰 5BG4/1	右回転ロクロ成形 回転篦切り後貼付高台 内外面の一部に煤付着	1/2強
150	Ac—3グ—3	深鉢胴部 縄文	③(37.3)⑤(8.9)	微砂砂粒 粗砂	良	外灰褐5YR5/2	胴部は外反気味に立ち上がる LRの地文が充塡し2～3状の平行沈線を1.5cm間隔で施し曲線文を充塡	破片
151	Al—12グ—29	坏 須恵	②(7.0)⑤(1.5)	微砂粗砂	良好	灰白 7.5Y8/1	右回転ロクロ成形 糸切り後面取 粘土塊数点付着	底 1/2
152	一括	坏 須恵	①13.3②7.0⑤3.9	細砂 砂粒粗砂	良好	灰 N4/	右回転ロクロ成形 回転糸切り後面取り 内外面墨塗布 内面口縁付近に自然釉 B軽石層中より出土	完形
153	一括	高台付埦 須恵	⑤(2.0) 高台径6.7	微砂	良	暗緑灰 5G3/1	右回転ロクロ成形 回転糸切り 底部と高台内に墨書き文字有り 内外面墨塗布 底部重ね焼き痕有り内面と高台内側は灰白(10Y8/1) 墨書「前」	底部

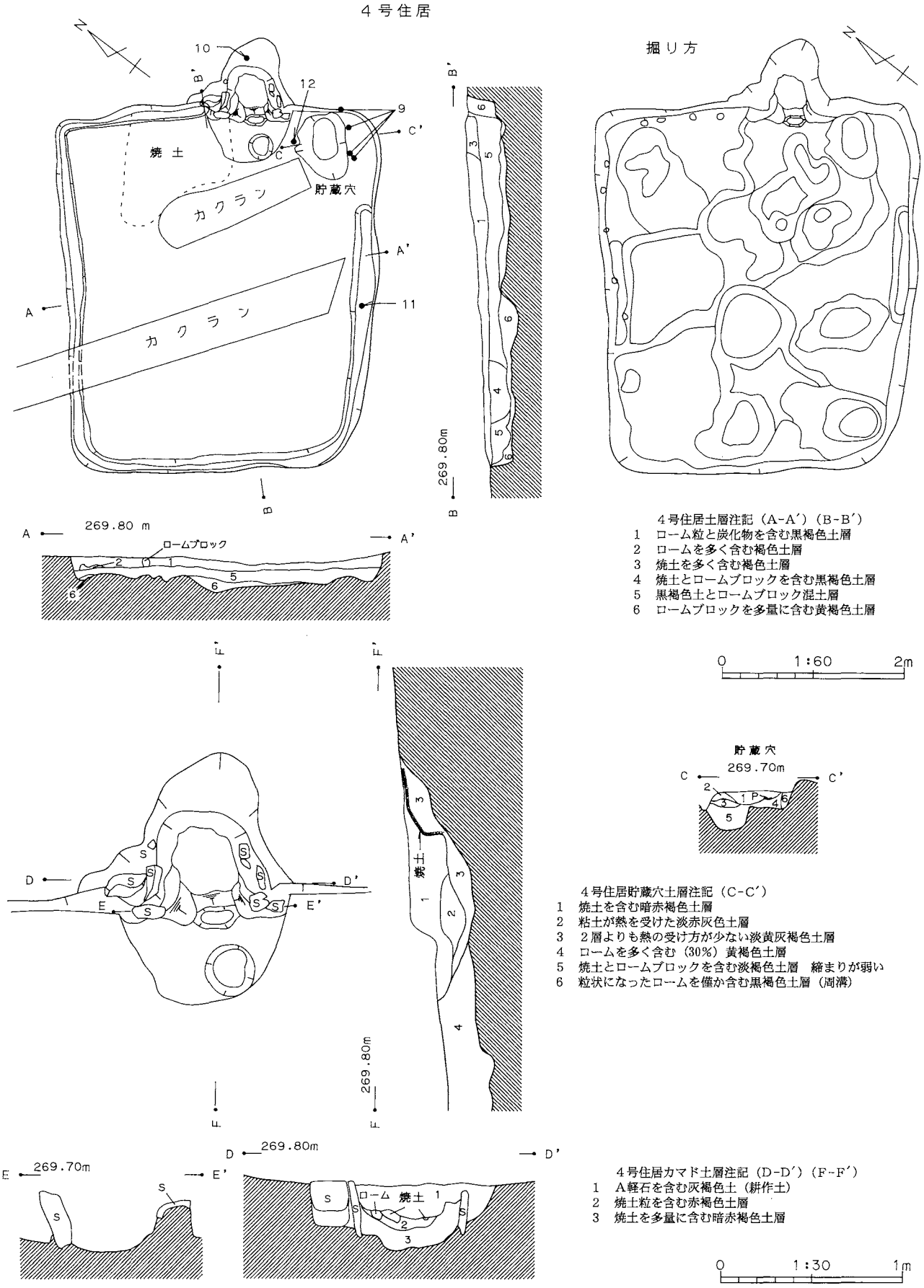


2号住居内カマド土層注記（A-A′）（D-D′）
1 焼土粒を含む黒褐色土層
2 焼土粒を含む暗赤褐色土層
3 焼土粒を含む黄褐色土層
4 暗黄褐色土層（地山ローム）
5 焼土ブロック粒を含む赤褐色土層
6 僅かに焼土を含む黄褐色土層（3層より多い）

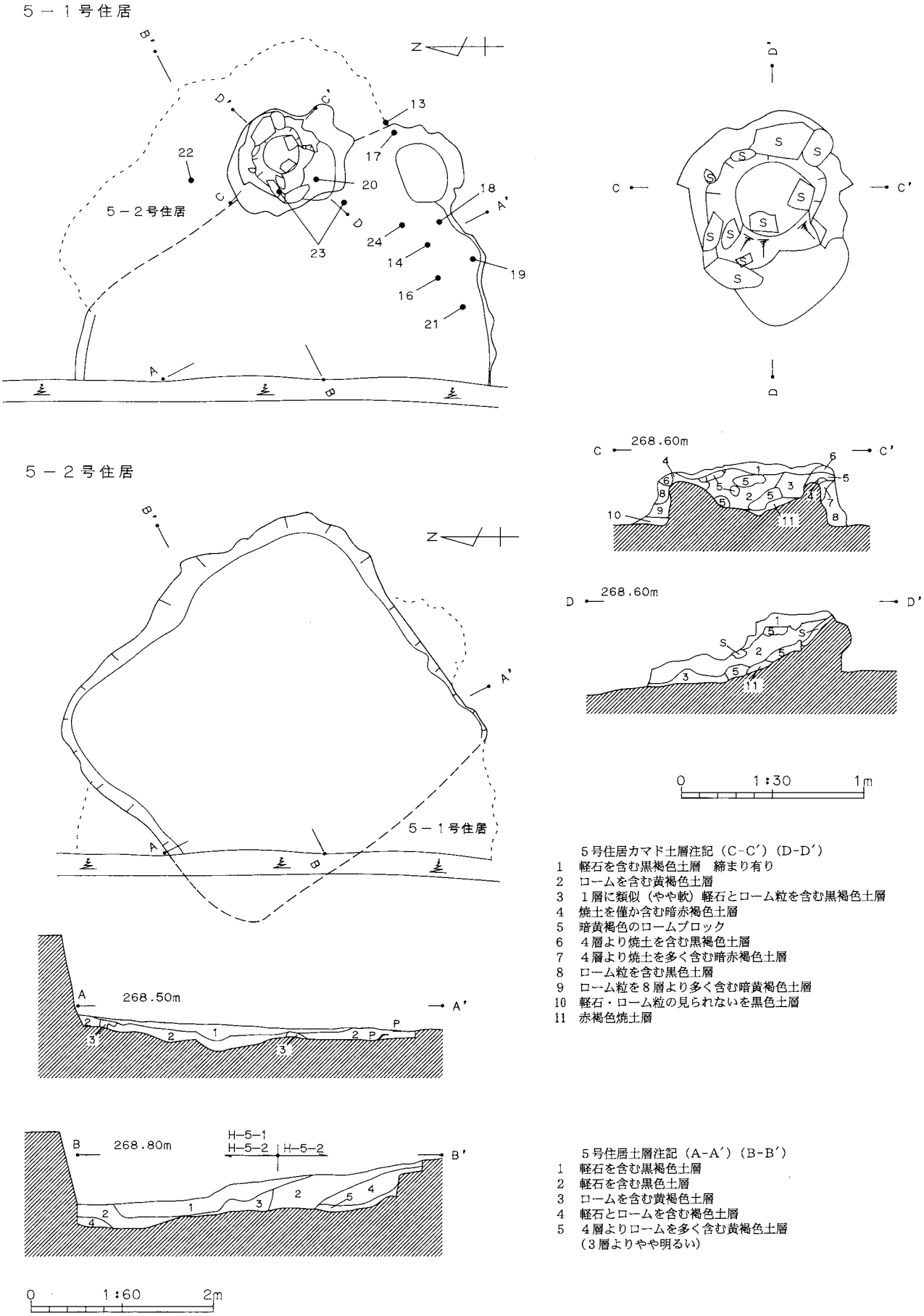
2号住居内カマド土層注記（C-C′）
1 燃焼部　焼土塊
2 焼土粒を含む暗赤褐色土層
3 焼土を僅か含むロームと黒褐色土の混土層

3号住居土層注記（A-A′）
1 A軽石を含む黒褐色土層（耕作土）
2 A軽石を含む黒褐色土層　1層よりやや締まり有り
3 ロームブロック・焼土粒・軽石を含む黒褐色土層
4 ロームを10%程含む暗黄褐色混土層
5 ローム・焼土を含む　3層より明るい黒褐色土層
6 粒状ローム（YP）と暗黄褐色ロームの混土層
明るい黄褐色土層
7 粒状ローム（φ1mm以下）を含む
3層より暗い黒褐色土層
8 暗黄褐色ローム層
（ロームの第1層に黒色土がわずか混入）
9 暗黄褐色ローム層
10 黒褐色土層（粒状ローム5%以下）
11 暗黄褐色ローム層（第1層）
12 粒状の焼土とロームを含む黒褐色土層

第7図　1～3号住居址平面・断面図カマド平面・断面図



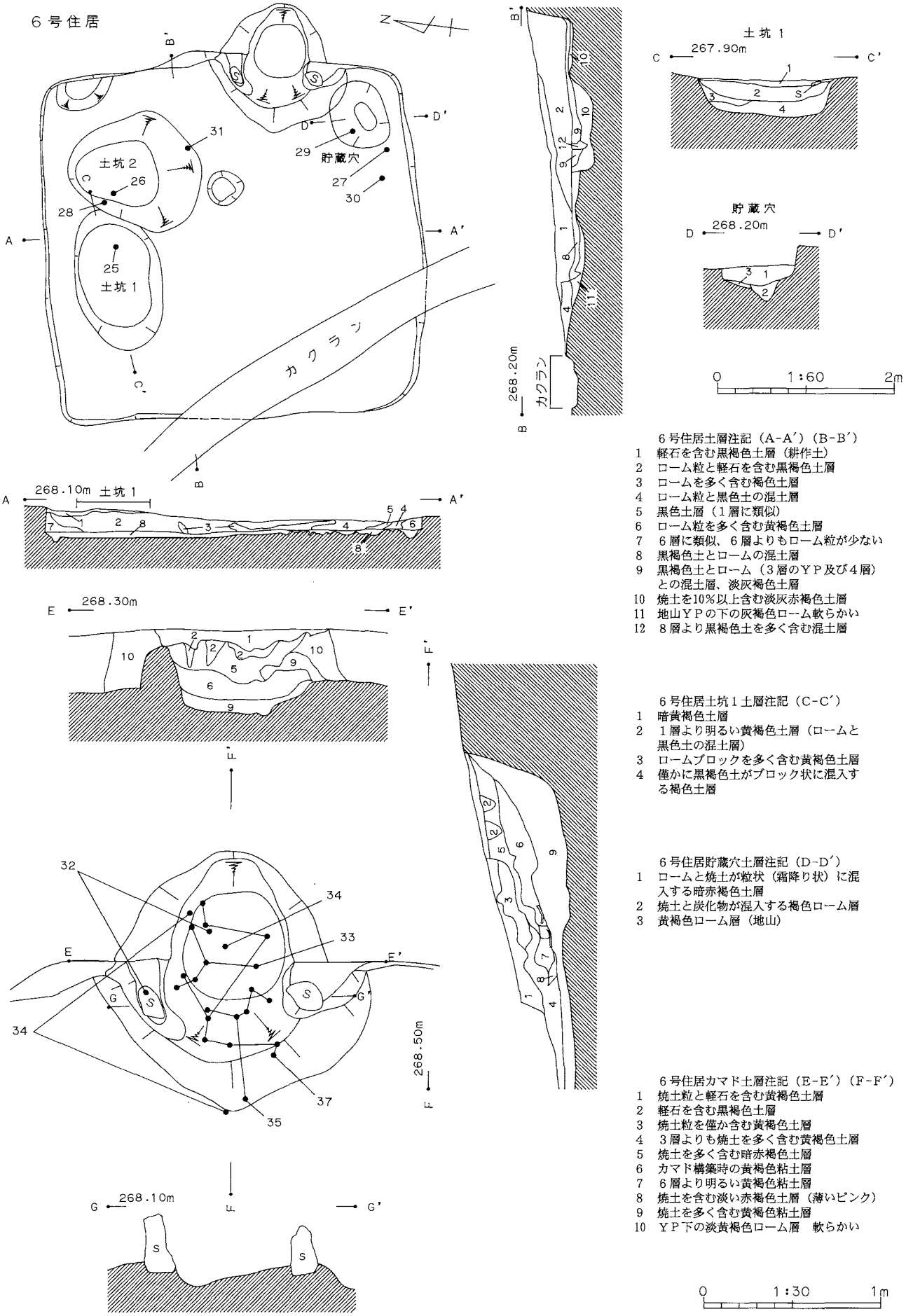
第8図　4号住居址平面・断面図　堀り方平面図　カマド平面・断面図　貯蔵穴断面図



5号住居カマド土層注記（C-C′）（D-D′）
1　軽石を含む黒褐色土層　締まり有り
2　ロームを含む黄褐色土層
3　1層に類似（やや軟）軽石とローム粒を含む黒褐色土層
4　焼土を僅か含む暗赤褐色土層
5　暗黄褐色のロームブロック
6　4層より焼土を含む黒褐色土層
7　4層より焼土を多く含む暗赤褐色土層
8　ローム粒を含む黒色土層
9　ローム粒を8層より多く含む暗黄褐色土層
10　軽石・ローム粒の見られないを黒色土層
11　赤褐色焼土層

5号住居土層注記（A-A′）（B-B′）
1　軽石を含む黒褐色土層
2　軽石を含む黒色土層
3　ロームを含む黄褐色土層
4　軽石とロームを含む褐色土層
5　4層よりロームを多く含む黄褐色土層
（3層よりやや明るい）

第9図　5－1、－2号住居址平面・断面図　カマド平面・断面図



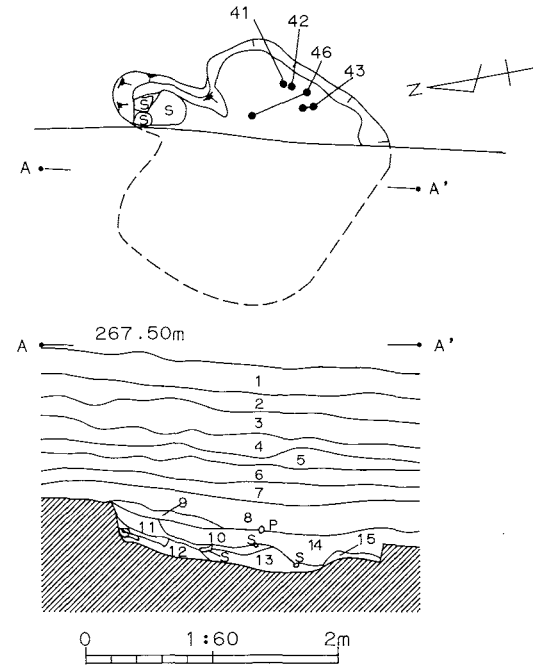
6号住居土層注記（A-A′）（B-B′）
1 軽石を含む黒褐色土層（耕作土）
2 ローム粒と軽石を含む黒褐色土層
3 ロームを多く含む褐色土層
4 ローム粒と黒色土の混土層
5 黒色土層（1層に類似）
6 ローム粒を多く含む黄褐色土層
7 6層に類似、6層よりもローム粒が少ない
8 黒褐色土とロームの混土層
9 黒褐色土とローム（3層のYP及び4層）との混土層、淡灰褐色土層
10 焼土を10%以上含む淡灰赤褐色土層
11 地山YPの下の灰褐色ローム軟らかい
12 8層より黒褐色土を多く含む混土層

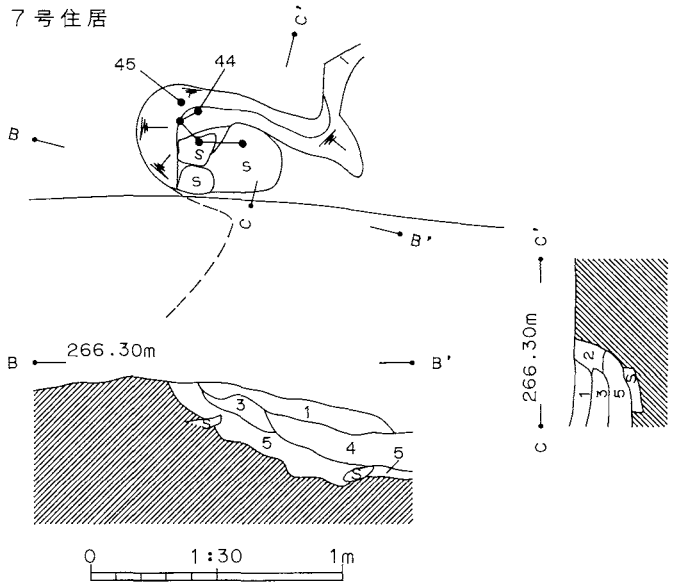
6号住居土坑1土層注記（C-C′）
1 暗黄褐色土層
2 1層より明るい黄褐色土層（ロームと黒色土の混土層）
3 ロームブロックを多く含む黄褐色土層
4 僅かに黒褐色土がブロック状に混入する褐色土層

6号住居貯蔵穴土層注記（D-D′）
1 ロームと焼土が粒状（霜降り状）に混入する暗赤褐色土層
2 焼土と炭化物が混入する褐色ローム層
3 黄褐色ローム層（地山）

6号住居カマド土層注記（E-E′）（F-F′）
1 焼土粒と軽石を含む黄褐色土層
2 軽石を含む黒褐色土層
3 焼土粒を僅か含む黄褐色土層
4 3層よりも焼土を多く含む黄褐色土層
5 焼土を多く含む暗赤褐色土層
6 カマド構築時の黄褐色粘土層
7 6層より明るい黄褐色粘土層
8 焼土を含む淡い赤褐色土層（薄いピンク）
9 焼土を多く含む黄褐色粘土層
10 YP下の淡黄褐色ローム層　軟らかい

第10図　6号住居址平面・断面図　カマド平面・断面図





7号住居土層注記（A-A′）

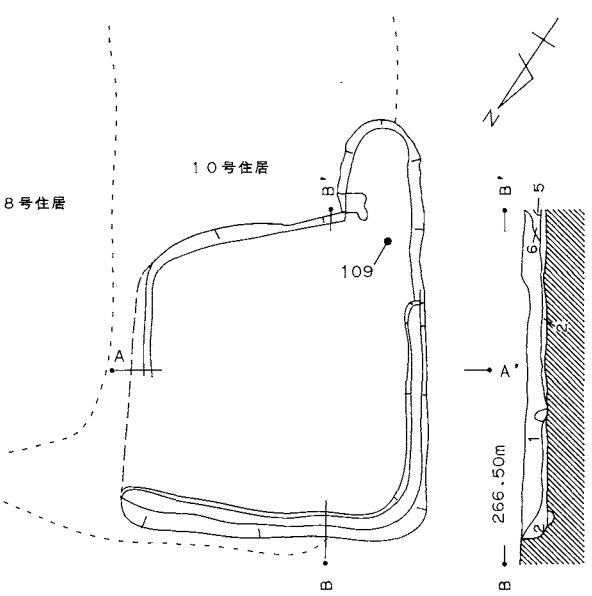
1　耕作土　最近の耕作範囲　黒褐色土層　軟らかい
2　耕作土　深い耕作の状況　1層より僅かA軽石を含み、軟らかい
3　A軽石を20％程含む黒褐色土層　軟らかい
4　B軽石を僅か含む黒褐色土層　軟らかい
5　B軽石層（淡黄灰褐色軽石層）
6　焼土粒とロームを僅か含む黒褐色土層　やや締まりあり、φ1㎜以下
7　6層より焼土粒が多くなりローム粒も大きな黒褐色土層　やや締まりあり、φ1～5㎜
8　7層よりさらに粒が大きい（φ5～10㎜）焼土粒を含む黒褐色土層
9　焼土を僅か含む黄褐色土層
10　粒状の焼土とロームブロックを含む暗赤褐色土層
11　ほとんど焼土の見られない黄褐色土層（僅か熱を受けた粘土）
12　10層より多くの焼土を含む暗赤褐色土層
13　暗黄灰色土層（カマドの前の灰層）
14　軽石を5～10％と焼土を僅か含む黒褐色土層
15　地山ローム層　暗黄褐色土層（ローム第1層）

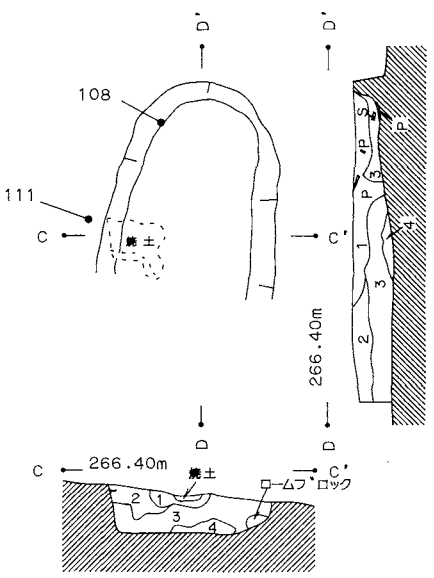
7号住居カマド土層注記（B-B′）（C-C′）

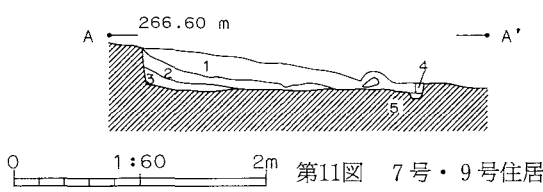
1　焼土を粒僅か含む黄褐色土層
2　焼土を粒僅か含む暗黄褐色土層
3　ほとんど焼土の見られない黄褐色土層（僅か熱を受けた粘土）
4　粒状の焼土とロームブロックを含む暗赤褐色土層
5　4層よりも多くの焼土を含む暗赤褐色土層

9号住居カマド土層注記（C-C′）（D-D′）

1　焼土粒とローム粒を含む暗赤褐色土層
2　1層よりも焼土粒とローム粒が少ない褐色土層
3　2層よりも焼土粒とローム粒が少ない黒褐色土層
4　2層よりも焼土粒とローム粒が多く1層よりも少ない褐色土層





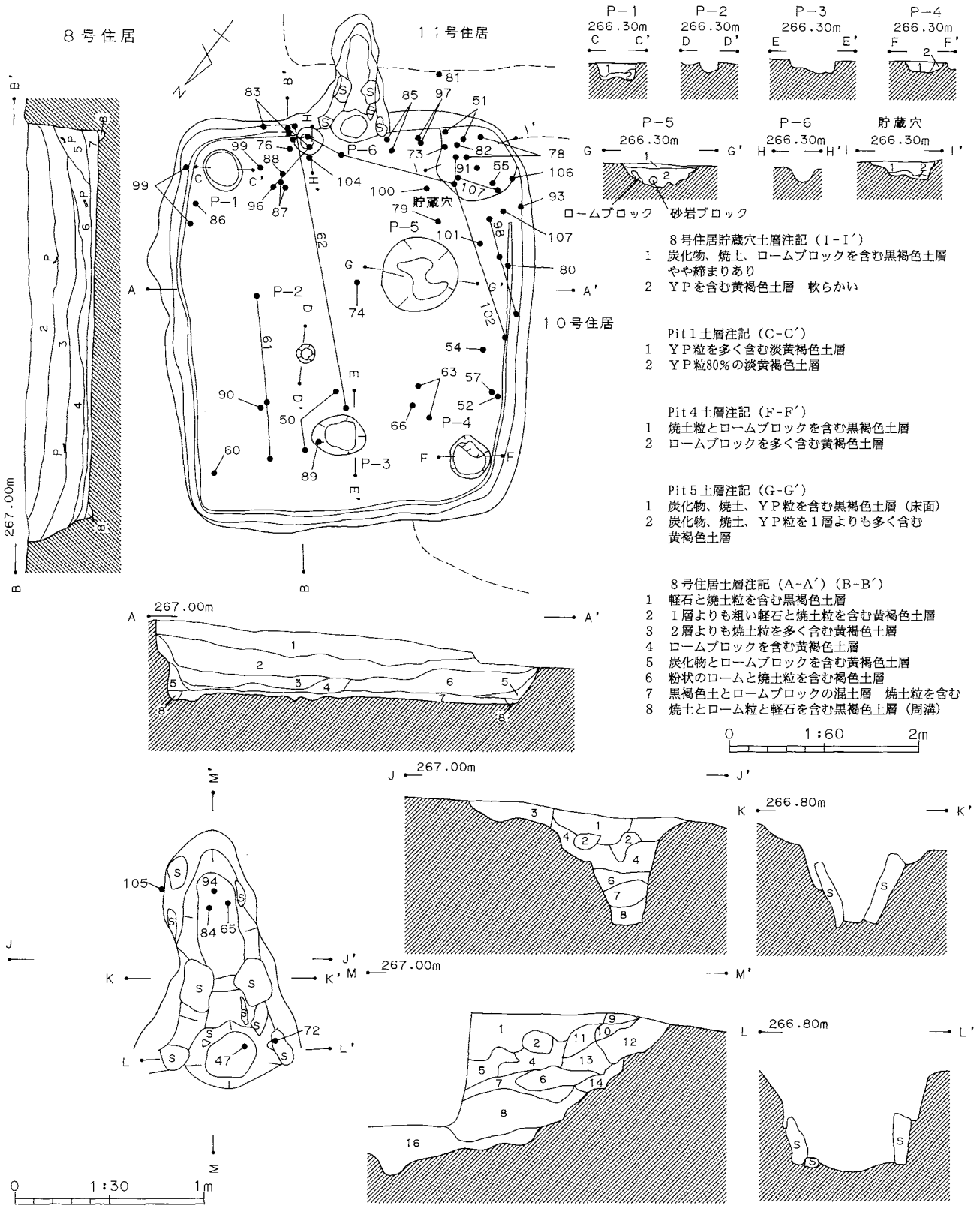


9号住居土層注記（A-A′）（B-B′）

1　軽石、ローム粒、多量の焼土粒を含む黒褐色土層
2　ローム粒を含む黒色土（軽石は僅か）
3　焼土粒を含む黒色土層
4　軽石を多量に含む黒褐色土（耕作土）
5　ロームブロックを含む黒褐色土層（地山）
6　1、3層よりも焼土粒の少ない黒褐色土層

0　1:30　1m

第11図　7号・9号住居址平面・断面図　カマド平面・断面図



8号住居貯蔵穴土層注記（I-I′）
1 炭化物、焼土、ロームブロックを含む黒褐色土層 やや締まりあり
2 YPを含む黄褐色土層 軟らかい

Pit1土層注記（C-C′）
1 YP粒を多く含む淡黄褐色土層
2 YP粒80%の淡黄褐色土層

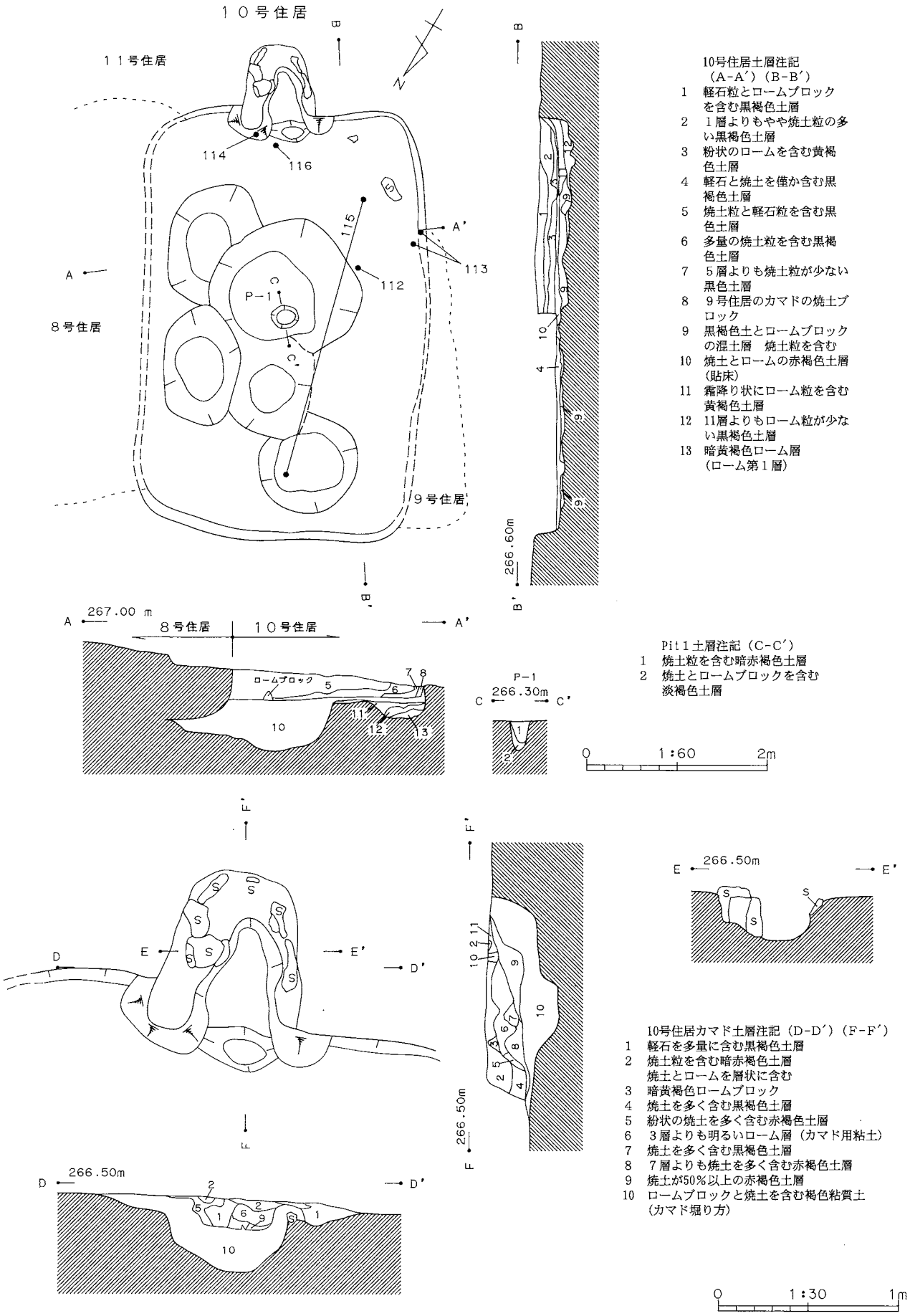
Pit4土層注記（F-F′）
1 焼土粒とロームブロックを含む黒褐色土層
2 ロームブロックを多く含む黄褐色土層

Pit5土層注記（G-G′）
1 炭化物、焼土、YP粒を含む黒褐色土層（床面）
2 炭化物、焼土、YP粒を1層よりも多く含む黄褐色土層

8号住居土層注記（A-A′）（B-B′）
1 軽石と焼土粒を含む黒褐色土層
2 1層よりも粗い軽石と焼土粒を含む黄褐色土層
3 2層よりも焼土粒を多く含む黄褐色土層
4 ロームブロックを含む黄褐色土層
5 炭化物とロームブロックを含む黄褐色土層
6 粉状のロームと焼土粒を含む褐色土層
7 黒褐色土とロームブロックの混土層 焼土粒を含む
8 焼土とローム粒と軽石を含む黒褐色土層（周溝）

8号住居カマド土層注記（J-J′）（M-M′）
1 軽石を含む黄褐色土層
2 黄褐色ロームに僅か軽石と焼土を含む黄褐色ローム層
3 1層よりもロームを多く含む黄褐色土層 軽石はほぼ同じ
4 2層よりも僅か焼土を多く含む黄褐色ローム層
5 4層よりも多くの焼土を含む赤褐色土層
6 ロームブロックと砂岩を含む赤褐色土層
7 5層と同じくらいの焼土を含む暗黄褐色土層
8 焼土粒と軽石を含む暗赤褐色土層
9 淡灰赤褐色土層
10 9層よりやや暗い淡灰赤褐色土層
11 焼土をわずか含む黄褐色土層
12 赤褐色土層（煙道部甕を使用）
13 11層よりわずか多く焼土を含む黄褐色土層
14 焼土と炭化物を含む暗赤褐色土層
15 軽石と焼土を含む黒褐色土層（流入土）
16 明赤褐色粘質土層

第12図 8号住居址平面・断面図 カマド平面・断面図



10号住居土層注記
（A-A′）（B-B′）

1 軽石粒とロームブロックを含む黒褐色土層
2 1層よりもやや焼土粒の多い黒褐色土層
3 粉状のロームを含む黄褐色土層
4 軽石と焼土を僅か含む黒褐色土層
5 焼土粒と軽石粒を含む黒色土層
6 多量の焼土粒を含む黒褐色土層
7 5層よりも焼土粒が少ない黒色土層
8 9号住居のカマドの焼土ブロック
9 黒褐色土とロームブロックの混土層　焼土粒を含む
10 焼土とロームの赤褐色土層（貼床）
11 霜降り状にローム粒を含む黄褐色土層
12 11層よりもローム粒が少ない黒褐色土層
13 暗黄褐色ローム層（ローム第1層）

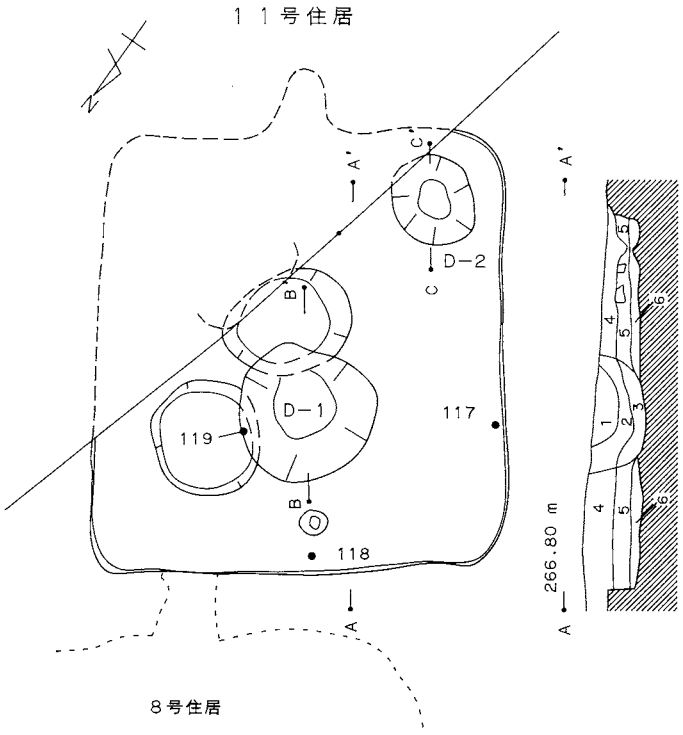
Pit1土層注記（C-C′）

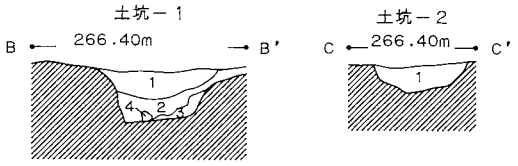
1 焼土粒を含む暗赤褐色土層
2 焼土とロームブロックを含む淡褐色土層

10号住居カマド土層注記（D-D′）（F-F′）

1 軽石を多量に含む黒褐色土層
2 焼土粒を含む暗赤褐色土層
焼土とロームを層状に含む
3 暗黄褐色ロームブロック
4 焼土を多く含む黒褐色土層
5 紛状の焼土を多く含む赤褐色土層
6 3層よりも明るいローム層（カマド用粘土）
7 焼土を多く含む黒褐色土層
8 7層よりも焼土を多く含む赤褐色土層
9 焼土が50％以上の赤褐色土層
10 ロームブロックと焼土を含む褐色粘質土（カマド堀り方）

第13図　10号住居址平面・断面図　カマド平面・断面図

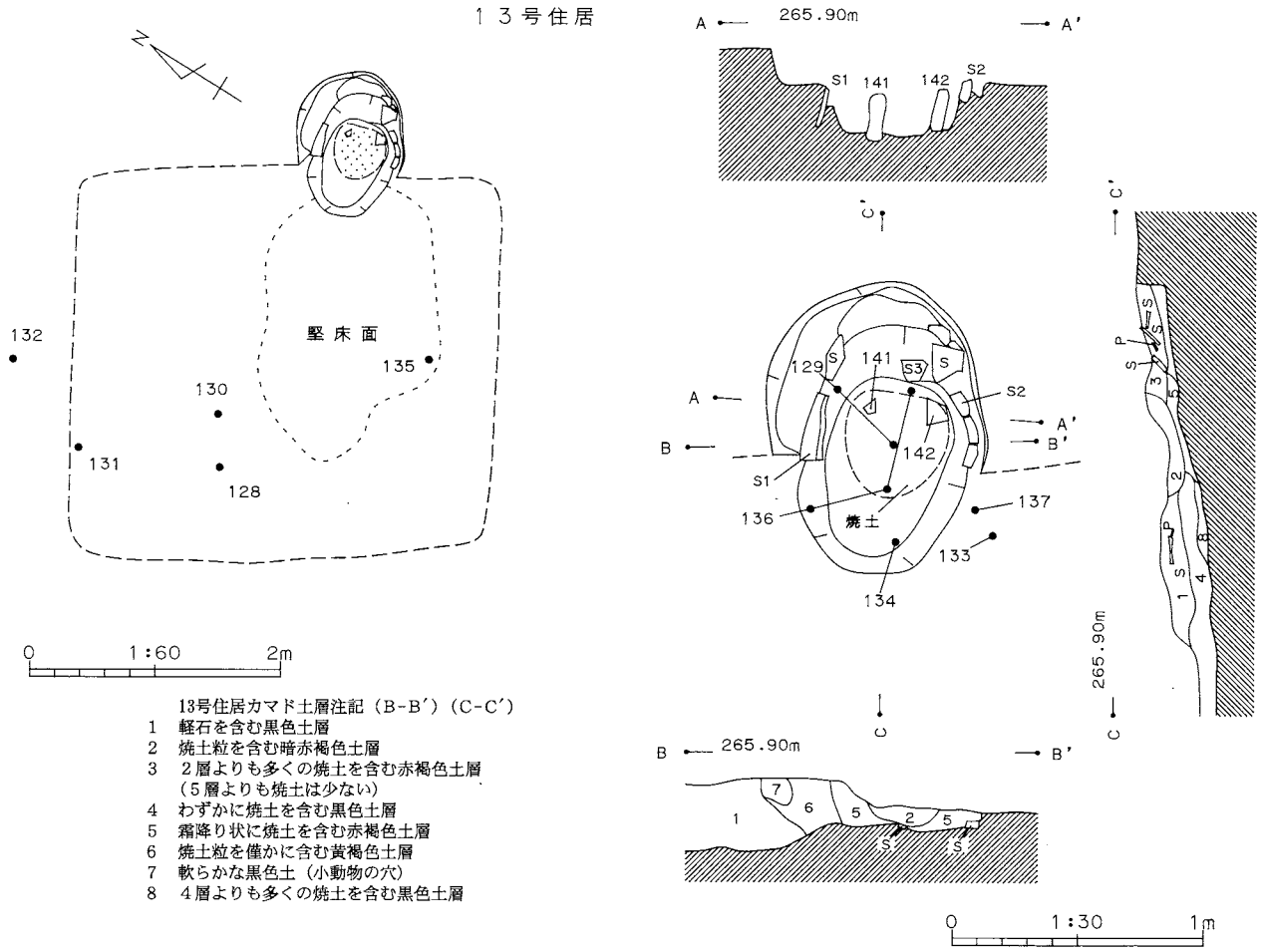




11号住居土層注記（A-A′）
1　軽石とローム粒（１％）を含む黒褐色土層
2　１層よりもややローム（５％）が多い黒褐色土層
3　１～３cmのロームブロック（10％）を含む黒褐色土層
4　ローム粒（30％）を含む黄褐色土層
5　ローム粒（20％）を含む黒褐色土層
6　ローム粒（50％）を含む黄褐色土層

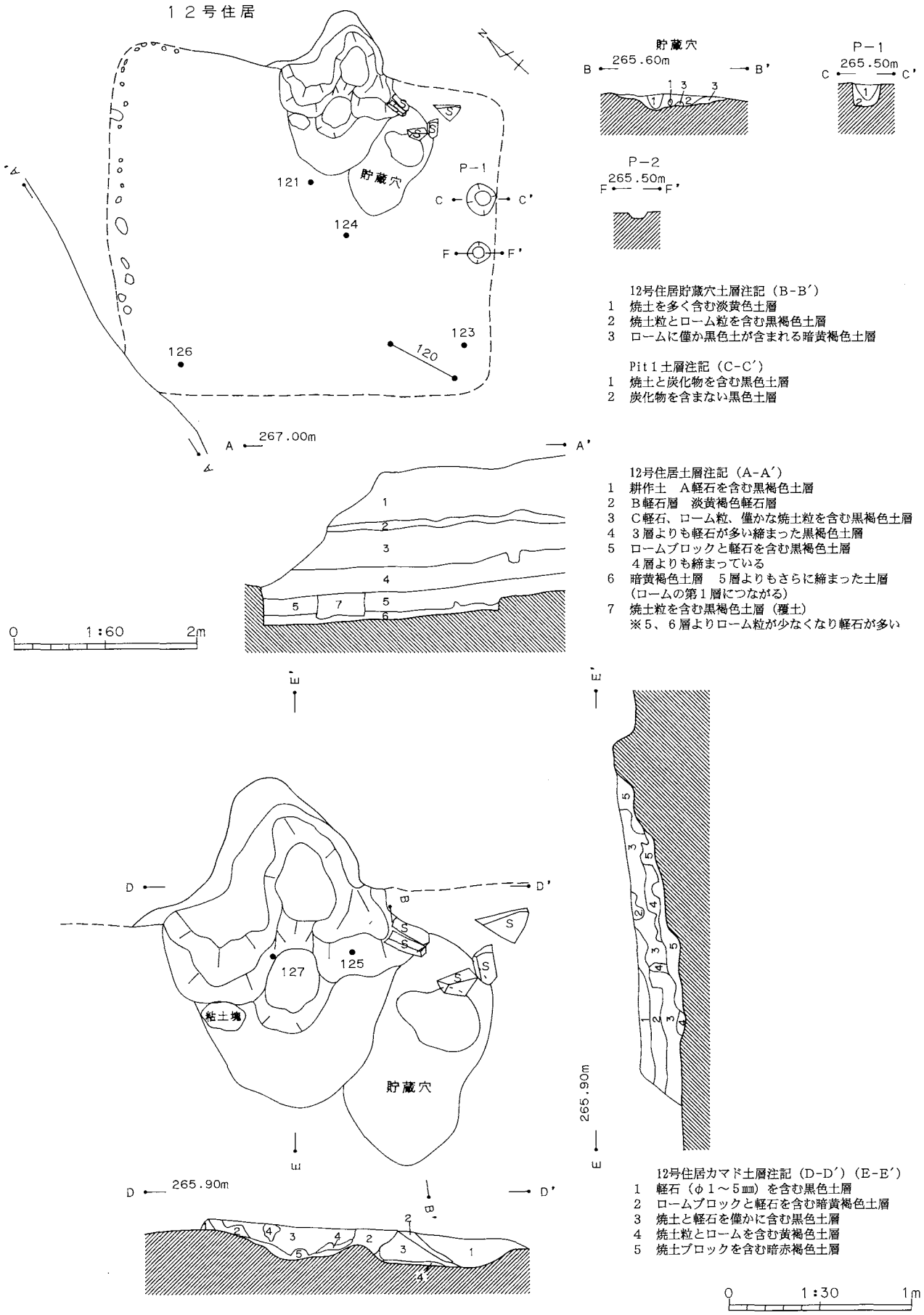
土坑−１土層注記（B-B′）
1　軽石とローム粒を含む黒褐色土層
2　１層より軽石が少なくロームブロックを含む黒褐色土層
3　ロームブロックが多くやや柔らかな黄褐色土層

土坑−２土層注記（C-C′）
1　焼土とロームブロックを含む暗黄褐色土層



13号住居カマド土層注記（B-B′）（C-C′）
1　軽石を含む黒色土層
2　焼土粒を含む暗赤褐色土層
3　２層よりも多くの焼土を含む赤褐色土層
（５層よりも焼土は少ない）
4　わずかに焼土を含む黒色土層
5　霜降り状に焼土を含む赤褐色土層
6　焼土粒を僅かに含む黄褐色土層
7　軟らかな黒色土（小動物の穴）
8　４層よりも多くの焼土を含む黒色土層

第14図　11号・13号住居址平面・断面図　カマド平面・断面図



12号住居貯蔵穴土層注記（B-B′）
1　焼土を多く含む淡黄色土層
2　焼土粒とローム粒を含む黒褐色土層
3　ロームに僅か黒色土が含まれる暗黄褐色土層

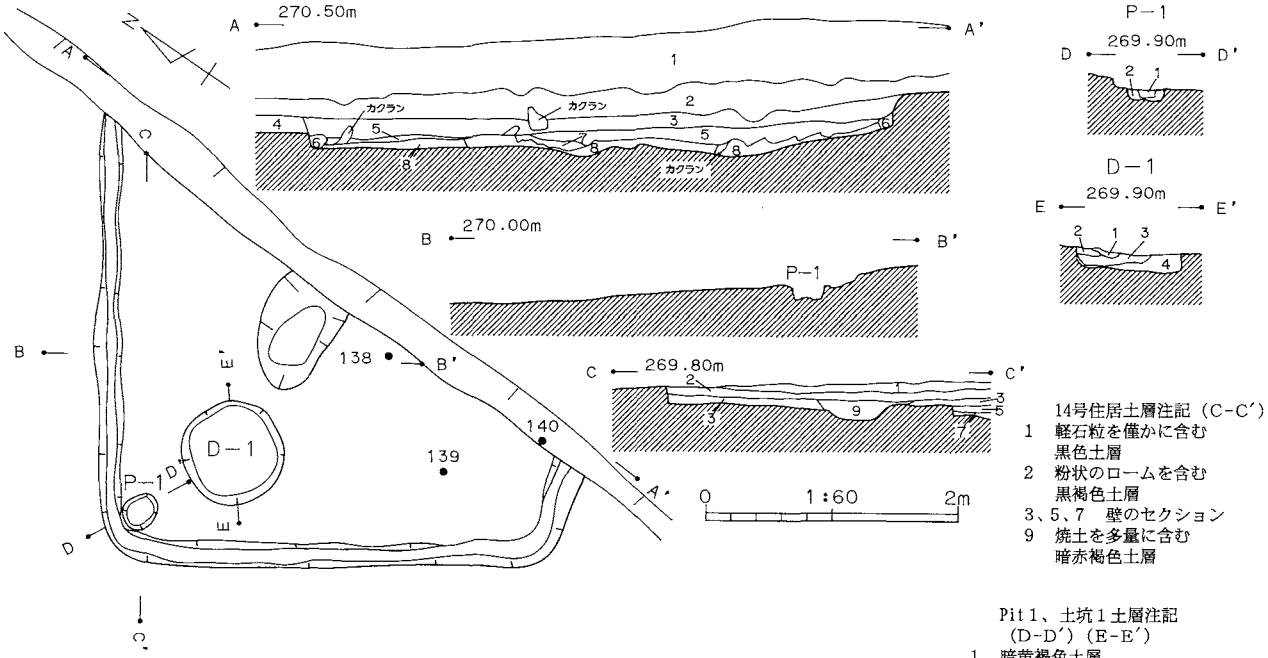
Pit１土層注記（C-C′）
1　焼土と炭化物を含む黒色土層
2　炭化物を含まない黒色土層

12号住居土層注記（A-A′）
1　耕作土　A軽石を含む黒褐色土層
2　B軽石層　淡黄褐色軽石層
3　C軽石、ローム粒、僅かな焼土粒を含む黒褐色土層
4　３層よりも軽石が多い締まった黒褐色土層
5　ロームブロックと軽石を含む黒褐色土層
　４層よりも締まっている
6　暗黄褐色土層　５層よりもさらに締まった土層
　(ロームの第１層につながる)
7　焼土粒を含む黒褐色土層（覆土）
　※５、６層よりローム粒が少なくなり軽石が多い

12号住居カマド土層注記（D-D′）（E-E′）
1　軽石（φ１～５㎜）を含む黒色土層
2　ロームブロックと軽石を含む暗黄褐色土層
3　焼土と軽石を僅かに含む黒色土層
4　焼土粒とロームを含む黄褐色土層
5　焼土ブロックを含む暗赤褐色土層

第15図　12号住居址平面・断面図　カマド平面・断面図

１４号住居

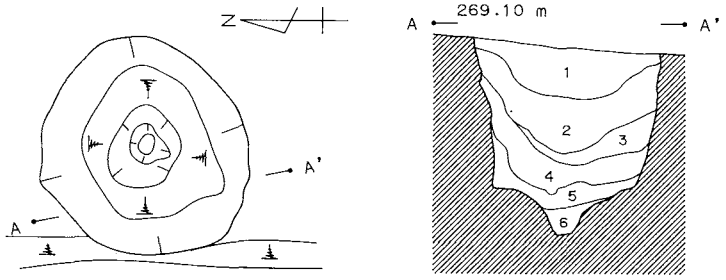


14号住居土層注記（C-C′）
1　軽石粒を僅かに含む黒色土層
2　粉状のロームを含む黒褐色土層
3、5、7　壁のセクション
9　焼土を多量に含む暗赤褐色土層

14号住居（壁）土層注記（A-A′）
1　A軽石を多く含む黒褐色土層　耕作土
2　B軽石を含む黒色土層　１層よりも締まりあり
3　焼土粒と僅かな炭化物を含む黒色土層
　２層よりもさらに締まっている
4　ローム粒（φ0.5～１㎝）を含む黒色土層
　３層よりも締まっている
5　焼土粒とロームブロックを含む黒褐色土層
6　周溝　φ１㎜以下の軽石を含む暗褐色土層（１次堆積）
7　僅かな焼土と軽石を含む黒色土層
8　粘性の強い褐色粘土層
　（ロームの第１層、第２層に岩のように凝固したロームがこの地域の特徴と思われる）
カクラン　小動物（モグラ）の穴

Pit１、土坑１土層注記
（D-D′）（E-E′）
1　暗黄褐色土層
2　１層と黒色土を僅かに含む暗黄褐色土層
3　２層よりもさらに黒色土を含む黒褐色土層
4　ローム粒と僅かな焼土を含む黄褐色土層

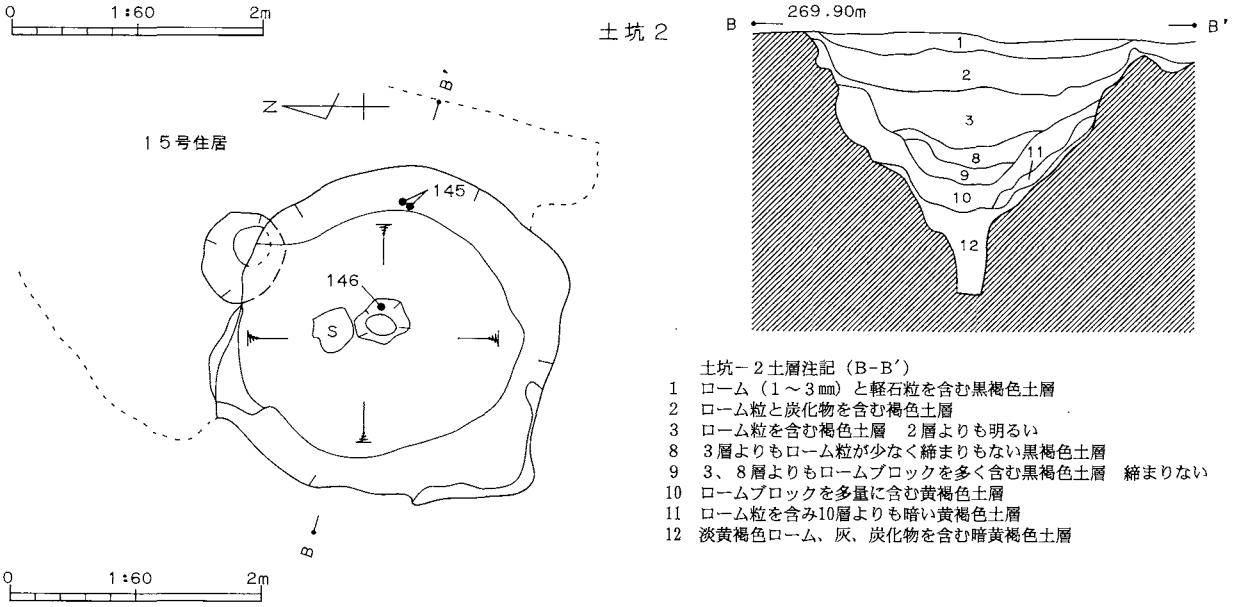
土坑１



土坑−１土層注記（A-A′）
1　軽石とローム粒を含む黒色土層
2　１層より軽石粒が少なくロームブロックを含む黒褐色土層　締まりあり
3　ロームブロックが多くやや柔らかな黒色土層
4　３層よりもロームブロックが多くぼそぼその黒褐色土層
5　ロームと黒色土が50％ずつの黒褐色土層
6　粒状のロームが80％、黒色土が20％の褐色土層

0　1:60　2m

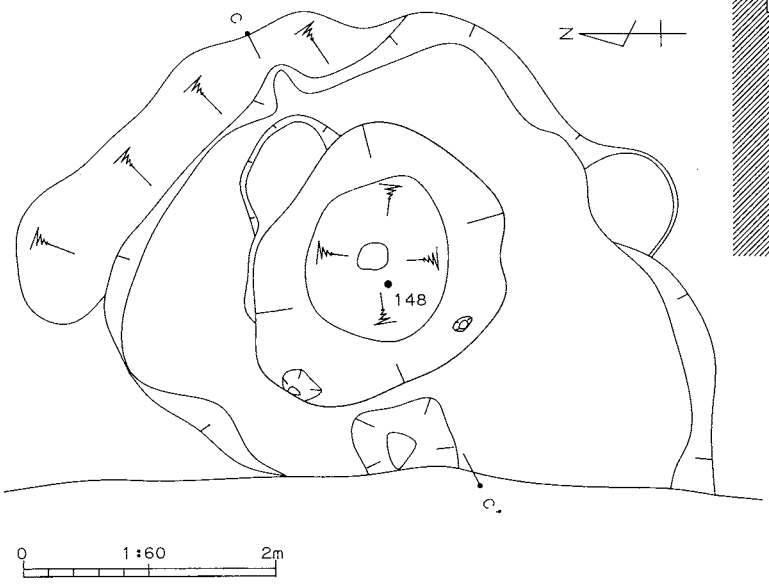
土坑２

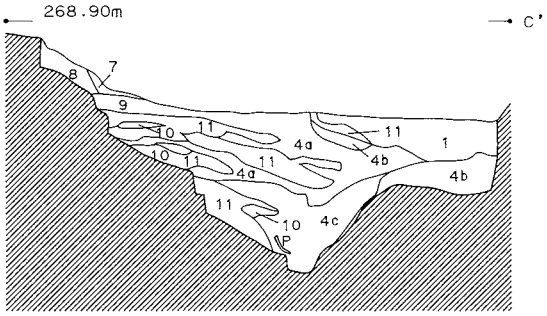


土坑−２土層注記（B-B′）
1　ローム（１～３㎜）と軽石粒を含む黒褐色土層
2　ローム粒と炭化物を含む褐色土層
3　ローム粒を含む褐色土層　２層よりも明るい
8　３層よりもローム粒が少なく締まりもない黒褐色土層
9　３、８層よりもロームブロックを多く含む黒褐色土層　締まりない
10　ロームブロックを多量に含む黄褐色土層
11　ローム粒を含み10層よりも暗い黄褐色土層
12　淡黄褐色ローム、灰、炭化物を含む暗黄褐色土層

第16図　14号住居址平面・断面図　１・２号土坑平面・断面図

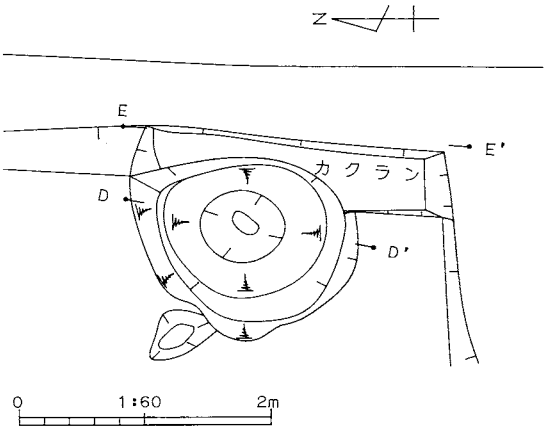
土坑４

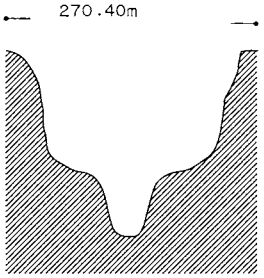


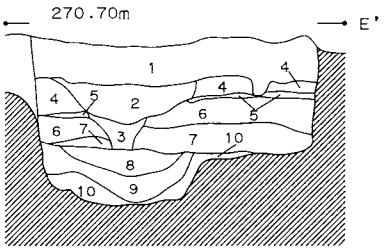


５号住居掘り方・土坑－４土層注記（C-C′）
1　ローム、焼土、炭化物を含む霜降り状の黒褐色土層
2　焼土と軽石を含む黒色土層
3　黒色土層
4　黒褐色土層（黒色土とロームの混土層・ａ～ｄの順にロームが多くなる）
5　混土層
6　ロームを多く含む混土層（ロームと黒色土）
7　焼土と軽石を含む黒褐色土層
8　暗褐色ローム層、粘性有り
9　ロームを多く含む
10　黒色土のブロック
11　ロームブロック・層状ローム
※１・２層は５号住居の掘り方

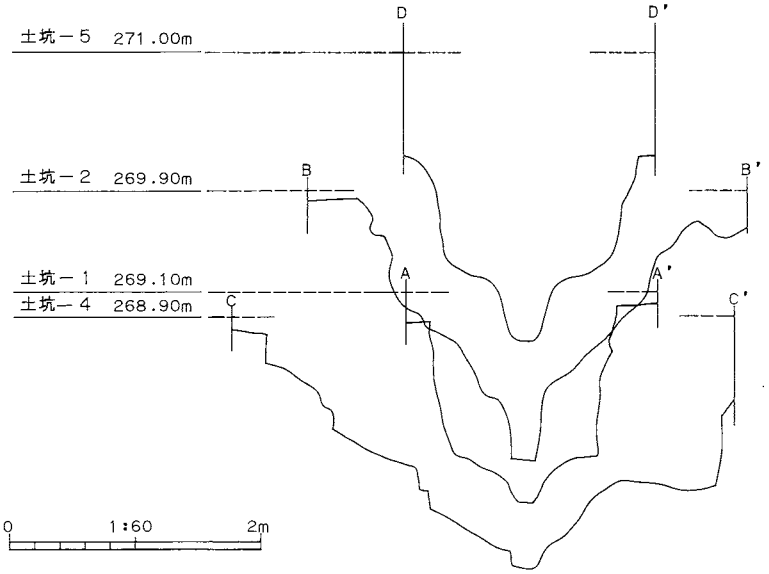
土坑５



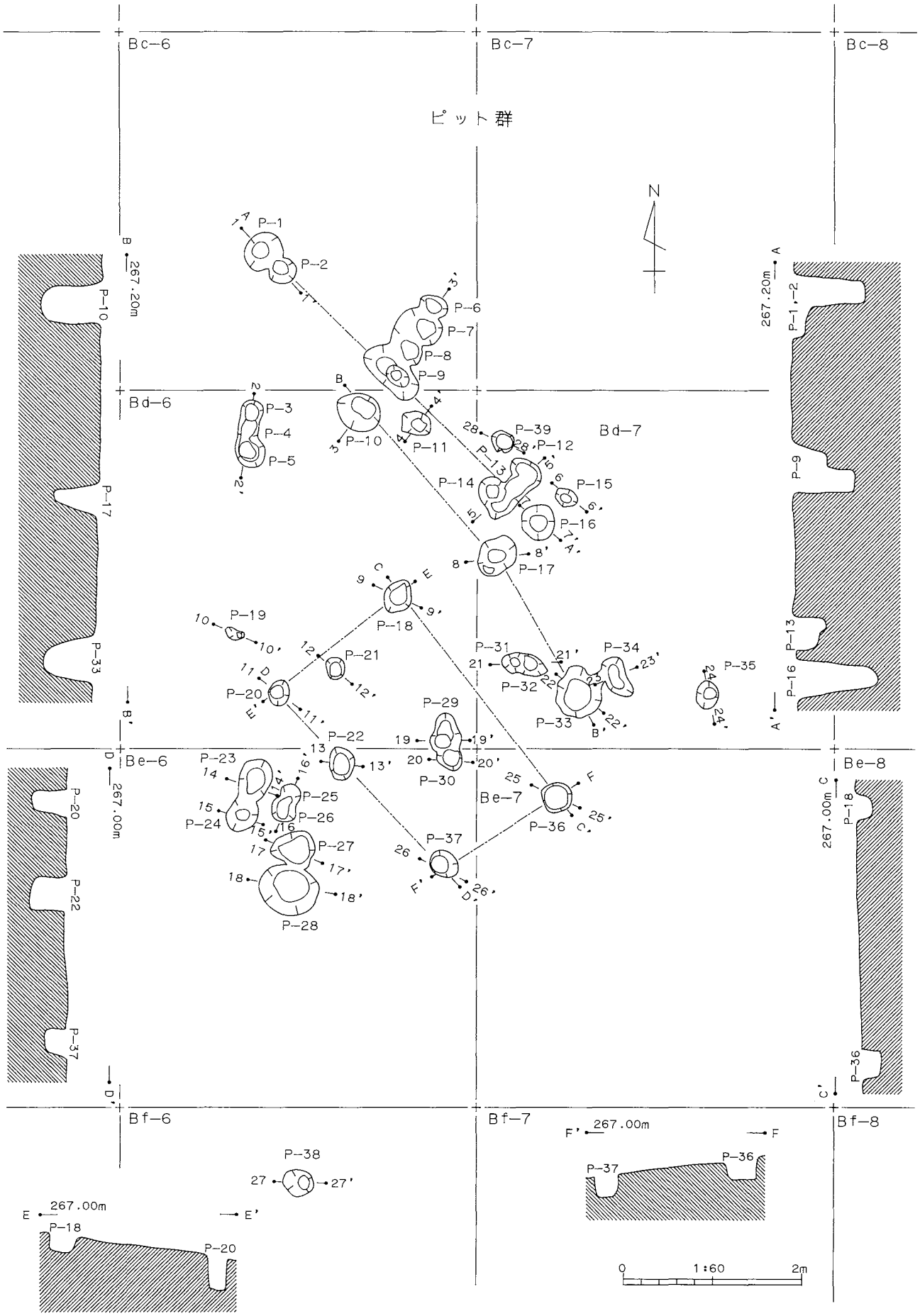




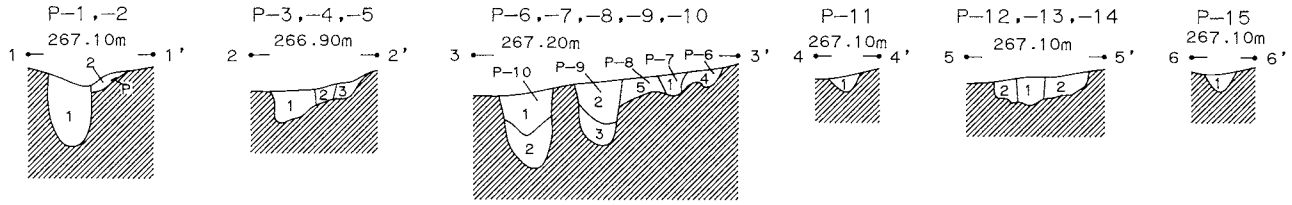
土坑－５土層注記（E-E′）
1　軽石を含む黒褐色土層
2　ロームブロックを含む黒褐色土層
3　２層よりロームブロックを多く含む黒褐色土層
4　暗褐色土層（ロームの第１層）
5　凝固した褐色ローム層
6　黄褐色ローム層
7　粒状の黄褐色ローム層
8　ローム粒を僅か含む黒褐色土層
9　８層よりロームを多く含む暗黄褐色土層
10　ロームに黒褐色土を含む黄褐色土層



第17図　４・５号土坑平面・断面図　１・２・４・５号土坑エレベーション重ね図



第18図　掘立柱建物跡・柱穴群平面図



Pit1、2土層注記（1-1′）
1　少量のロームを含むぼそぼその黒褐色土層
2　1層よりもロームの混入が多い固くてぼそぼその黒褐色土層

Pit3～9土層注記（2-2′）（3-3′）
1　細かなロームを含む黒色土層
2　ロームブロック（5～10mm）を含む黒色土層
3　1層と類似する黒色土層
4　ロームの混入が1層より多く5層より少ない黒褐色土層
5　ローム粒とロームブロックを多く含む黄褐色土層

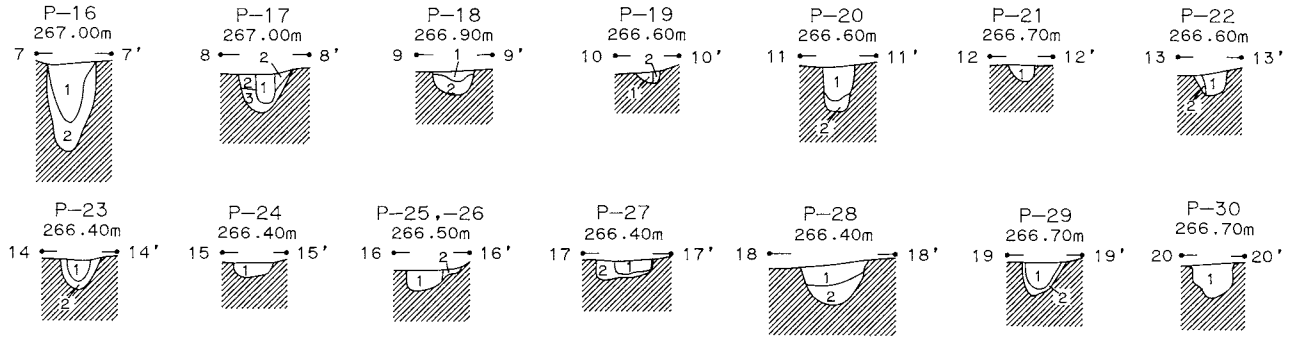
Pit10土層注記（3-3′）
1　霜降り状のロームを含む黒褐色土層　遺物を多く含む
2　1層よりもローム粒の少ない黒褐色土層

Pit11土層注記（4-4′）
1　焼土粒を含む赤褐色土層

Pit12～14土層注記（5-5′）
1　ロームブロックを多く含む黄褐色土層
2　ロームブロックを僅か含む黒褐色土層

Pit15土層注記（6-6′）
1　ローム粒を含む黄褐色土層

Pit16土層注記（7-7′）
1　軽石とローム粒を含む黒色土層
2　1層よりもローム粒の大きな黒色土層



Pit17土層注記（8-8′）
1　焼土粒とローム粒を含む黒色土層
2　1層より大きなローム粒を含む黒褐色土層
3　1層よりやや焼土粒を多く含む黄褐色土層

Pit18土層注記（9-9′）
1　YPを僅か含む暗黄褐色土層
2　1層よりもさらにYPが少ない黄褐色土層

Pit19土層注記（10-10′）
1　地山のロームに黒色土をシミ状に含んだ暗褐色土層
2　暗褐色土層　地山のローム

Pit20土層注記（11-11′）
1　ローム粒と軽石粒を含む黒褐色土層
2　1層に類似しているが軟らかなローム
ブロックを含む黒褐色土層

Pit21土層注記（12-12′）
1　ローム粒と軽石粒を含む黄褐色土層

Pit22土層注記（13-13′）
1　ローム粒と軽石粒を含む黒色土層
2　地山のロームに1層が混入する暗黄褐色土層

Pit23土層注記（14-14′）
1　焼土粒と軽石粒を含む黒色土層
2　焼土粒と軽石粒を含む黒褐色土層

Pit24土層注記（15-15′）
1　ロームブロックを含む黒褐色土層

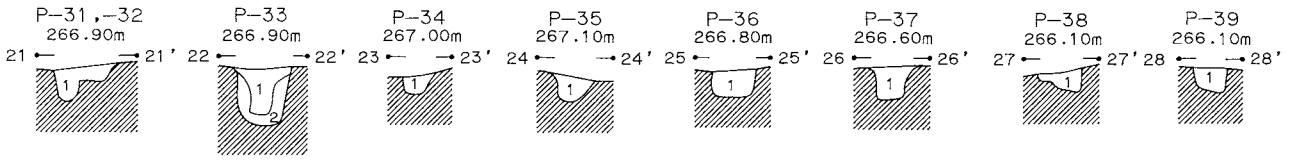
Pit25、26土層注記（16-16′）
1　ローム粒と軽石粒を含む黒褐色土層
2　暗黄褐色ローム第1層に黒色土が混入
したシミ状の暗黄褐色土層

Pit27土層注記（17-17′）
1　焼土粒と軽石粒を含む黒褐色土層
2　地山の第1層ロームを含む暗黄褐色土に
黒色土が混入している暗黄褐色土

Pit28土層注記（18-18′）
1　焼土粒とローム粒を含む黒褐色土層
2　暗黄褐色土と黒褐色土の混土層
3　地山の暗黄褐色ローム層

Pit29土層注記（19-19′）
1　ロームブロック（2～5cm）を含む
暗黄褐色土層
2　地山の暗黄褐色ローム層

Pit30土層注記（20-20′）
1　ロームブロックを含む黒色土層



Pit31、32土層注記（21-21′）
1　暗褐色土と黒色土の混土層

Pit33土層注記（22-22′）
1　焼土粒を含む黒色土層
2　ロームブロックを含む黒色土層

Pit34土層注記（23-23′）
1　ロームブロックを含む黒褐色土層

Pit35土層注記（24-24′）
1　ロームブロックを含む黒褐色土層

Pit36土層注記（25-25′）
1　黒褐色土層

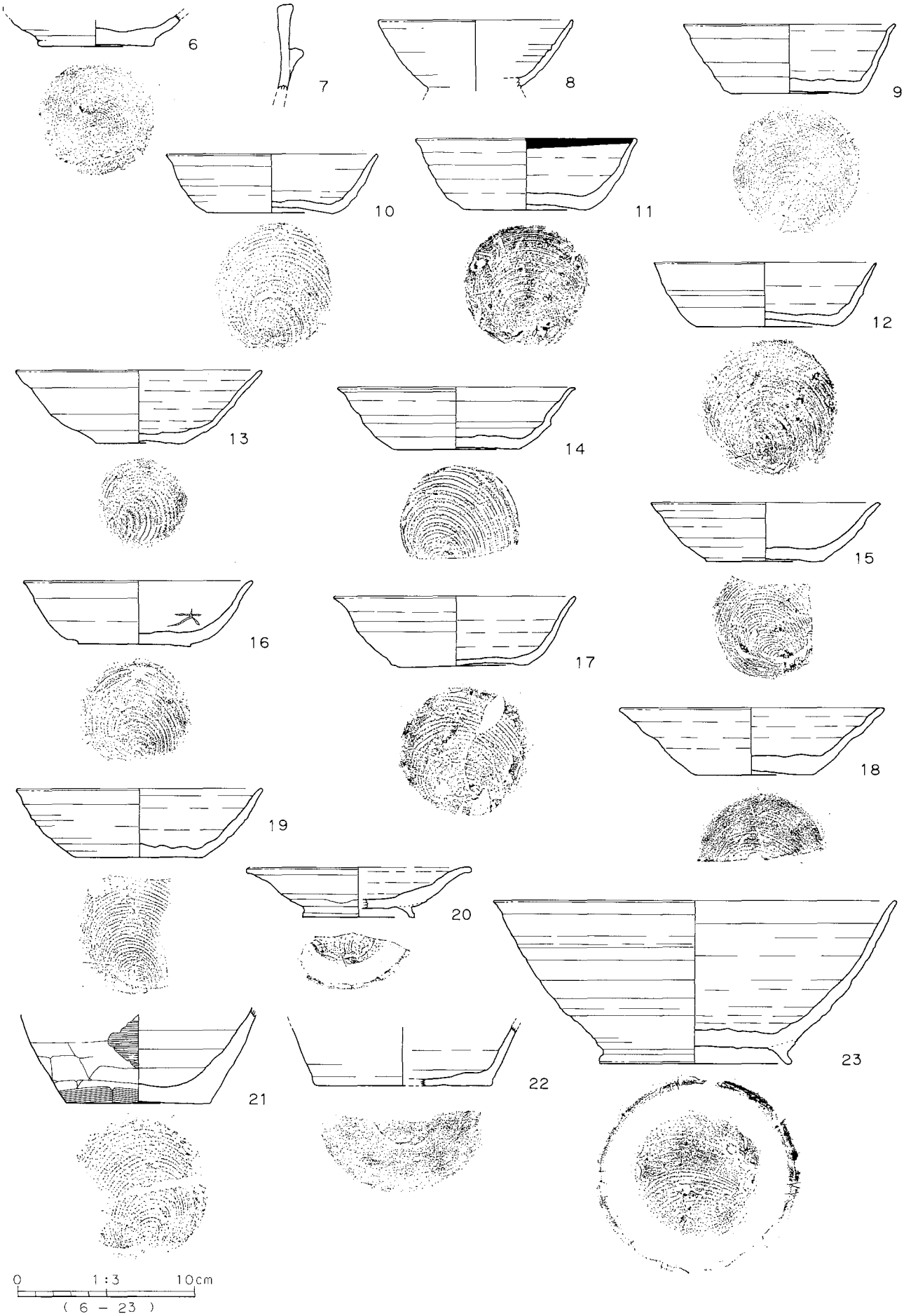
Pit37土層注記（26-26′）
1　黒褐色土層

Pit38土層注記（27-27′）
1　ロームブロックを含む黒色土層

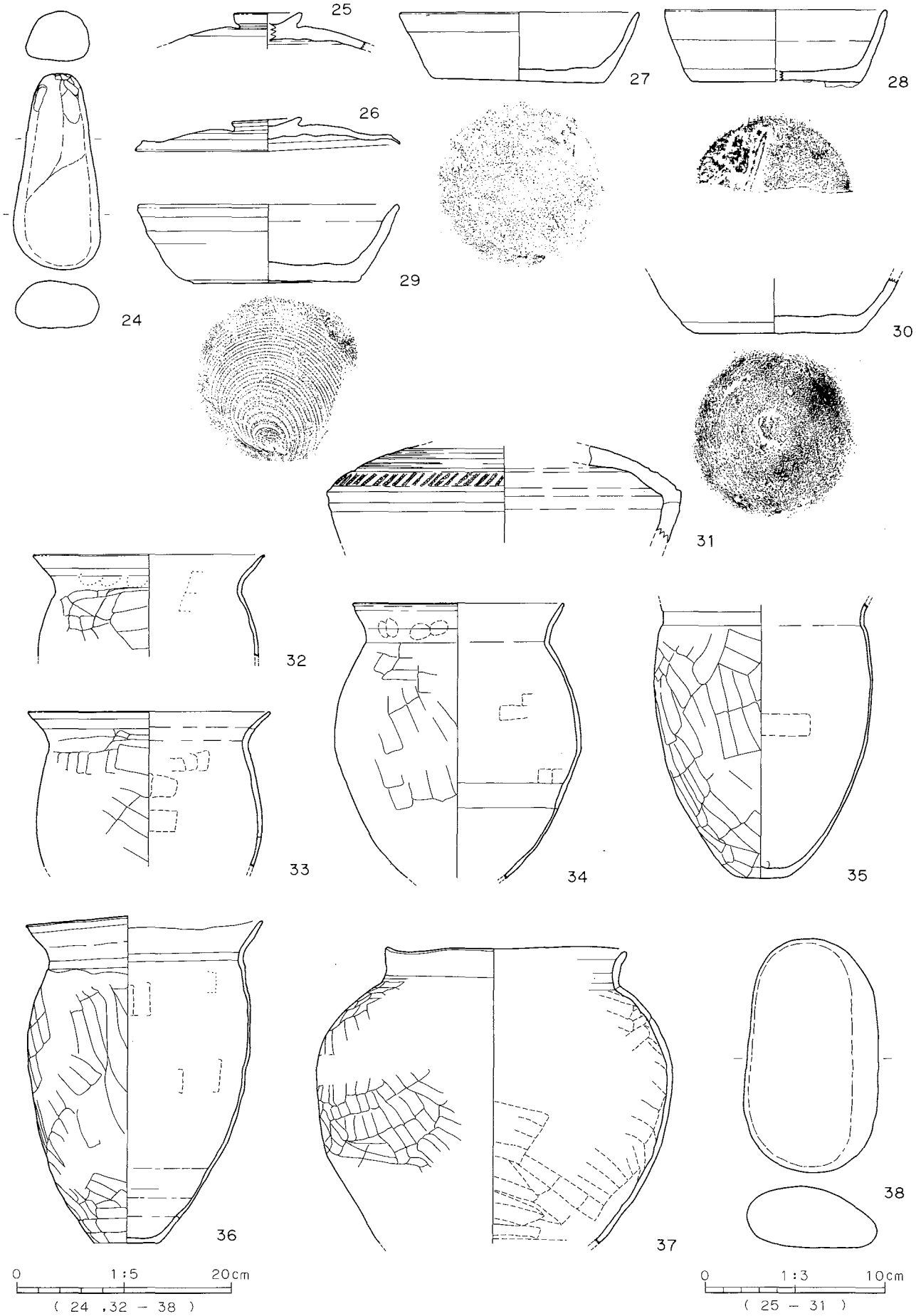
Pit39土層注記（28-28′）
1　ロームと炭化物を含む黄褐色土層

0　1:60　2m

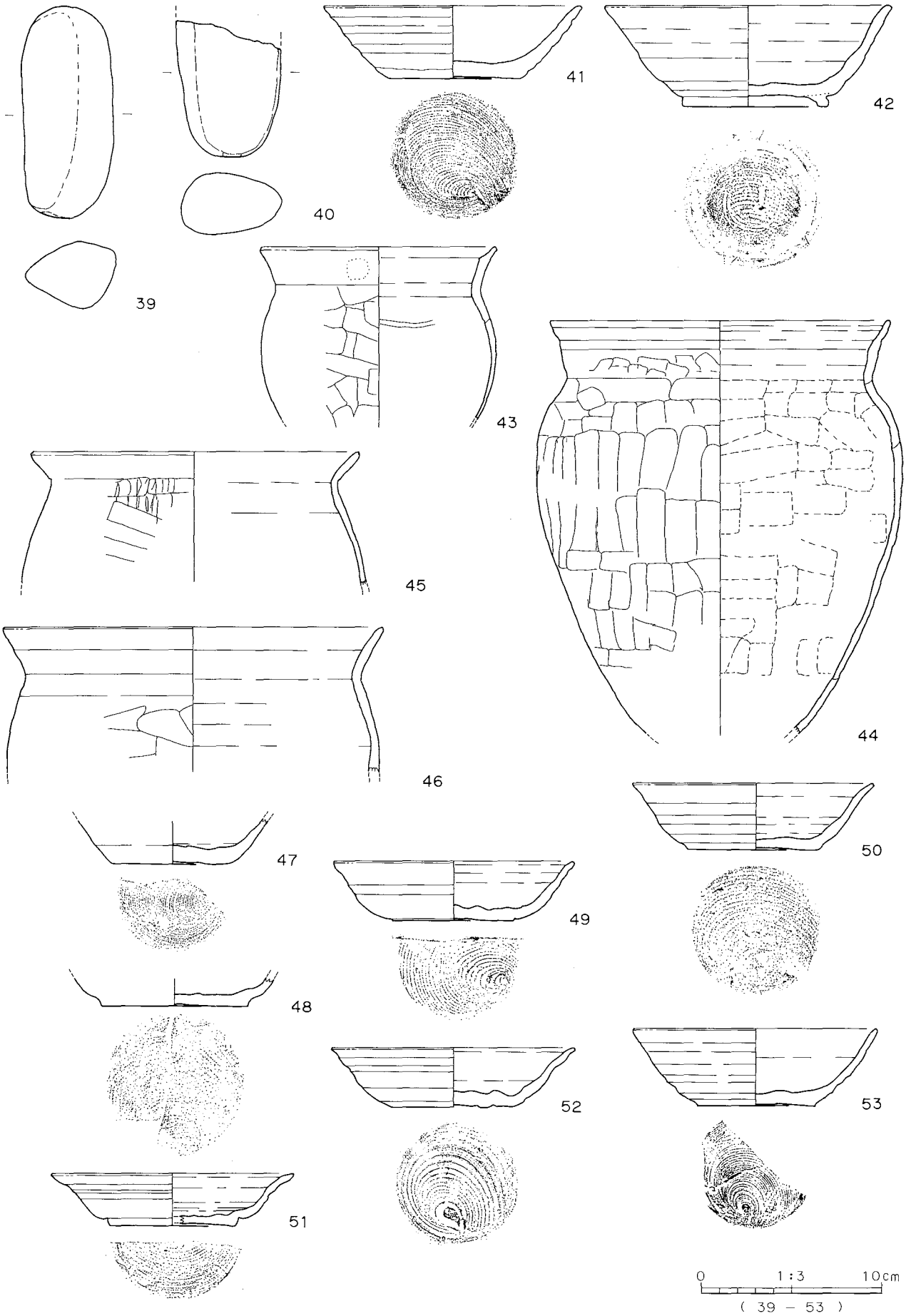
第19図　掘立柱建物跡・柱穴群断面図



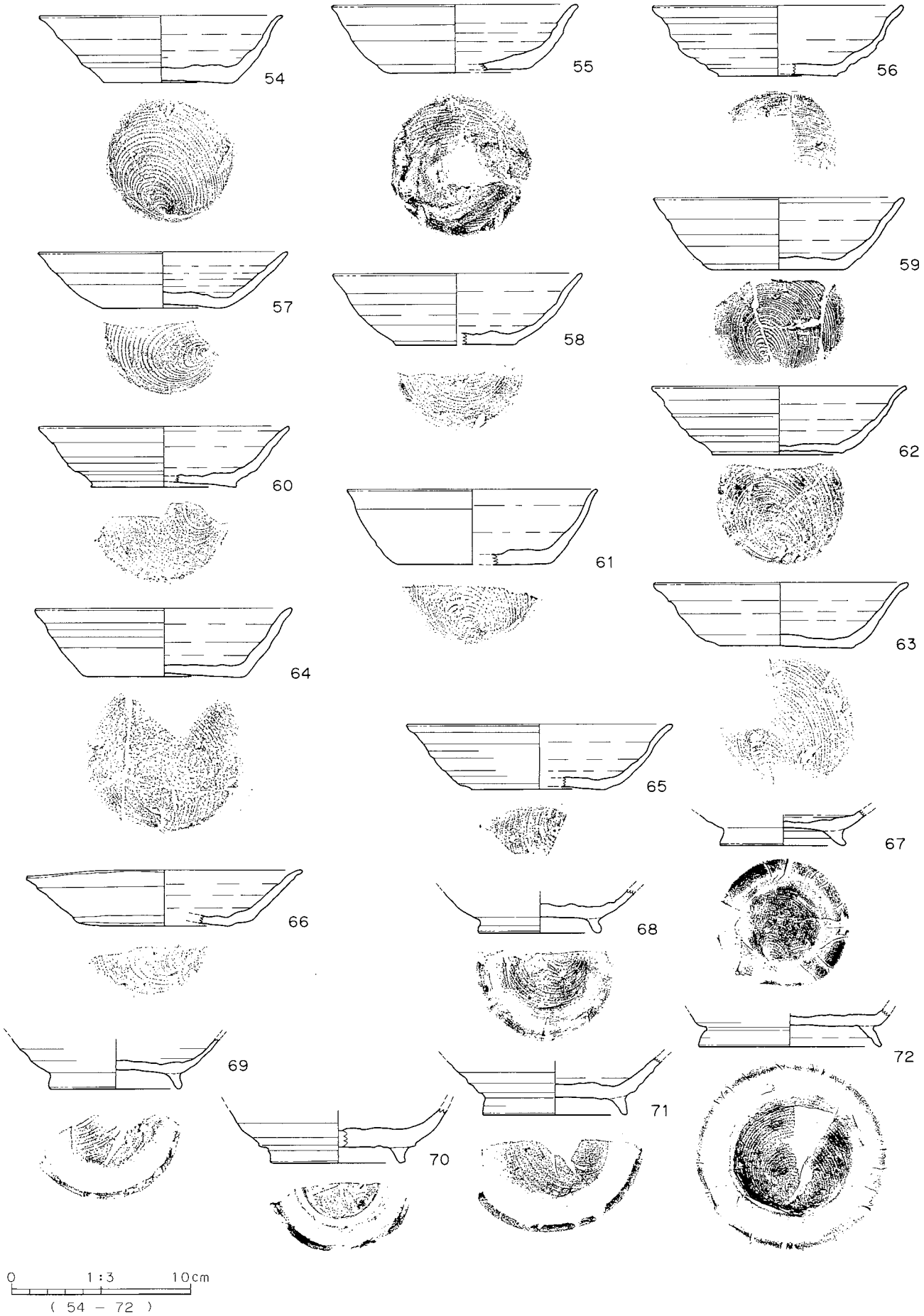
第20図　1～5号住居址遺物実測図



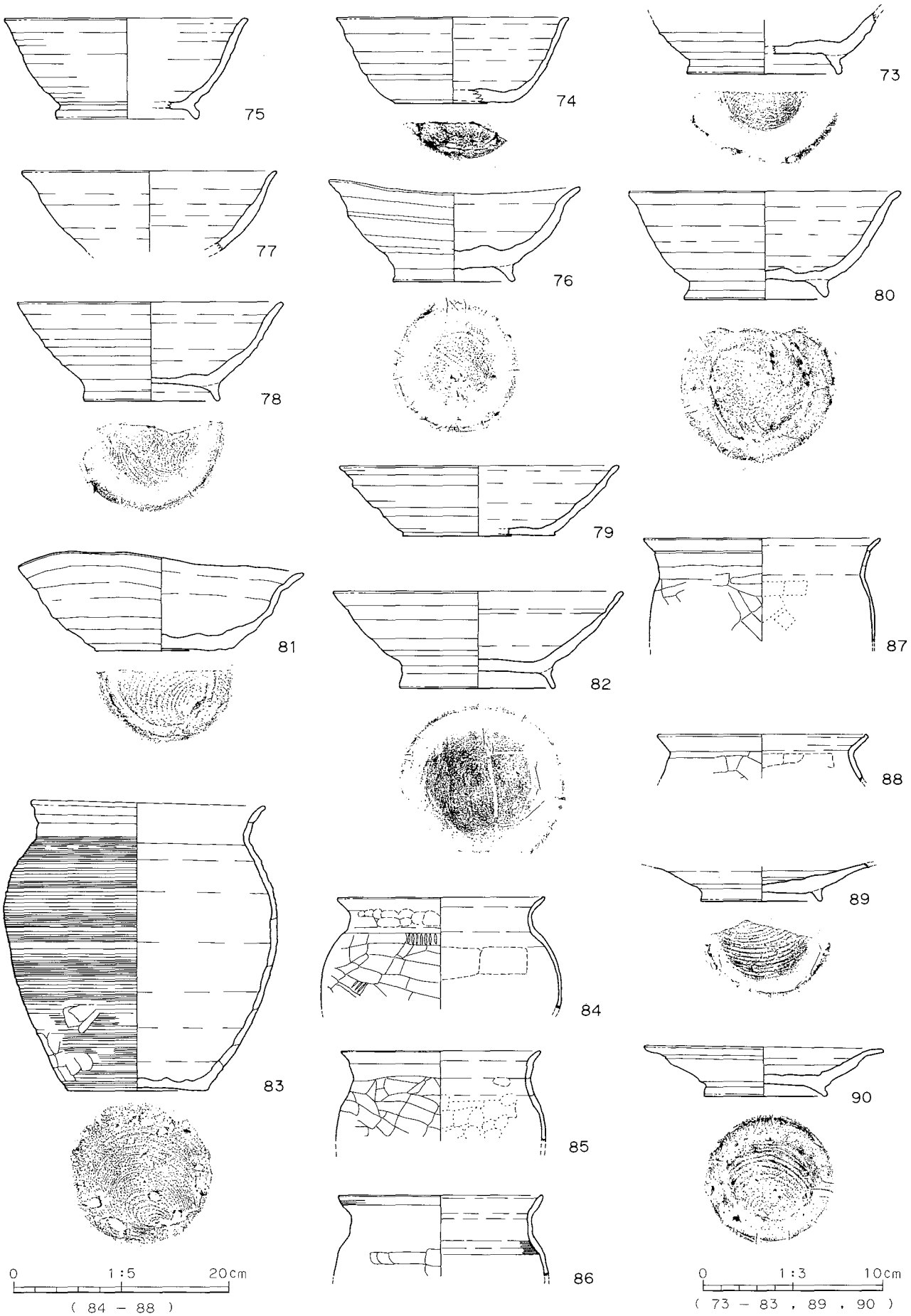
第21図　5・6号住居址遺物実測図



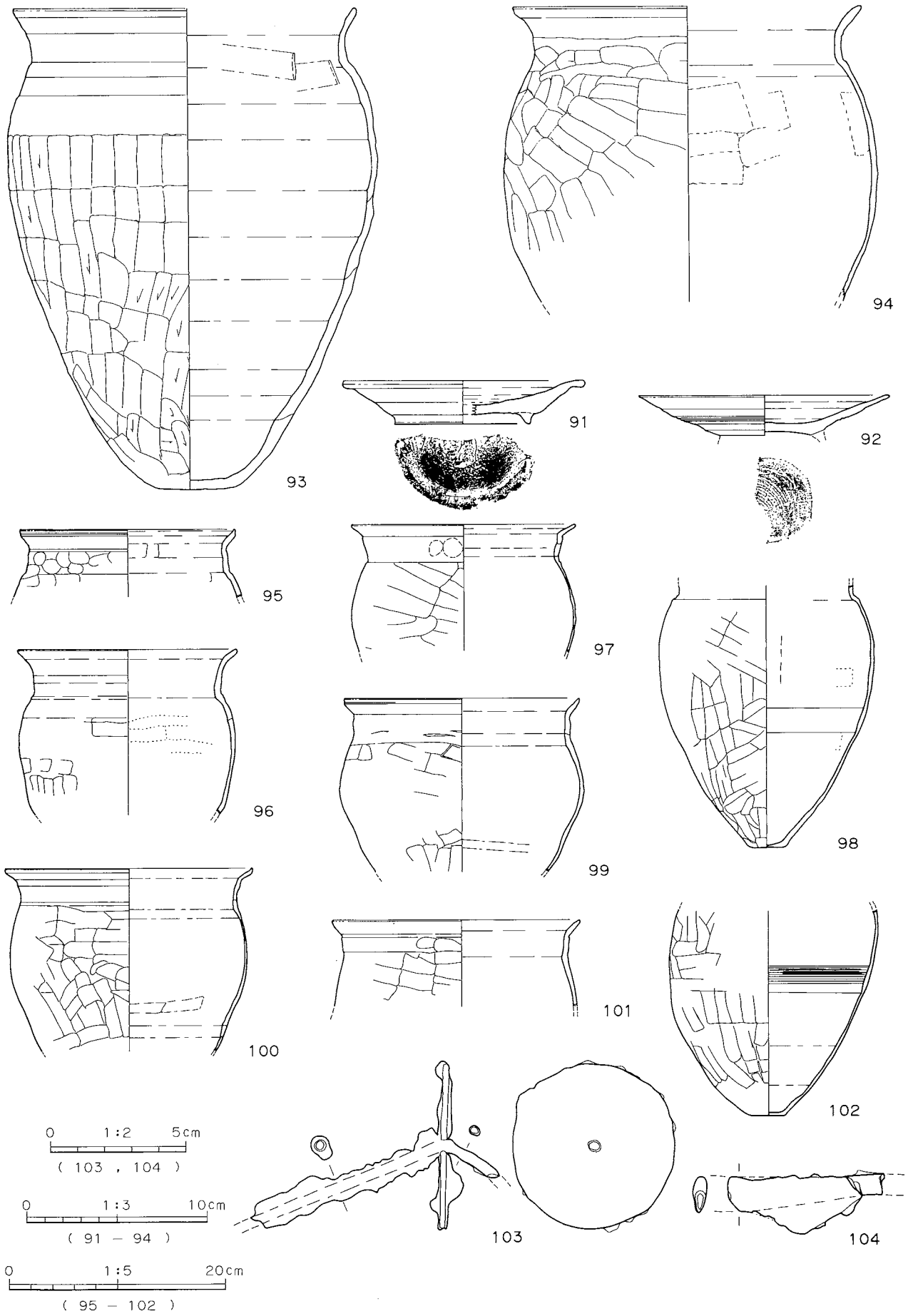
第22図　6～8号住居址遺物実測図



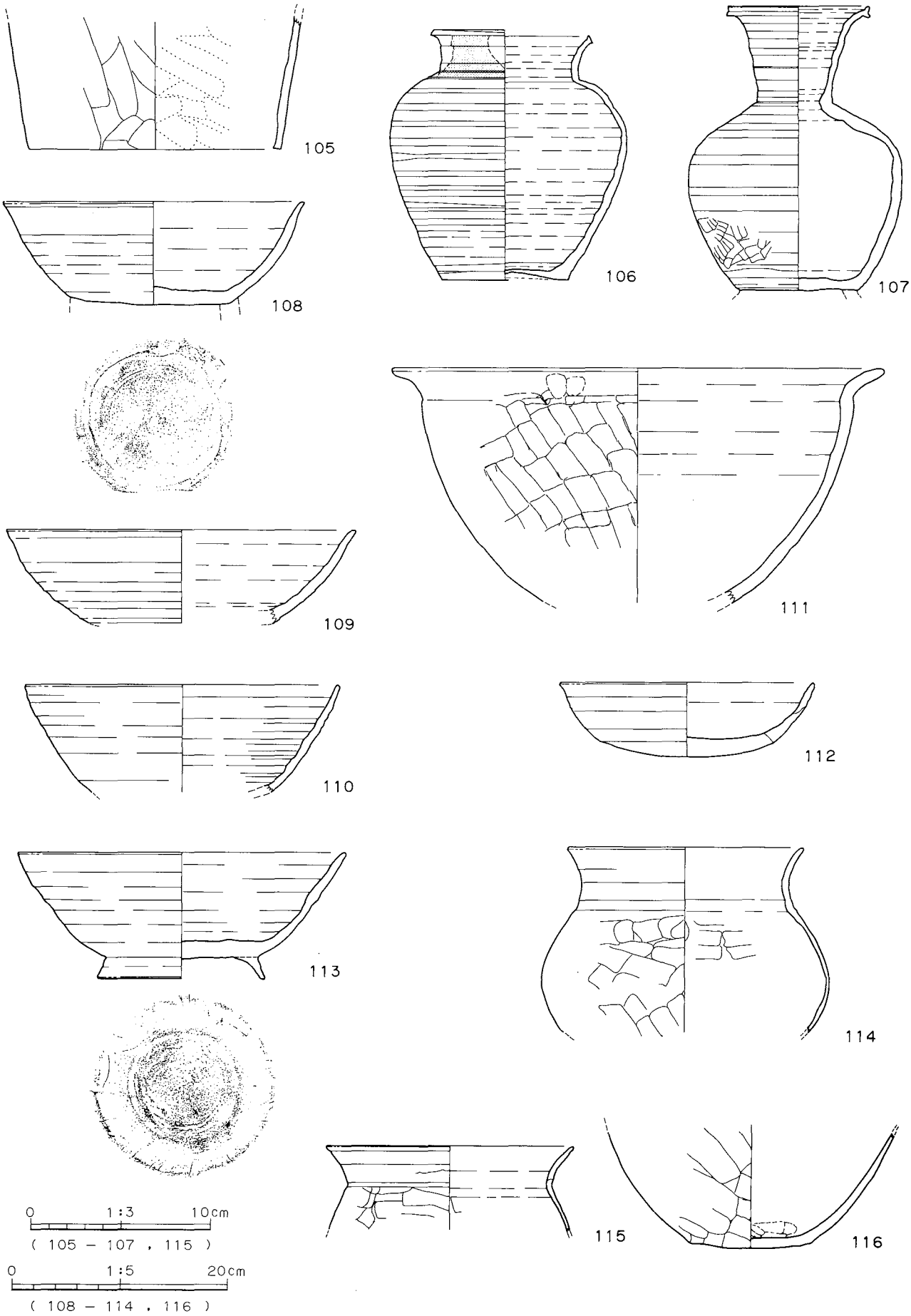
第23図　8号住居址遺物実測図



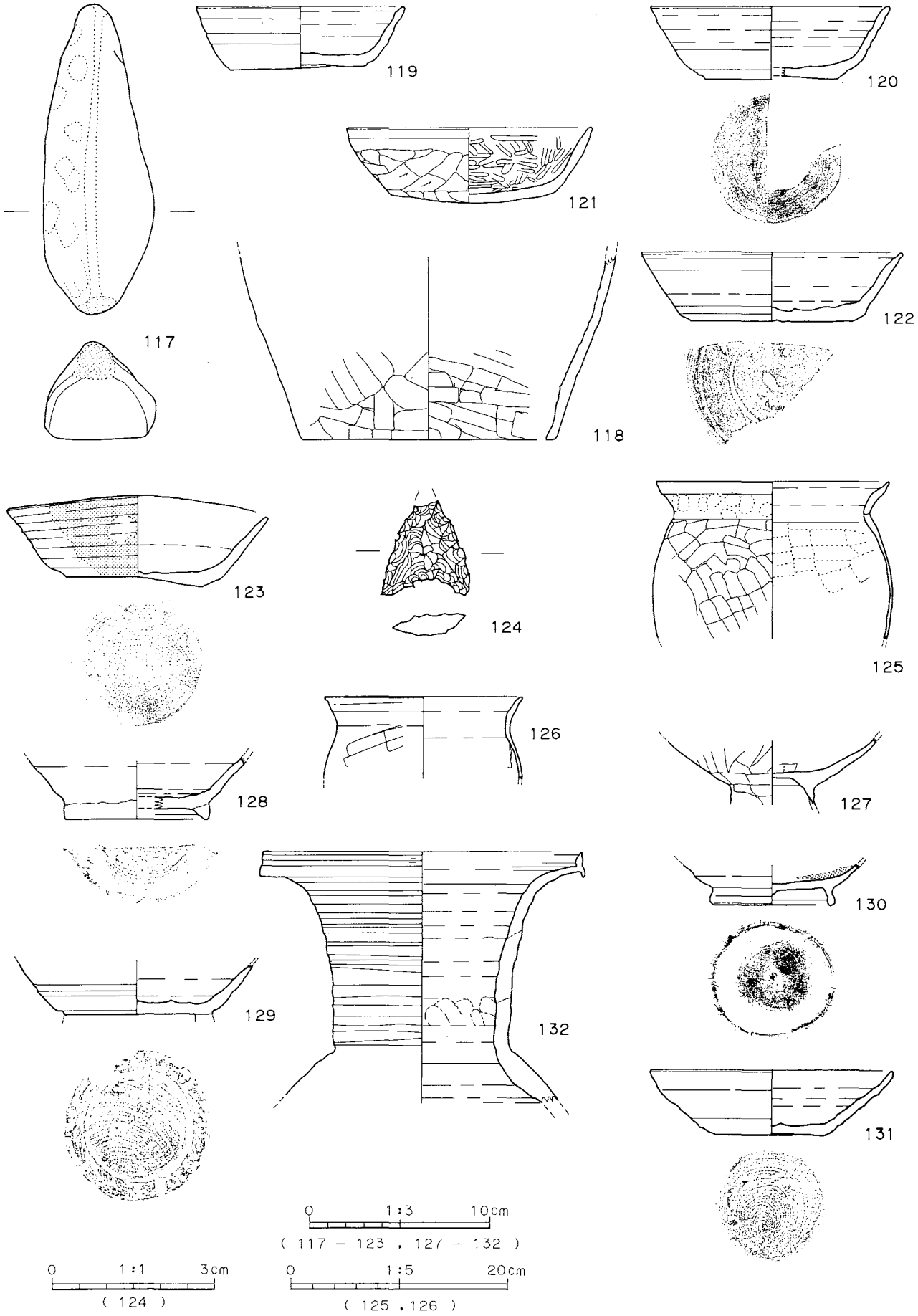
第24図　8号住居址遺物実測図



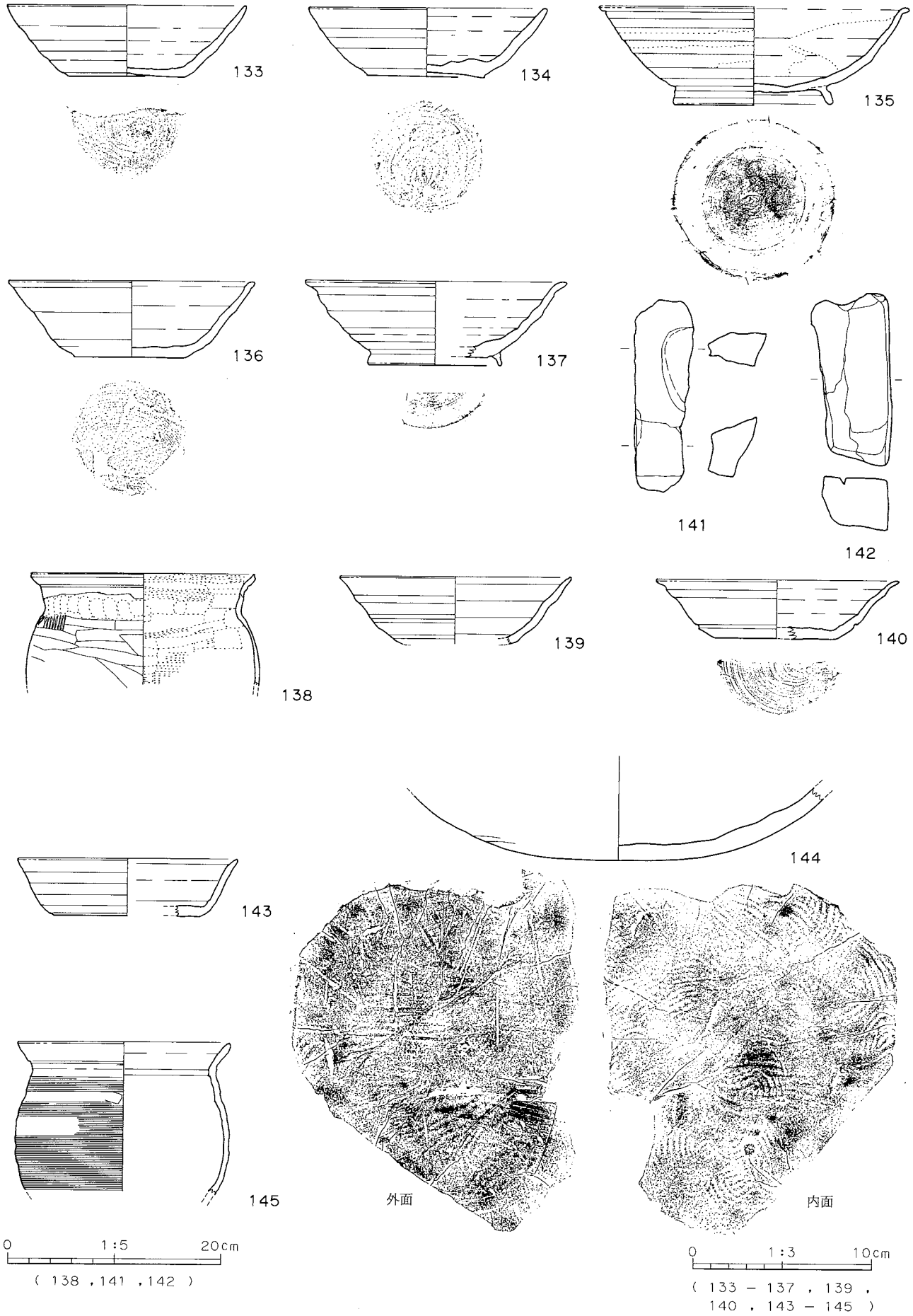
第25図　8号住居址遺物実測図



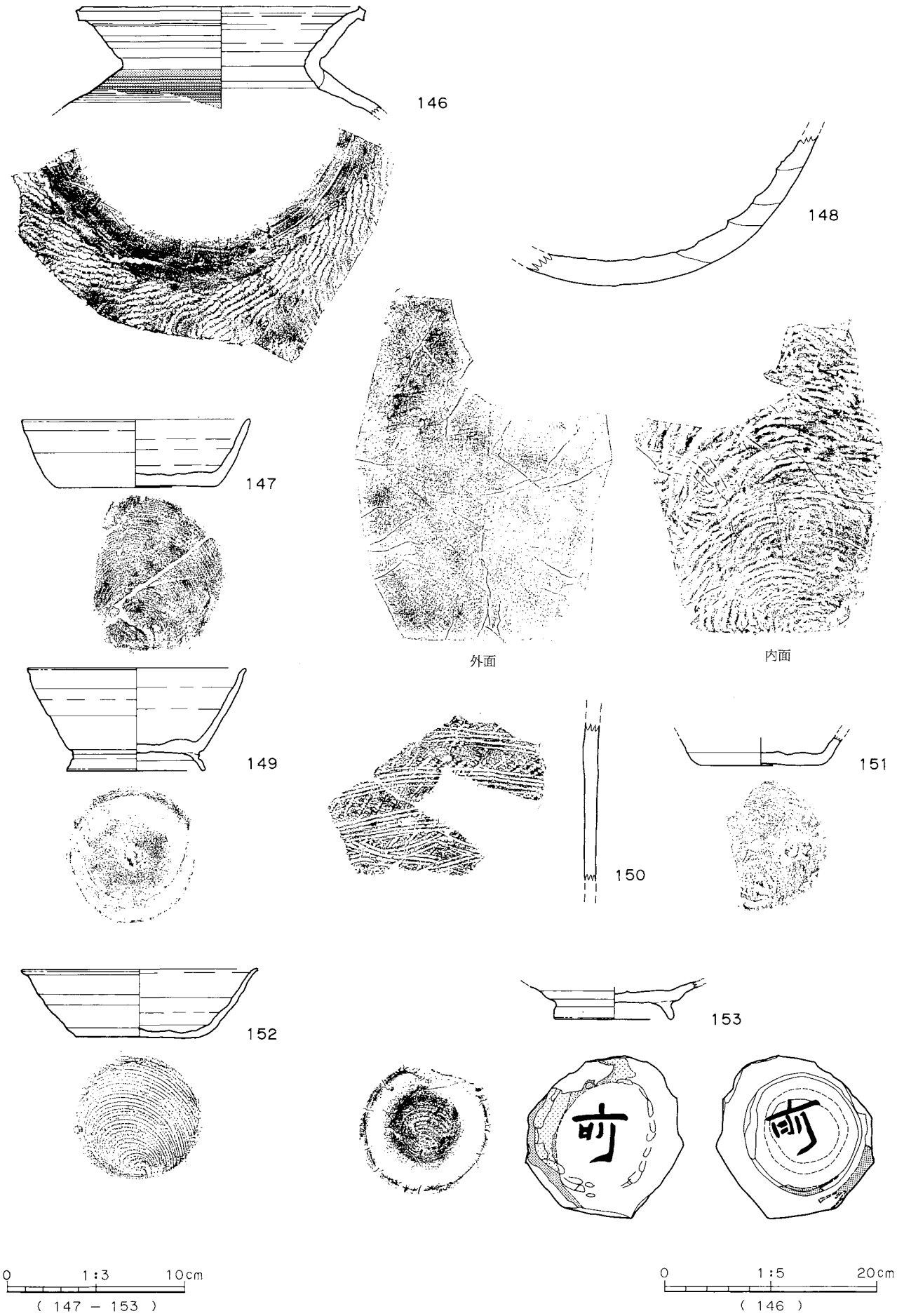
第26図　8～10号住居址遺物実測図



第27図　11号〜13号住居址遺物実測図



第28図　13号・14号住居址　1・2号土坑遺物実測図



第29図　2号・4号・5号土坑グリッド及び一括遺物実測図

下増田下原遺跡全景　空中写真

調査前現況　東側より

調査前現況　南側より

作業風景

縄文住居址と２号土坑

図版2

縄文住居址掘り方

縄文住居址遺物出土状況

縄文住居址遺物出土状況

２号住居址

３号住居址

４号住居址

４号住居址　カマド

４号住居址No.11出土状況

4号住居址掘り方

5号住居址

5号住居址　カマド

5号住居址遺物出土状況

5号住居址No.13出土状況

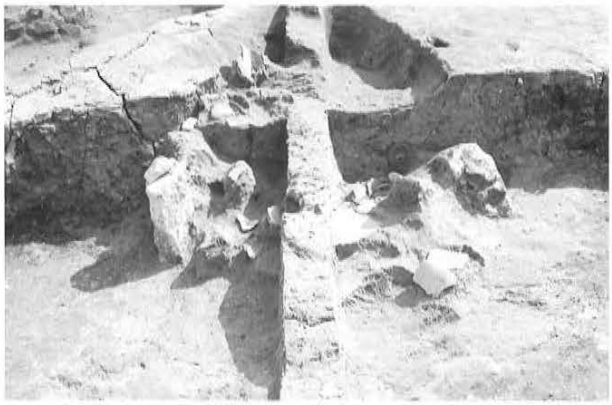
5号住居址No.17出土状況

6号住居址遺物出土状況

6号住居址

図版4

6号住居址掘り方



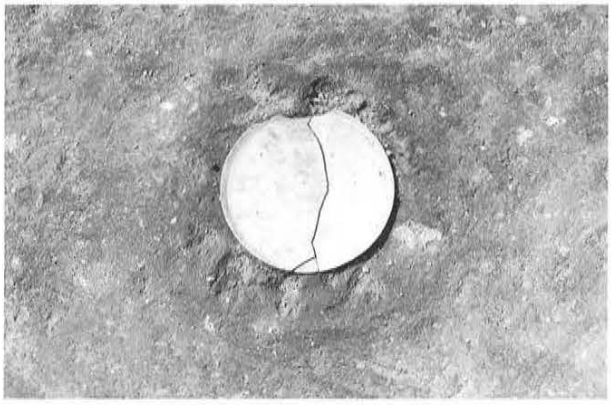
6号住居址　カマドセクション

6号住居址No.34・35・37出土状況

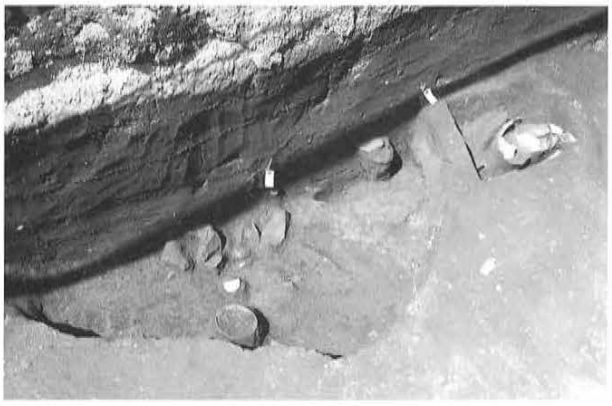
6号住居址　カマド支脚出土状況

6号住居址　カマド

6号住居址No.27・29出土状況



6号住居址No.26出土状況



7号住居址No.42・43・46出土状況

8号住居址遺物出土状況

8号住居址

8・9・10号住居址掘り方　西側より

8号住居址No.93・106・107出土状況

8号住居址No.76・96出土状況

8号住居址No.83他出土状況

8号住居址No.51・55・78・82・91出土状況

8号住居址No.94カマド煙道部の甕

図版6

8号住居址カマド全景

8号住居址カマド全景　焚き口部より

8号住居址カマド掘り方（砂岩の設置状況）

8・9・10号住居址

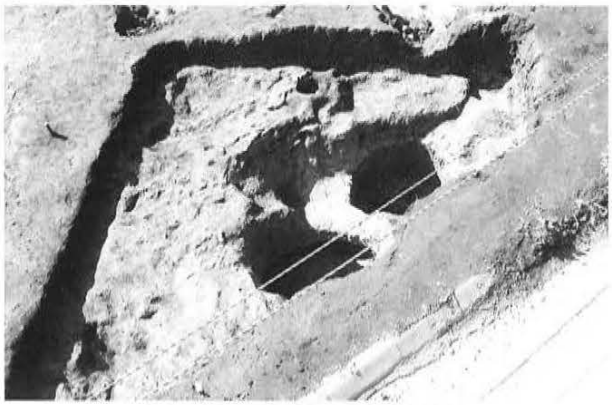
9号住居址カマド

9号住居址No.108・111出土状況

9号住居址カマド焚き口部より

11号住居址

11号住居址掘り方南側より



11号住居址掘り方東側より

12号住居址カマド遺物出土状況

13号住居址遺物出土状況

13号住居址カマドセクション

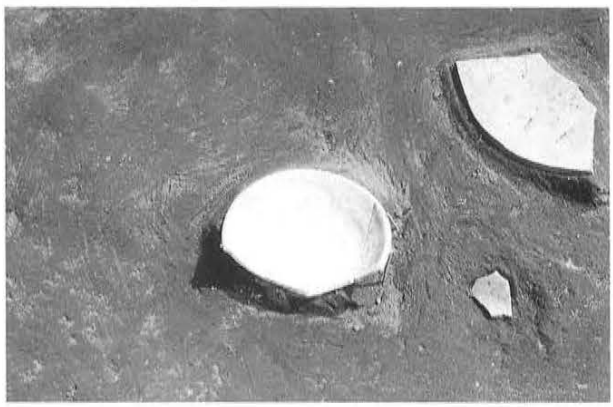
13号住居址カマド遺物出土状況

13号住居址カマド

13号住居址No.133・137出土状況

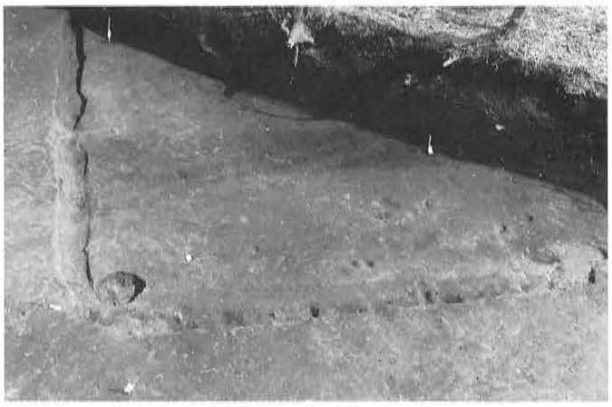
図版8

13号住居址No.132出土状況



13号住居址No.135出土状況

13号住居址No.131出土状況



14号住居址

14号住居址掘り方

14号住居址遺物出土状況

10号柱穴

1号土坑

1号土坑　セクション

2号土坑№146出土状況

2号土坑

4号土坑

5号土坑

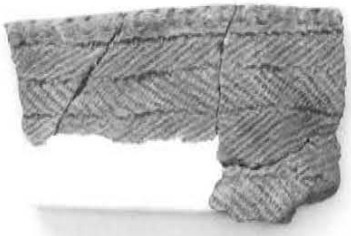
A区全景

掘立柱建物跡と柱穴群

調査完了状況

図版10

1


2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

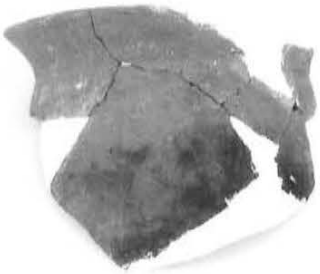
26

27

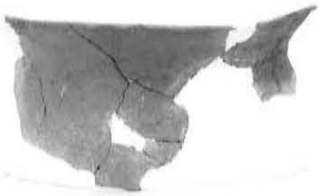
28

29

30


33

31


32

34

41

42

図版12

35

36

37

38

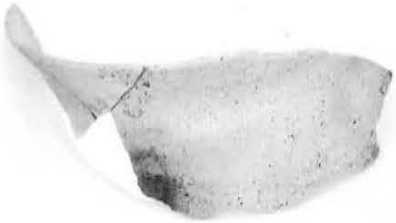
39

40

45

43

44


46

47

48

49

50

51

52

53

54

55

56

57

58

59

60

61

62

63

64

65

66

67

68

69

70

71

72

73

74

78

図版14

75

76

77

79

80

81

82

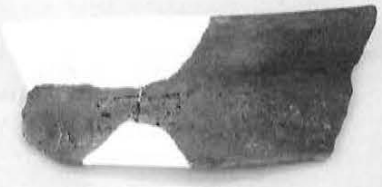
83

84

85

86

87


88

89

90

91

92

93

94

95

96

97

98

99

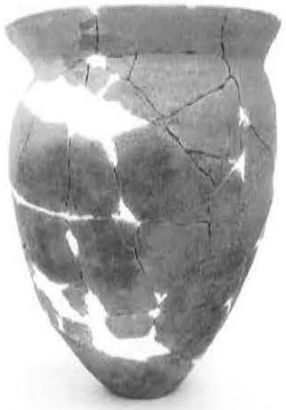
100

101

103

104

図版16

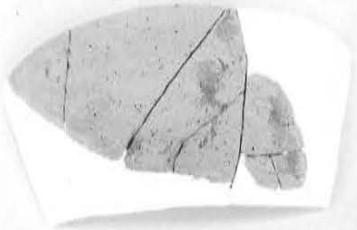

102

105

106

107

109


110

111

108

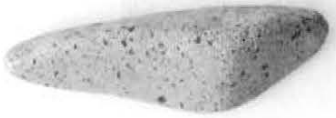
112

113

114

115

116


117

118

120

119

121

122

123

124

125

126

127

128

129

130

131

132

133

134

135

136

図版18

137

139

138

140

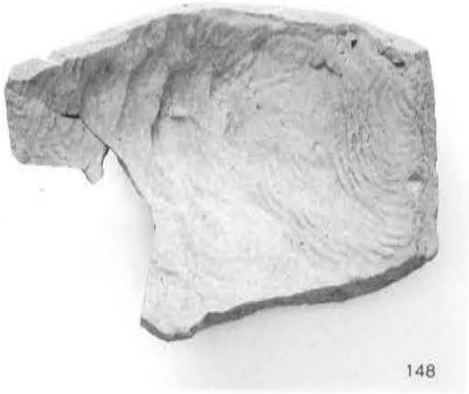
143

144

145

146

147


148

149

151

150

153

152

153

153

抄　　録

フリガナ	シモマスダシモハライセキ
書名	下増田下原遺跡発掘調査報告書
副書名	一般県道　八本松・松井田線特別道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	松井田町下増田下原遺跡調査会報告書
シリーズ番号	1
編著者名	スナガ環境測設株式会社 金子正人
発行	松井田町下増田下原遺跡調査会（松井田町教育委員会事務局内）
発行機関所在地	〒379-0292　群馬県碓氷郡松井田町大字新掘245番地
発行年月日	西暦2001年3月25日
フリガナ遺跡名	シモマスダ　シモハライセキ
所収遺跡名	下増田下原遺跡
フリガナ所在地	グンマケン　ウスイグン　マツイダマチ　オオアザ　シモマスダ　アザシモハラ
所収遺跡所在地	群馬県碓氷郡松井田町大字下増田字下原2674-1番地外

市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査開始	調査終了	調査面積	調査原因
104019		36°19′34″	138°49′27″	1998. 2. 19	1998. 3. 25	2,700m²	道路改良事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
下増田下原遺跡	集落跡	縄文時代前期	縄文住居1軒	前期の土器	深鉢型土器
		奈良・平安時代	住居14軒	土師・須恵	甕　坏　埦　鉄製紡錘車
	土坑	奈良・平安時代	土坑5基	土師・須恵	
	柱穴群	奈良・平安時代	掘立柱建物跡1棟	土師・須恵	
		奈良・平安時代	柱穴群34基	土師・須恵	
	風倒木痕	不明	風倒木痕5基	なし	

14. 調査に参加した方々（順不同・敬称略）

内山恵美子　都丸藤子　中川住一　山崎勘治　三上良夫
大野加代子　武井　健　佐藤小智子　金井俊明　小板橋みち子
小板橋君江　中島作次郎　阪本文吉　半田静子　松坂英子
神戸数子　柳沢尚司　小板橋　守　浦野美奈子　山越梅子
岩井ひで　吉本律子　萩原淳一　増田トヨミ　萩原登巳司
湯本雪江　田村綾子　梅本きゐ子　松本　芳

下増田下原遺跡

2001年3月20日　印刷
2001年3月25日　発行

発行　松井田町下増田下原遺跡調査会
編集　スナガ環境測設株式会社
前橋市青柳町211番地の1
印刷　朝日印刷工業株式会社